

大船渡市立博物館研究報告

# 三陸沿岸地震・津波年表

—東北地方太平洋側における歴史地震・歴史津波—

三陸沿岸地震・津波年表

大船渡市立博物館

1990年3月

大船渡市立博物館

# 三陸沿岸地震津波年表

—東北地方太平洋側における歴史地震・歴史津波—

大船渡市立博物館

## 序

三陸沿岸に生きるものにとって、津波は厳然として存在する潜在  
的かつ恒常的脅威である。そして、直観的に津波を想起させるもの  
が、地震である。

岩手県、或は三陸沿岸部に関する基本的な地震史料集はない。そ  
の作成は、当館では困難であった。次善のものを期して、大船渡を  
含む気仙地域に襲来したと思われる津波と、気仙地域が震動した可  
能性のある地震の年表作成を試みた。もとより、古記録に関しても、  
また地震学に対しても門外の手によるものとなったが過去の地震活  
動の状況を、僅かでも何う手立てとなるのなら、良としたい。

年表作成にあたって、多くの方々からさまざまなご指導、ご援助、  
ご協力を賜わった。厚くお礼申し上げる。

1990年3月

大船渡市立博物館

## 凡 例

1. 本年表は、大船渡市立博物館 地震・津波資料 『岩手県地震・津波年表』をもとに作成した調査研究報告である。
2. 本年表では、3に示す範囲の地震・津波を年代順に列挙した。  
対象となる地震・津波は、現在の岩手県の区域内で、地震による震動の記録が残されているのも、震動した可能性のある地震、岩手県沿岸に襲来、または襲来した可能性のある津波である。
3. 本年表の収録範囲は、次のとおりである。  
地域的範囲 三陸沿岸 青森県東部沿岸～岩手県内～宮城県沿岸  
時代的範囲 西暦799年～1867年（江戸時代末）
4. 本年表は、地震・津波の発生時期（西暦・和暦）、その概要、文献、その他の順に記した。  
西暦は、和暦の記録から「日本暦西暦月日対照表」（野島寿三郎編：1987）により書き換えたものである。また概要のうち、地震・津波の発生・襲来時間は次のようにした。  
丑の（中）刻→2h、酉の上刻→17h、酉の下刻→19h、  
昼九ツ →12h、夜 五ツ→20h、四ツ→10h or 22h  
記録の中に地域が記されている場合はその地名、あるいは参考とした記録が記された地が判明している場合はその地名を、できるかぎり記載した（現在の地名に修正）。但し「郡誌」類で特定の地名が不明な場合はこの限りではない。  
地震についての記録のうち、「地震」「大地震」等の記述は地震と記し、具体的な被害の記述が残るものについてのみ概要を簡易に記した。  
参考文献は、原本的文献、それを引用した文献等、それぞれの史料性を問わず列記した。（ ）は、前記文献を掲載・引用している資料。下記のうち増訂大日本地震史料（大日本地震史料、日本地震史料を含）と新収日本地震史料に収載されている文献はこれを区分、明示した。
5. 年表作成の基本文献として次を用い、これから上記範囲の地震・津波を抜粋し、そのほかに当館収集資料を加えた。  
  
大日本地震史料 1904年 震災予防調査会報告 46 甲 乙  
（復刻版 1973年 思文閣）  
増訂大日本地震史料 第1～3巻  
1941～1943年 文部省震災予防評議会  
（復刻版 1975～1976年 鳴鳳社）  
日本地震史料 1951年 武者金吉  
新収日本地震史料 第1～5巻（他に別巻）  
1981～1988年 東京大学地震研究所
6. 慶長地震津波、安永地震、安政地震津波に関しては、別表を作成した。
7. 当館収集資料については、目録を付した。
8. 巻末には、明治29年三陸地震津波・昭和8年三陸地震津波・チリ地震津波に関する資料を中心に、三陸地方の地震津波の簡易な資料目録を付した。
9. 本誌の編集は、当館学芸員佐藤悦郎が行なった。

## 目 次

序	3
歴史地震・歴史津波年表	5
別 表	
1. 慶長地震津波	95
2. 安永地震	97
3. 安政地震津波	106
年表参考文献	
1. 増訂大日本地震史料一覧	113
2. 新収日本地震史料一覧	113
3. 当館収集文献一覧	116
付：三陸地方地震・津波関係図書及び資料	123
後 記	132

## 歷史地震・歷史津波年表

年 代	文 献		新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 △ 津波規模
	西 暦	和 暦	
799年9月18日	延暦18年8月11日	地震・津波に関する記事の概要は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合同じ県で列挙。2つある場合は2度発生した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生) (地名の「・」は同地域の場合「地方」を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生) 早朝、常陸の鹿島・那加・久慈・多珂に津波。早朝より夕刻まで約15回襲来。地震の有無不明。	常陸 震源不明
839年	承和6・4・一	陸奥度々地震。多くの百姓が恐れ逃げける。	
867年11・16	貞観9・10・13	陸奥大地震。	
869年7・13	貞観11・5・26	夜、陸奥大地震。家屋、城郭、門構などの崩落と倒壊無数。人々が倒れて起き上がれないほどの揺れ。津波襲来し、城下(多賀城?)まで海水流入。溺死者約1000名。最古の発光現象を記録。	三陸沿岸 λ=143 ~145 ° E φ=37.5~39.5° N M=8.3 ± 1/4 (IV) <4>
1088年6・10	寛治2・5・13	20h、宮古で午後8時頃から翌朝まで9回地震。津波午前1時まで3回襲来。	
1257年10・9	正嘉1・8・23	地震があり、野田と久慈(岩手県)に津波襲来? なお、同日関東東南部を震源とする地震あり。	
1407年2・21	応永14・1・5	佐沼・米谷(宮城県)地震。山崩れ、神社・民家に被害多数。秋田・新稿の資料もあるが疑問。同日京都を中心とする地震の記録あり(文保元年1月5日の地震と混同した可能性がある)	関東南部の地震 震源は相模湾内の鎌倉付近。 鎌倉では神社・仏閣に大被害、地割れ 余震続く。
1420年9・7	応永27・7・20	常陸の多賀に津波。4時間に9回襲来。地震の有無不明。	諸国に地震 疑問
1454年12・21	享徳3・11・23	21~23h or 23 ~03h、関東から東北にかけて地震。震動は津波襲来し、人多く取られる。震動は翌年6月まで止まず。	常陸 風津波? 遠地津波?
1455年3・26 1456年1・8	康正1・3・1 11・23	稲井地方(宮城県)地震。稲井地方(宮城県)に津波。*夜、群馬で地震半時。	
1498年9・20	明応7・8・25	登米地方(宮城県)?で地震。同日、東海地方を震源とする地震・津波(明応地震)がありその震動か?	東海地方の地震 紀伊~房総に津波 λ=138.0 ° E φ=34.0° N (D) M=8.2 (IV) <3>

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の場合「地方」を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方」を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)	文献	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1510・9・21	永正7・8・8	登米地方(宮城県)?地震。 同日、畿内に地震。静岡地方に津波の記録があるが、これによるか。	①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1512・一・一	永正9・6・一	登米地方(宮城県)?地震。	*畿内に関する資料略。 ③登米郡史、宮城県気象防災異年表、資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧	摂津・河内の地震 λ=135.6°E φ=34.6°N (B) M=6.5~7.0 (I)
1540・1・7	天文8・11・18	登米地方(宮城県)?地震。	③登米郡史、宮城県気象防災異年表	
1558~1569	永禄年間	登米地方(宮城県)に津波[口碑]。	③神皇年代記(宮城県気象防災異年表)	
1575・1・6	天正2・閏11・24	松島の寒風沢島(塩釜市)に津波[口碑]。 12h,仙台地方地震。	③宮城県誌	
1576・一・一	天正4・閏11・24	岩手県南部に地震。天正2年か? 閏11月はない。	①東藩史稿 ②伊達治家記録 ③宮城県史、宮城県気象防災異年表	
1585~1-1586・2	天正13・一・一	中新田地方(宮城県)地震。	③岩手県南災害表	
1585・6・21	天正13・5・14	本吉地方(宮城県)に津波[口碑]。 天正14年5月23日の津波か。	②中新田町史	地震発生は5月14日(新収史料)
1586・7・9	天正14・5・23	大槌(岩手県)地方に津波。 ペルー・リマ沖の地震津波。 大槌の史料には天正14年5月14日とある。	①宮城県昭和震論誌 ③日本付近の地域毎別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 宮城県史、山田町津波誌、本吉郡誌、気仙沼町史、救荒新策、宮城県海嘯誌、宮城県気象防災異年表	ペルー・リマ沖の津波:津波規模=4 津波の高さはリマで26m、10km内陸まで侵入(日本被害津波総覧)
1587・6・25	天正15・5・10	06h,仙台地方地震。	①東藩史稿 ②伊達治家記録 ③宮城県史、宮城県気象防災異年表	
1595・2・3	文禄3・12・24	02h,登米地方(宮城県)地震。	②登米郡史、宮城県気象防災異年表、錦織村史	
1596・4・3 8・5	慶長1・3・6	夜、登米地方(宮城県)?地震。 7月12日 登米、五所川原・青森で地震。	①俗事日記、平山日記 ②登米郡史	
1598・6・15	慶長3・5・12	釜石に津波。	③釜石市誌	
1608・12・30	慶長13・11・23	仙台海浜に地震。男女50人余死亡。28日か?	②藩祖成蹟(多賀城町誌)、登米郡史	
1609・1・4	慶長13・11・28	仙台海浜に地震。男女1783人死亡。23日か?	②藩祖成蹟	
1611・12・2	慶長16・10・28	09h ~ 三陸地方地震、震害は軽い。 三陸沿岸と北海道東部に大津波。大波が3度襲来、多数の死者や家屋の流出・損壊があった。 ④慶長19年10月28日や元和2年10月28日の異説がある。 別表「慶長地震津波の発生時期」を参照。	①駿府記(九戸地方史・大日本地震史料)、朝野菴園表裏(大日本地震史料)、松前家譜(古地震)、玉露叢(大日本地震史料)・日本災異志・日本地震災凶徴攷、諺談餘録(登米郡史)、維	三陸沿岸・北海道 λ=144.4°E φ=39.0°N (D) M 8.1 (W) <4>

伊達領で死1783人、南部・津軽で人馬死3000余という。鶴住居・大槌・駒越・山田・津軽石で特に被害大きく、岩沼では家屋壊れず流出。北海道でも溺死者多数。海鳴り、潮色異常の記録や、鵜などの大漁の記録あり。陸前高田の今泉・高田・浜田で溺死百余人。

④慶長19年10月28日や元和2年10月28日の異説がある。別表「慶長地震津波の発生時期」を参照。

新前北海道震災年表、刈田郡誌、北海道史(大日本地震史料)宮古由来記(古地震)、山田町津波誌、九戸地方史・釜石市誌三陸沿岸海嘯誌、仙台市史、武蔵六右衛門所蔵古文書、岩手県沿岸大海嘯取調書、真藩史稿(登米郡史、宮城県誌、仙台年表)、宮城県気象防災異年表、本吉郡誌、老翁聞書、聞老遺事(古地震・九戸地方史)、ビスカイノ金銀高採査報告(九戸地方史)宮古市史、大槌市史、本吉郡誌、伊達貞山治家記録、コックス日記、宮城県昭和震論誌(宮城県気象防災異年表、雄勝町史)、大槌記録抄、大槌海嘯略史、東北地方古今伝説(岩手県震災年表)、三陸海嘯史年表、三陸地方津波夷取調報告

②宮城県史、唐桑町史、御三代御書上(本吉郡誌)、伊達治家記録(古地震・九戸地方史・宮城県海嘯誌・三陸大震災史)、築館町史、藩祖成蹟、信牧公御代日記、当家覚書帳(大槌町漁業史)梅狂児聞録(岩手県史・九戸地方史・大槌町漁業史・古地震・山田町津波誌、大槌地方年表、南閉伊郡海嘯記事)、大槌古今伝記(釜石市誌・岩手県郷土史年表)、大槌岩手懸津浪史、奥南見聞録、正法寺文書、米沢雄尊記

③昭和35年5月24日チリ一地震津波調査概報、小本家記録、宮古風土記、古実伝書記(九戸地方史)、古米之覚書事、佐藤留書古米聞書寛之事、大槌古館城内記(九戸地方史・山田町津波誌・大槌地方年表)、大槌古館城内記(九戸地方史・山田町津波誌・大槌地方年表)、大槌古館田来記、大槌支配録、大槌官職記、大槌古今伝記、早池釜神社札(岩手県郷土史年表)、気仙郡海嘯誌、岩手県災異年表、鶴住居小史資料編、震災災害士大誌、岩手縣昭和震災誌、岩手県災異関係行政資料、赤崎村史、米崎村誌、渡里村誌、小友村史、丘田村郷土教育資料、宮古のあゆみ、釜石市誌・年表、下閉伊郡志、上閉伊郡志(九戸地方史)、南部史要(九戸地方史、山田町津波誌)、古新子鑑気仙郡郷土史年表、気仙年代表、岩手県漁業史、海蔵寺縁起、仙台武蔵、伊達政宗記録事蹟考記、佐藤家系譜(九戸地方史)、仙台志料(登米郡誌)、伊達政宗卿伝記史料(仙台年表)、三陸沿岸津波誌本、東北地方とその近海における地震活動、気仙沼市史、気仙沼町誌、宮城県誌、石巻市史、大島誌、重訂宮城県郷土年表、地徳院殿別記(古地震)、大日本地震史料、日本付近の地域毎別の被害地震津波地震の表及震度の分布図日本被害津波総覧、震災予防調査会報告第11号、三陸地方防衛林造成防衛調査報告書、津波観測異常気象報告6002、青森県の地震津波、新編日本被害地震総覧、資料日本被害地震総覧

④伊達政宗記録事蹟考記

仙台地方地震。  
10月21日 仙台地方地震。  
11月26日 仙台地方地震。

慶長18・8・3

年 西 暦	代 和 暦		地震・津波に関する記事の概要 (地名の「・」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇h」は地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 (〇内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの)	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
	年	月・日			
1614・11・29	慶長19	10・28	陸中に大津波。慶長16年の津波か?	別紙	
1615・12・18	元和1	10・28	陸中に大津波。慶長16年の津波か?	別紙	
1616・9・9	元和2	7・28	15h、仙台で城壁・構破損。江戸で有感。津波をとまなかったとされるが、詳細不明。慶長16年の津波と混同?	別紙	仙台 λ=142.0°E φ=38.1°N (D) M=7.0 [II]
1616・12・6	元和2	10・28	陸中に地震・大津波。死者多数。慶長16年の津波か?	別紙	
1625・	寛永2	2・	迫地方山うごく。地震によるか?	③元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	
1627・	寛永4	4・1	関東から東北で地震。 気仙郡・大原(以上岩手県)、米谷・登米・迫(以上宮城県)、弘前・浜松で地震。 寛永4年1月21日か?	②豊凶年表、米谷郷土史年表、登米郡史、宮城県気象災異年表、近世日誌、信教公御代日記、引佐郡誌、都田村年代手鑑、磐田郡誌 ③岩手県郷土史年表、気仙郡郷土史年表、気仙年代表、元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	
1627・3・8	寛永4	1・21	関東(江戸で被害大、死者もでる)から東北で地震。佐沼(宮城県)、上郷(山形県)、佐渡、江戸で地震。	①東武編年要録、江城年録、温故年表、統史愚抄、本朝天文誌、熊谷家年代記、曾根年譜考 ②上郷郷土史、御入国以後大地震考、佐渡災異誌、佐沼郷土史年表 ③新編日本被害地震総覧	江戸 御曲輪大破、詳細不明
1633・11・8	寛永10	10・7	登米地方(宮城県)地震。	②登米郡史	
1633・11・18	寛永10	10・17	19h ~24h、仙台・登米で地震3度。	①東藩史稿 ②伊達治家記録 ③宮城県史、登米郡史、宮城県気象災異年表	
1634・7・13	寛永11	6・18	08~10h、迫地方(宮城県)で地震。	①近世日誌 ②元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	
1640・7・31	寛永17	6・13	陸中(宮古)海岸に津波?被害なし。この日北海道では駒ヶ岳噴火に伴う津波発生。内浦湾沿岸で被害大。津波も震動し、岩木山鳴動する。	①② 略 ③宮古のあゆみ、防災の町、日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図、チリ地震津波調査報告、山田町津波誌、新編日本被害地震総覧、資料日本被害地震総覧	北海道噴火湾。 λ=140.7°E φ=42.1°N <2>
1644・5・8	正保1	4・2	11h、盛岡、江戸で地震。	②江戸幕府日記、雑書	
1644・9・4 10・12	正保1	8・4	14h、盛岡地方地震。 9月12日(20h、24h)地震。	②雑書	
1644・10・18	正保1	9・18	23~03h、夜明 盛岡地方地震。3~4度大きな地震あり。これは秋田本庄を震源とする地震による。 9月19日(20h)も揺れる。 20日(08h、15h)地震。	②雑書 その他秋田に関する文献略。 ③資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧	羽後本庄 λ=140.0°E φ=39.4°N (B) M=6.5 ± [0]

1644・11・17	正保1	10・18	10h、2度、20h、1度 盛岡地方地震。 10月19日2度(22h、24h)地震。 20日(14h)にも地震。 11月10日(11h)地震。	②雑書	
1645・2・13	正保2	1・17	18h、20h、盛岡地方地震。江戸も地震(17h)。 1月19日(12h)盛岡・江戸で地震。	②雑書、御自分日記、江戸幕府日記	
1645・3・9 3・17 4・7 5・2 5・14 6・6 9・19 10・15 11・11 11・16 11・19	正保2	2・2・12	13h、盛岡地方地震。 2月20日(22h)地震。 3月11日(24h)地震。 4月7日(08h)地震。 4月19日(09h)地震。 5月12日(22h)地震。 7月29日(11h)地震。 8月26日(14h)地震のような鳴動。 9月23日(22h)地震。 28日(14h)地震。 10月1日(12h、20h)地震。	②雑書	
1646・4・4 5・14 5・18	正保3	2・19	10h、盛岡地方地震。 3月29日(01h)地震、鳴動。 4月4日(10h)地震。	②雑書	
1646・6・9	正保3	4・26	08h、東北から関東で地震。 盛岡、仙台・迫・白石、江戸で地震。 仙台で城石崩落、構破損など破損多数。白石では石壁・構破損。会津で少々地割れ、日光で東照宮の石垣破損。津波の記事なく、内陸地震か。	②雑書 ①正保録、大獻附書紀、義山公治家記録(宮城県気象災異年表) 續史愚抄、伊達便覧志、東藩史稿(登米郡史) ②片倉代々記、家政実紀、伊達治家記録、御自分日記、江戸幕府日記、近世日誌、年々出来事記、雑書 ③義山公年譜、日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及び震度の分布図、東北地方とその近海における地震活動資料日本被害地震総覧、宮城県史、元和元年ヨリ歳之吉凶留帳 新編日本被害地震総覧	陸前 λ=140.65°E φ=38.1°N (C) M=6.5 ~6.7 [III]
1646・12・28	正保3	11・22	12h、盛岡地方地震。	②雑書	
1647・5・24 10・19	4	4・20	14h、西方で鳴動、後地震。 9月22日(10h)地震。	②雑書	
1648・1・27 4・28	慶安1	1・3	22h、地震、鳴動。 3月6日(02h)地震。	②雑書	
1649・7・10	2	6・1	15h、地震。	②雑書	
1650・2・13	慶安3	1・13	仙台地方地震。	③東藩史稿、宮城郡誌	
1650・2・17 2・28	慶安3	1・17	10h、盛岡地方地震。 1月28日(12h)地震。	②雑書	



年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 は他県、「・」は同じ県で列挙。1 地域の場合「地方を付し た。数字〇〇h は地震発生時間、2 つある場合は2 度発生)	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史 料収録史・資料 ③その他の史・資料 ④内は前記史・資料を引用している文献で⑤にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模 ・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1650・3・3 4・16	慶安3・2・1	15h, 盛岡地方地震。 3月16日(10h) 1度, 20h(2度) 地震。 3月17日(14h) 地震。 3月19日(09h) 地震。 3月23日(22h) 地震。 8月4日(10h) 地震。 24日(02h) 地震。	②雑書	
1651・1・8	慶安3・11・17	12h, 盛岡地方地震。 11月19日(00h) 2度地震。 11月20日(22h) 地震。	②雑書	
1651・一・一	慶安4・一・一	磐城の巨理に津波【口碑】。地震の記録なし。	①宮城県海嘯誌 ③本吉和誌, 宮城県史, 宮城県昭和震嘯誌, 震浪災害土木誌, 岩 手縣昭和震災誌, 宮城県気象災異年表	
1651・2・26 2・27 4・3 5・23 9・19 9・27	慶安4・1・7	20h, 24h, 盛岡地方地震。 1月8日(10h) にも2度地震。 2月13日(02h) 地震。 4月10日(08h) 地震。 7月29日(20h) 地震。 8月18日(16h, 22h) 地震。 9月12日(20h) 地震。 10月2日(02h) 地震。 5日(20h) 地震。 6日(04h) 地震。	②雑書 ②雑書	
1652・5・16 6・13 8・11 9・7 9・20 10・4 11・19 11・28	承応1・4・9	04h, 盛岡地方地震。 5月8日(18h) 震動。 7月8日(9h) 2度地震。 8月5日(00h) 地震。 18日(02h) 地震。 9月2日(10h) 地震。 10月19日(12h) 地震。 28日(08h) 地震。	②雑書 ②雑書	
1653・3・2 3・31 6・10 7・3 7・6 7・27 9・19 9・24 10・6 10・13	承応2・2・3	24h, 盛岡地方地震。 3月3日(11h) 地震。 5月25日(21h) 震動一声。 6月19日(10h) 地震。 22日(08h) 地震。 閏6月3日(10h) 地震。 7月28日(00h) 2度地震。 8月3日(19h) 地震。 15日(04h, 20h, 22h) 地震。 22日(20h) 地震。	②雑書	

10・26		23日(00h) 地震。 9月5日(12h) 地震。	②雑書	
1654・1・4 2・14	承応2・11・16	12h, 盛岡地方地震。 12月27日(02h) 地震。 12月28日(12h) 地震。 05h, 盛岡地方地震。 1月6日(07h) 地震。	②雑書	
2・18 2・22	承応3・1・2	12h, 仙台、江戸で地震。	①東藩史稿 ②榊原藩日記 ③瑞雲院殿御日記, 宮城県史, 宮城県気象災異年表	
1654・3・1	承応3・1・13	14h, 仙台、江戸で地震。	②榊原藩日記 ③瑞雲院殿御日記	
1654・3・15	承応3・1・27	16h?, 盛岡地方地震。	②雑書	
1654・4・26	承応3・3・10	04h, 仙台地方地震。	③瑞雲院殿御日記	
1654・6・21	承応3・5・7	15h, 19h, 盛岡地方地震。仙台(12h, 19h)も揺れる。 同日、江戸でも地震あり。	②雑書, 毎日記, 榊原藩日記 ③瑞雲院殿御日記	
1654・9・16	承応3・8・6	12h, 盛岡、仙台で地震。	②雑書 ③瑞雲院殿御日記	
1654・10・2	承応3・8・22	20h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1654・10・8	承応3・8・28	07h or 19h, 仙台地方地震。	③瑞雲院殿御日記	
1654・11・3	承応3・9・24	18h, 盛岡地方地震。 9月28日(20h) にも地震。 20h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1654・11・5	承応3・9・26	23h, 仙台地方地震。	③瑞雲院殿御日記	
12・18	11・10	08h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1654・12・19	承応3・11・11	12h, 仙台地方地震。 明暦元年4月に上総で地震・津波の記事あり。	②千葉県の資料 略 ③瑞雲院殿御日記	
1654・12・25	承応3・11・17	10h or 22h, 仙台地方地震。	③瑞雲院殿御日記	
1655・5・7	明暦1・4・2	10h, 盛岡地方地震。 2月4日(16h) 地震。 2月7日(04h) 地震。 2月13日(16h) 地震。	②雑書	
1655・10・4	明暦1・9・5	18h へ、八戸、盛岡、仙台、江戸で地震。 八戸では城や家蔵の戸障子破損、御土蔵の壁振落ちる。 翌朝03h ころまで6度震動する。	②雑書, 稲葉氏永代日記 ③瑞雲院殿御日記, 藩日誌, 新編日本被害地震総覧	八戸の震度IVか

年 西曆	代 和曆	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇h」は地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・経度・規模・深さ) 〔〕 地震被害等級 < 津波規模
		3月23日(04h)盛岡、仙台で地震。 3月24日(22h)盛岡、仙台で地震。		
1656・5・17	明曆2・4・23	02h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1656・5・22	明曆2・4・28	12h, 仙台地方地震。 江戸でも地震(10h)、別のものか。	②稲葉氏永代日記 ③瑞雲院殿御日記	
1656・5・28	明曆2・閏4・5	16h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1656・6・25	明曆2・5・3	10h or 22h, 仙台地方地震。	③瑞雲院殿御日記	
1656・6・29	明曆2・5・7	22h ~ 24h, 盛岡、仙台で地震。	②雑書 ③瑞雲院殿御日記	
1656・7・7 9・2 9・24 10・2 10・29	明曆2・5・15 8・	00h, 盛岡地方地震。 7月14日(08h)地震。 8月7日(06h)地震。 15日(06h)地震。 9月12日(09h)地震。	②雑書	
1657・2・12	明曆2・12・29	00h, 仙台、江戸で地震。	②稲葉氏永代日記 ③瑞雲院殿御日記	
1657・3・3 3・17 10・12	明曆3・1・19	22h, 仙台地方地震。 2月3日(20h)地震。 9月5日(19h)震動。	③瑞雲院殿御日記	
1658・3・13 3・25 4・8 4・14	万治1・2・10	20h, 盛岡地方地震。 2月22日(10h)地震。 3月6日(01h)地震。 12日(19h)地震。 13日(19h)地震。	②雑書	
1658・5・5	万治1・4・3	20h, 盛岡地方地震。日光、江戸も地震。	①蔵有院實紀 ②雑書, 淡輪四郎兵衛記録, 東照宮修宮年録(日光社家御番所日記) ③資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧	日光 日光に軽微な被害
1658・5・20	万治1・4・18	02h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1658・7・2	万治1・6・2	22h, 盛岡、仙台で地震。	②雑書 ③瑞雲院殿御日記	
1658・11・2	万治1・10・7	14h, 盛岡地方地震。	②雑書	

1659・1・4 2・14	万治1・12・12	11h, 盛岡地方地震。 閏12月23日(12h)地震。	②雑書	
1659・3・4 3・8	万治2・1・11	10h, 22h, 仙台地方震動。 1月15日(06h)地震。	③瑞雲院殿御日記	
1659・4・21	万治2・2・30	10h, 仙台地方地震。 岩代(福島県南)、下野(栃木県北)に被害をもたらした地震によるもの。 江戸も強く揺れる。	①蔵有院實紀 ②家政美紀, 江戸幕府日記, 塩原温泉誌, 塩原風土記, 栃木県温泉誌 ③瑞雲院殿御日記, 資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧	岩代・下野 λ=139.8° E φ=37.1° N (B) M=6¼~7.0 [I]
1660・6・27	万治3・5・20	08h, 仙台地方地震。	③瑞雲院殿御日記	
1660・7・9	万治3・6・2	15h, 仙台地方地震。 *小田原で地震(13h)。	②稲葉氏永代日記 ③瑞雲院殿御日記	
1660・8・12	万治3・7・7	昼, 仙台地方地震。	③瑞雲院殿御日記	
1660・9・7	万治3・8・3	昼夜, 仙台地方地震。 15回のうち4回強く揺れた。 8月4日(10h or 22h)地震。 5日(20h, 夜半)地震。	③瑞雲院殿御日記	
1661~1673	寛文年中	気仙郡(岩手県)大津波。 小友村只田を越し、米が崎へ押帰す[口碑]。	③古新筆鑑	
1661・3・2 3・14 3・20 4・18 4・24 5・18	寛文1・2・2	13h, 盛岡地方地震。 2月14日(20h)地震。 20日(06h)地震。 3月19日(01h)地震。 25日(20h)地震。 26日(22h)地震。 4月20日(12h)地震。	②雑書	
1661・7・7	寛文1・6・11	17h, 盛岡、江戸で地震。	②雑書, 御白分日記(酒井家編年史料稿本)	
1661・8・7 11・21	寛文1・7・13	20h, 盛岡地方地震。 9月30日(04h)地震。	②雑書	
1662・5・16 6・9	寛文2・3・28	04h, 盛岡地方2度地震。 4月23日(02h)地震。	②雑書	
1662・6・17	寛文2・5・1	追(宮城県)地方地震。宮家破損、地割れ。 津波も地震 同日琵琶湖西岸を震源とする大地震あり。別のものか?	①平山日記 その他略 ②略 ③元和元年ヨリ歳之吉凶留帳 新編日本被害地震総覧	花折断層による λ=135.9° E φ=35.2° N (B) M=7¼~7.6 (III)
1662・8・4	寛文2・6・19	17h, 盛岡地方地震。 鉾子に津波?	②雑書, 鉾子郷土史年表	

年 西 曆	代 和 曆	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合1地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの ②雑書	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1662・10・20	寛文2・9・9	南部領(大槌・山田)で地震、津波? 詳細不明。	①東北地方古今凶難誌(岩手県災異年表) ③防災の町、津波と防災、大槌町漁業史、山田町津波誌、岩手県災害関係行政資料、日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図、宮古のあゆみ	
1662・12・18 12・26	寛文2・11・8	04h, 盛岡地方地震。 11月9日(15h)地震。 16日(22h)地震。	②雑書	
1663・2・26 4・15 4・21	寛文3・1・19	00h, 盛岡地方地震。 3月8日(08h)地震。 14日(07h)地震。	②雑書	
1663・8・17	寛文3・7・15	02h, 盛岡北方突喝。 城・人家の戸簾子震動。 城の簾子は14hから鳴り始まり00hまで止まず。 この日有珠山の噴火あり。	①岩手縣誌資料 有珠山噴火に関する資料 略 ②有珠山噴火に関する資料 略 ③岩手県郷土史年表	
1663・10・27 11・13 11・18	寛文3・9・27	16h, 盛岡地方地震。 10月14日(07h)2度地震。 19日(09h)地震。	②雑書	
1663・11・20	寛文3・10・21	22h, 盛岡、迫(宮城県)で地震。	②雑書 近世日誌 ②元和元年ヨリ蔵之吉凶留帳	
1665・4・4	寛文5・2・19	06h, 盛岡地方2度地震。	②雑書	
1665・11・2 11・15	寛文5・9・25	23h, 八戸地方地震。 10月9日(09h or 21h)2度地震。	②八戸藩日記	
1666・6・14	寛文6・5・12	08h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1666・9・14	寛文6・8・16	09h, 盛岡、弘前で地震。	②雑書, 御日記	
1666・10・5 11・17 12・27	寛文6・9・7	14h, 盛岡地方地震。 10月21日(06h)地震。 22日(18h)地震。 24日(04h)地震。 12月2日(03h)盛岡地方地震。震動続く。 3日(17h)震動があり、20h地震、夜中時々震動。	②雑書	

1667・1・7	寛文6・12・13	21h, 盛岡地方震動。	②雑書	
1667・-・-	寛文7・-・-	登米地方地震。	③登米郡史	
1667・1・30 3・30 4・22	寛文7・1・7	04h, 盛岡地方地震。 閏2月6日(08h)地震。 29日(09h)地震。	②雑書	
1667・7・13 8・13	寛文7・5・22	24h, 盛岡地方地震。江戸にも地震あり。 6月24日(18h)盛岡地方地震。	②雑書, 毎日記	
1667・8・21	寛文7・7・2	若柳地方(宮城県)で地震。 7月3日の地震か?	②築館町史 ③若柳年代表(栗原郡誌)	
1667・8・22	寛文7・7・3	10h, 盛岡、八戸・弘前で地震。 八戸では藩士邸宅、商家建物の破損大。震動続く。 7月6日(21h)盛岡で地震。	①八戸藩史料 ②雑書, 御日記, 津野家紀, 八戸藩日記 ③日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧, 東北地方とそ の近海における地震活動	八戸 λ=141.6°E φ=40.6°N (C) M=6.0~6.4
1667・9・7	寛文7・7・19	16h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1667・9・8 9・10 9・29	寛文7・7・20	19h, 盛岡地方震動。 7月22日(22h)地震。 24日(22h)地震。 8月12日(17h)地震。	②雑書	
1668・4・5	寛文8・2・24	14h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1668・4・24	寛文8・3・13	盛岡地方地震。	②雑書	
1668・5・2	寛文8・3・21	03h or 15h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1668・5・10	寛文8・3・29	14h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1668・6・12	寛文8・5・3	八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1668・6・27 7・1	寛文8・5・18	01h, 盛岡地方地震。 5月22日(15h)地震。	②雑書	
1668・8・28	寛文8・7・21	17h, 仙台・迫(宮城県)、盛岡・江刺、弘前、江戸で地震。 仙台城の石垣広範囲に崩れ、膨出する。 迫では道路の地割れ、家屋の破損があり、以後4日間 揺れ続く。 江刺の記録には28日とある。 盛岡では7月23日(02h)にも地震。	①蔵中日記, 青山公治家記録(宮城県気象災異年表), 東藩史稿 国史館日録 ②雑書, 御日記, 近世日誌, 三浦家乗, 玄徳公済美録 ③倉沢内村入義右衛門留帳, 宮城県史, 源貞氏耳袋, 日本付近の 地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図, 東北地方 とそとの近海における地震活動, 登米郡史, 資料日本被害地震総 覧, 新編日本被害地震総覧, 元和元年ヨリ蔵之吉凶留帳	仙台 M=5.9
1668・9・18	寛文8・8・12	18h, 盛岡地方地震。	②雑書	

年 西 曆	代 和 曆	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付し」た。数字〇〇h,は地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1668・10・11	寛文8・9・6	02h,盛岡地方地震。	②雑書	
1668・10・15	寛文8・9・10	14h,盛岡、弘前地震。	②雑書, 御日記	
1668・10・29	寛文8・9・24	07h,盛岡地方地震。 9月27日(02h)も地震。	②雑書	
1668・11・10	寛文8・10・6	20h,盛岡、八戸地震。	②雑書, 八戸藩日記	
1668・11・28	寛文8・10・24	15h,盛岡地方地震。	②雑書	
1669・2・23	寛文9・1・23	22h,八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1669・6・6 6・20 7・27	寛文9・5・8	22h,盛岡地方地震。 5月22日(07h,09h)地震。 6月30日(12h)地震。	②雑書	
1669・8・6	寛文9・7・10	17h,盛岡、弘前地震。	②雑書, 御日記	
1669・8・31 11・3 11・21	寛文9・8・5	14h,盛岡地方地震。 10月10日(22h)地震。 29日(15h)地震。	②雑書	
1670・-・-	寛文10・-・-	前沢(岩手県)地方地震。	②前沢町白山佐藤家古記録	
1670・3・11	寛文10・1・20	11h,盛岡地方地震。	②雑書	
1670・4・24	寛文10・3・5	22h,盛岡、弘前地震。	②雑書, 御日記	
1670・6・2	寛文10・4・15	10h,盛岡地方地震。	②雑書	
1670・6・22	寛文10・5・5	12h,盛岡地方3度地震。 越後村上の地震による。 新潟県上川4万石で百姓家503軒禿死13人。 弘前・佐渡・江戸も震動。	②雑書, 新穂村史, 横越島日事記, 御日記, 榊原藩日記, 毎日記 ③新編日本被害地震総覧	越後村上 λ=139.4°E φ=37.7°N (C) M=6¼
1670・8・31 9・4	寛文10・7・16	08h,盛岡地方地震。 7月20日(08h)地震。	②雑書	
1670・12・19	寛文10・11・8	06h,盛岡、弘前、江戸で地震。迫(宮城県)では地震3度。	①殿中日記, 御徒方萬年記, 国史編日録 ②雑書, 近世日誌, 毎日記, 御日記, 榊原藩日記 ③元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	
1671・2・21	寛文11・1・12	迫(宮城県)地方翌13日(08h)まで地震。	②近世日誌 ③元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	

1671・3・6	寛文11・1・25	05h,盛岡地方地震。 1月26日(20h)も地震。	②雑書	
1671・4・15 5・27	寛文11・3・6	20h,盛岡地方地震。 3月8日(19h)地震。 4月19日(11h)地震。	②雑書	
1671・-・-	寛文11・8・-	06h ~20h,花巻地方地震。50~60度揺れる。 町屋10軒倒壊、庇落下多数。	②花印 ③新編日本被害地震総覧	花巻
1671・9・11	寛文11・8・9	20h,盛岡、弘前で地震。 8月12日(11h,12h)盛岡地方地震。	②雑書, 御日記	
1671・11・24	寛文11・10・23	南部に津波。	②雄勝町史	
1672・3・17 5・12	寛文12・2・18	16h,盛岡地方地震。 4月15日(18h)地震。	②雑書	
1672・5・20	寛文12・4・23	12h,盛岡、弘前地震。	②雑書, 御日記	
1672・6・29 7・3 7・18 7・23 9・14 10・10	寛文12・6・5	14h,盛岡地方地震。 6月9日(00h)地震。 10日(08h)地震。 14日(15h)地震。 24日(15h)地震。 29日(15h)地震。 7月23日(06h)地震。 8月20日(16h)地震。	②雑書	
1672・12・20	寛文12・11・2	14h,盛岡地方地震。江戸(12h)でも地震。	②雑書, 御日記	
1672・12・30	寛文12・11・12	夜半過ぎ, 盛岡地方震動。	②雑書	
1673・2・20	延宝1・1・4	南部藩で地震。1月6日、7日も揺れる。	②岩手県郷土史年表	
1673・3・19	延宝1・2・1	花巻地方地震。	②花巻年契	
1673・8・7 10・15	延宝1・6・25	23h,盛岡地方地震。 9月6日(07h)地震。	②雑書	
1674・3・14 3・18	延宝2・2・7	07h,盛岡地方地震。 2月11日(15h)盛岡地方地震。	②雑書	
1674・4・15	延宝2・3・10	08h,八戸地方地震。 城の蔵壁破壊、諸士屋敷・町屋破壊多く、南宗寺で御 玉屋・石塔・石灯籠倒れる。 弘前、盛岡、角館、迫(宮城県)、江戸も揺れる。	①八戸藩史稿 ②雑書, 近世日誌, 八戸藩日記, 奥南酒古集, 北家御日記, 御日記「江戸/津軽」, 稲葉氏永代日記 ③日本付近の地域域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 東北地方とその近海における地震活動, 新編日本被害地震総覧 資料日本被害地震総覧, 元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	八戸 λ=141.6°E φ=40.6°N (C) M=6.0
1674・5・31	延宝2・4・26	12h,盛岡地方地震。	②雑書	

年 西 曆	代 和 曆	地震・津波に関する記事の概要 は他県、「・」は同じ県で発生。1地域の場合「地方を付し た。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生） (地名の「・」は「・」は同じ県で発生。1地域の場合「地方を付し た。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生）	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史 料収録史・資料 ③その他の史・資料 (○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの ・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模 ・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1674・6・14	延宝2・5・11	12h,盛岡、弘前地震。	②雑書、御日記	
1674・6・29	延宝2・5・26	12h or 24h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1674・7・1	延宝2・5・28	20h 盛岡地方地震。	②雑書	
1674・7・11	延宝2・6・8	08h,八戸地方地震。 6月10日(14h) も地震。	②八戸藩日記	
1674・7・12 8・7	延宝2・6・9	07h,盛岡地方地震。 7月6日(07h) 地震。	②雑書	
1674・8・9	延宝2・7・8	09h,盛岡、弘前で地震。	②雑書、御日記	
1674・8・11	延宝2・7・10	15h,盛岡、角館で地震。	①角館火災地震年譜 ②雑書、北家御日記	
1674・8・18	延宝2・7・19	11h,盛岡、八戸で地震。	②雑書、八戸藩日記	
1674・8・21	延宝2・7・22	16h,盛岡地方地震。	②雑書	
1674・8・24	延宝2・7・25	10h,八戸地方2度地震。	②八戸藩日記	
1674・8・25	延宝2・7・26	11h,盛岡地方地震。	②雑書	
1674・10・6	延宝2・9・7	08h,八戸・弘前で地震。	②八戸藩日記、御日記	
1674・12・5 12・28	延宝2・11・8	23h,盛岡地方地震。 12月2日(04h) 盛岡地方地震。	②雑書	
1675・1・1	延宝2・12・6	07h,盛岡、弘前で地震。	②雑書、御日記	
1675・1・29	延宝3・1・4	08h,盛岡、弘前、江戸で地震。 1月6日(夜中)盛岡地方地震。 1月7日(13h) 盛岡地方地震。	②雑書、御日記、稲葉氏永代日記	
1675・2・25 2・28	延宝3・2・1	23h,盛岡地方地震。 2月4日(04h) 盛岡、角館で地震。	①角館火災地震年譜 ②雑書	
1675・4・4	延宝3・3・10	朝、八戸地方地震。諸士家屋、町屋に被害。 延宝2・2・10の地震か?	①八戸藩史稿 ②奥南温土集 ③日本付近の地域海城別の被害地震津波地震の表及び震度の分布 図、東北地方とその近海における地震活動、資料日本被害地震 総覧、新編日本被害地震総覧	八戸 延宝2年3月10日の地震か?
1675・7・20	延宝3・5・28	八戸地方地震。	①八戸藩史稿、八戸藩史料	

1675・7・27 9・12 9・20	延宝3・6・5	17h,盛岡地方地震。 7月23日(12h) 地震。 8月1日(24h) 地震。	②奥南温土集 ③資料日本被害地震総覧	
1675・9・29	延宝3・8・10	10h,盛岡、弘前で地震。	②雑書、御日記	
1675・10・2	延宝3・8・13	02h 盛岡地方地震。	②雑書	
1675・11・28	延宝3・10・12	10h,盛岡、八戸、江戸で地震。	②雑書、八戸藩日記、楠原藩日記	
1675・12・1	延宝3・10・15	夜中、盛岡地方地震。	②雑書	
1675・一・一	延宝3・12・一	南部藩で地震。	②津軽家紀	
1676・一・一	延宝4・1・一	米谷(宮城県)地方地震。	②米谷郷土史年表	
1676・2・15 3・1	延宝4・1・2	00h,盛岡地方地震。 1月17日(15h) 地震。	②雑書	
1676・3・4	延宝4・1・20	22h,追(宮城県)地方地震。	②近世日誌 ③元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	
1676・3・12	延宝4・1・28	23h,盛岡、角館、弘前で地震。	①角館火災地震年譜 ②雑書、北家御日記、御日記	
1676・3・16	延宝4・2・2	12h,盛岡、角館で地震。	①角館火災地震年譜 ②雑書、北家御日記	
1676・3・20	延宝4・2・6	04h,盛岡地方地震。	②雑書	
1676・4・24	延宝4・3・12	夜、南部藩沿岸に津波。民家20軒流出。	②津軽家紀	
1676・5・6 5・7	延宝4・3・24	08h,盛岡、弘前で地震。 盛岡は以後数度揺れる。 3月25日(19h) 盛岡地方地震。	②雑書、御日記	
1676・5・24	延宝4・4・12	22h,盛岡、弘前で地震。	②雑書、御日記	
1676・5・27	延宝4・4・15	11h,盛岡地方地震。	②雑書	
1676・一・一	延宝4・6・一	米谷(宮城県)地方地震。	②米谷郷土史年表	
1676・8・1	延宝4・6・22	10h,盛岡、弘前、追(宮城県)で地震。 盛岡は、6月23日(14h) も地震。	②雑書、御日記、近世日誌 ③元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	
1676・8・9	延宝4・6・30	03h,盛岡、弘前で地震。	①津軽藩日記 ②雑書、御日記	

年 西 暦	年 和 暦	代	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付し」は他県、「」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付し」は他県、「」は同じ県で列挙。2つある場合は2度発生)。	文献	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1676・10・8	延宝4・9・1		19h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1676・一・一	延宝4・10・一		水戸・磐城に津波。人畜溺死、屋舎流出。 延宝5・10・9の地震・津波か?	①宮城県昭和地震誌 素平年表(宮城県気象防災年表, 岩手県史), 宮城県史, ③日本付近の地域海城別の被害地震津波の表及び震度の分布 図, 鶴住居小史資料編, 日本気象資料, 資料日本被害地震総覧 気仙沼市史, 新編日本被害地震総覧	
1676・11・18	延宝4・10・13		15h, 盛岡、弘前、江戸で地震。	①敵有院舊記 ②雑書, 御日記, 稲葉氏永代日記	
1677・一・一	延宝5・一・一		三陸沿岸に津波。	③重訂宮城県郷土史年表	
1677・2・25	延宝5・1・24		八戸地方地震2度。	②八戸藩日記	
1677・2・26	延宝5・1・25		八戸(16h)・弘前(14h)、盛岡(11h)で地震。	②八戸藩日記, 御用人所雑書, 御日記	
1677・3・11	延宝5・2・8		07h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1677・3・13	延宝5・2・10		21h, 盛岡、弘前で地震。	②御用人所雑書, 御日記	
1677・4・6	延宝5・3・5		14h, 花巻、八戸・弘前で地震。	①花印, 津軽震災資料 ②御日記, 稲葉氏永代日記 ③岩手県災害復興係行政資料	
1677・4・13	延宝5・3・12		20h, 東北に地震。 花巻・盛岡・山田・大槌・迫(宮城県)、青森・弘前・八戸、角館、上山、平に地震。江戸も有感。 00hの地震大、夜明まで20数度震動する。 八戸、盛岡に震害あり。 地震直後から1時間後に、宮古から野田(岩手県)、田名部(むつ市、青森県)にかけて津波。 大槌・宮古などで家屋・船の流出が数10。 小名浜に13日(07h)頃から14日屋頂まで異常干満。余震は4月まで続く。 3月13日 八戸・青森・弘前、盛岡、角館、江戸で地震 14日 八戸・青森・弘前、盛岡、角館、追で地震。 15日 八戸・弘前、角館、追で地震。 16日 八戸・弘前、盛岡、江戸で地震。 17日 八戸、追で地震。 18日 八戸・盛岡で地震。 19日 八戸・弘前、盛岡で地震。 27日 盛岡で地震。 30日 八戸・弘前で地震。 4月1日 八戸・弘前、盛岡、江戸で地震。 2日 八戸・弘前、盛岡、江戸で地震。	①延寶日記, 承寛神録, 八戸藩史稿, 三陸沿岸海嘯史, 玉露叢書, 武蔵六右衛門所蔵記録, 羽陰史略, 大槌記録抄, 花印, 津軽震災資料, 祐清私記(岩手県災異年表・九戸地方史) 大槌支配録, 大槌諸記録集, 青森市沿革史, 御日記, 万葉書, 江戸状書詞, 上山三家見聞日記, 唐桑町史, 稲葉氏永代日記, 角館火災地震年譜, 近世誌, 米谷郷土史年表, 津軽史, 岩手縣津浪史 ②大槌古今代伝記(大槌地方年表), 大槌官職記, 大槌代官支記録, 日本付近の地域海城別の被害地震津波の表及び震度の分布図, 岩手縣津浪史, 気仙沼海嘯誌, 津波報異異常気象報告6002, 青森県の地震津波, 赤崎村誌, 末崎村誌, 広田村郷土教育資料 宮古のあゆみ, 赤崎村誌, 猶海日誌, 金石市誌, 広田町津波誌, 岩手縣漁業史, 宮城県史, 鶴住居小史資料編, 山田町津波誌, 三陸沿岸條昭和産物誌, 震浪災害土木誌, 岩手縣昭和震災誌, 三陸沿岸津波読本, 岩手県災害復興係行政資料, 資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧, 日本被害津波総覧東北地方とその他の近海における地震活動, 元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	陸中 λ=142 1/4° E φ=41.0° N (C) M=7 1/4~7 1/2 [II] <2> 1968年(5月16日)十勝沖地震に似る。

1677・6・23	延宝5・5・23		14h, 盛岡地方地震。	②御用人所雑書	
1677・6・28	延宝5・5・28		4日 弘前、盛岡で地震。 5日 弘前、盛岡で地震。 16日 八戸、盛岡、江戸で地震。 4月22日 八戸・弘前で地震。 30日 八戸・盛岡で地震。 14h, 盛岡地方地震。	①弘前市史, 青森市史, 津軽震災資料, 角館火災地震年譜, 花印八戸藩史稿 ②御日記, 鶴ヶ沢町史年表, 御用格, 平山日記, 津軽史, 要記秘鑑, 八戸藩日記, 御用人所雑書, 奥南温古集, 稲葉氏永代日記, 北家御日記 ③新編日本被害地震総覧	津軽
1677・7・9	延宝5・6・10		八戸3度(09h, 12h, 13h)・弘前2度(07h, 11h)、盛岡2度(08h, 10h)で地震。 6月15日(06h) 盛岡地方地震。 19日(09h) 盛岡、八戸(13h)で地震。 21日(17h) 盛岡地方地震。 26日(14h) 盛岡地方地震。	②御用人所雑書, 御日記, 八戸藩日記	
1677・8・1	延宝5・7・3		16h, 花巻、八戸・弘前で地震。	①花印(岩手県災異年表) ②八戸藩日記, 御日記 ③岩手県災害復興係行政資料	
1677・9・13	延宝5・8・17		14h, 盛岡地方地震。 8月21日(07h) 地震。 9月4日(08h, 24h) 地震。 11日(22h) 地震。	②御用人所雑書	
1677・10・13	延宝5・9・17		米谷(宮城県)地方地震。 塩釜・宮城郡に十数回津波襲来?	②米谷郷土史年表, 河南町誌 ③宮城県史	
1677・11・3	延宝5・10・8		06h, 盛岡、八戸で地震。 八戸地方は10月9日(12h)も地震。	②八戸藩日記, 御用人所雑書	
1677・11・4	延宝5・10・9		20h, 上総で10月上旬から地震、この日いわき、銚子、江戸で地震。震害なし。 22h, 磐城から房総にかけて津波襲来。 岩沼で家屋被害490余、123名死亡。 小名浜付近で家屋被害550余、130余名死亡。 水戸、房総にも大被害。 八丈島でも死亡1、船10隻余流出。 尾張へも津波? いわずには津波前に奇魚来る。 余震続く。 三陸沿岸への津波不明。	①素平年表, 綱要岩城郡町村史, 野史, 蔵有院舊記, 續日本王代一覽, 萬天日録, 校正王代一覽, 八丈島及青ヶ島地災記録, 慶弘紀聞, 玉露叢書, ②岩城御領内大風雨大波泄水之御實書, 江戸伏見詞, 万葉書, 慶天拜書(内藤侯平藩史料), 小名浜災災記, 大洗地方史, 水戸紀年, 玄蕃元代集, 岩津町誌, 万葉書写, 私説 勝浦史, 八丈島小島青ヶ島年代記, 八丈表記, 日本震災凶難攷, 稲葉氏永代日記 ③津波報・異常気象報告6002, ちり地震津波調査報告 鶴住居小史資料編, 山田町津波誌, 三陸沿岸津波読本, 資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧, 東北地方とその他の近海における地震活動, 日本被害津波総覧	磐城・常陸・安房・上総・下総 λ=142.0° E φ=35.5° N (D) M=8.0 [III] <2>
1677・11・18	延宝5・10・23		20h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の場合「地方を付し は他県・市」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付し た。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史 料収録史・資料 ③その他の史・資料 ④内は前記史・資料を引用している文献で⑤にあたるもの ⑥御用人所雑書、奥南温古集	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震原の緯度・経度・規模 ・深さ) 〔 〕 地震被害等級 < > 津波規模
1677・12・7 12・9 12・14 12・25	延宝5・11・13	04h、盛岡地方地震。 11月15日(24h)盛岡、八戸で地震。 20日(21h)盛岡地方地震。 12月1日(23h)地震。 15日(23h)地震。 29日(18h)地震。 閏12月3日(10h)地震。 15日(12h)地震。	②御用人所雑書、奥南温古集	
1678・2・21	延宝6・1・1	水沢付近で山鳴動し、地震。 1月2日陥没、噴砂あり。	①承寛雜録 震災予防調査会報告・46号 (岩手県災異年表)	
1678・3・28	延宝6・2・6	18h、盛岡、弘前で地震。	③御日記、御用人所雑書	
1678・4・8 6・30 8・2	延宝6・2・17	02h、04h、盛岡地方地震。 5月14日(06h)地震。 6月15日(23h)地震。	②御用人所雑書	
1678・9・29	延宝6・8・14	04h、迫(宮城県)地方地震。	②近世日誌 ③元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	
1678・10・2	延宝6・8・17	20h、東北に地震。 八戸、盛岡、花巻、角館、刈田郡・白石、米沢、会津、 江戸、三重、和歌山に地震。 花巻では城の壁・石垣崩れ、町屋15軒・土蔵5崩れる、 女1人死亡。 白石で城の石垣崩れ、湯沢(秋田県)で家屋倒壊、 米沢では家屋の破損あり。 江戸で若干の被害。	①英知法親王記、御徒方萬年記、慶延職記、萬天日録、 角館火災地震年譜、刈田郡誌(宮城県災異年表)、山鹿素 行先生日記、玉露齋(日本災異志)、花印(岩手県災異年表)、 ②八戸藩日記、御用人所雑書、北家日記、北家御日記、片倉代々 記、会津若松史、会津年表、御日記、明治四十五年米沢重要年 表、三重年表、三浦家家系、玄徳公済美録、顯妙公済美録、楠 原藩日記、毎日記、探史月表 ③花巻古事記、花巻年契、日本付近の地域領域別の被害地震津波 地震の表及び震度の分布図、青森県の地震津波、 岩手県災害関係行政資料、資料日本被害地震総覧、 東北地方とその近海における地震活動、新編日本被害地震総覧	陸中 λ=142.5°E φ=39.0°N (D) M 7.5 〔II〕
1678・10・30 10・31	延宝6・9・15	22h、盛岡、弘前、江戸で地震。 9月16日(10h)盛岡地方地震。 17日(08h、10h)地震。	②御用人所雑書、御日記〔津軽・江戸〕	
1678・11・10	延宝6・9・26	24h、八戸地方地震。 9月27日(15h、16h)地震。 10月15日(10h)地震。	②八戸藩日記	
1678・12・10	延宝6・9・27	盛岡(10h)、八戸(08h)で地震。	②八戸藩日記、御用人所雑書	
1679・2・11	延宝7・1・8	20h、盛岡地方地震。	②雑書	
1679・2・13	延宝7・1・10	08h、八戸地方地震。	②八戸藩日記	

3・12		2月1日(12h)地震。	②雑書	
1679・6・27	延宝7・5・19	12h、盛岡地方地震。	②雑書、御日記	
1679・7・12	延宝7・6・5	06h、盛岡、弘前で地震。 6月6日(04h)盛岡地方地震。 20日(12h)盛岡、弘前で地震。 7月1日(11h)盛岡、弘前で地震。 6日(12h)盛岡地方地震。	②雑書	
1679・9・19	延宝7・8・17	17h、盛岡地方地震。	②雑書	
1679・9・28	延宝7・8・24	夜、八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1679・9・30	延宝7・8・26	10h、盛岡地方地震。	②雑書	
1680・2・1 3・29 7・22	延宝8・1・1	04h、盛岡地方地震。 2月29日(00h)地震。 6月27日(01h)地震。	②雑書	
1680・9・28	延宝8・閏8・6	盛岡地方3度地震。弘前(08h)、江戸(19h)も地震。 閏8月7日(11h)盛岡、弘前で地震。	②雑書、御日記、稲葉氏永代日記	
1680・10・27	延宝8・9・7	04h、盛岡地方地震。	②雑書	
1680・11・25	延宝8・10・5	12h、盛岡、弘前で地震。	②御日記、雑書	
1680・12・10	延宝8・10・20	14h、盛岡地方地震。	②雑書	
1681・3・7	天和1・1・17	12h、盛岡地方地震。	②雑書	
1681・5・20 5・25	天和1・4・3	10h、盛岡、弘前、江戸で地震。 盛岡地方では以後5度揺れる。 4月8日(10h)盛岡、弘前で地震。 津軽では12h頃まで揺れる。	①津軽震災資料 ②雑書、御日記、稲葉氏永代日記、三浦家乗、楠原藩日記	
1681・6・2 6・7 6・27	天和1・4・16	07h、盛岡地方2度地震。 4月21日(10h)地震。 5月12日(10h)地震。	②雑書	
1681・9・13	天和1・8・2	10h、江戸、盛岡、八戸で地震。	①常憲院實記、甘露齋 ②雑書、顯妙公済美録、毎日記、八戸藩日記	
1681・10・23	天和1・9・12	20h、八戸・弘前で地震。 9月13日(20h)も地震。	②八戸藩日記、御日記	
1681・11・14	天和1・10・5	09h、盛岡、八戸・弘前で地震。	②八戸藩日記、御日記、雑書	
1681・11・24	天和1・10・15	02h、or 14h、八戸地方地震。	②八戸藩日記	

西暦	年	代		地震・津波に関する記事の概要 (地名の「・」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 < 津波規模
		和	暦			
1682・1・16 1・21 2・20	天和1・12・8	天和1	12・8	09h, 盛岡地方地震。 12月13日(20h)地震。 22h, 地震。	②雑書	
1682・4・19	天和2・3・12	天和2	3・12	12h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1682・6・26 7・11 9・3	天和2・5・21	天和2	5・21	13h, 盛岡地方地震。 6月7日(09h)地震。 8月2日(07h)地震。	②雑書	
1682・12・13	天和2・11・15	天和2	11・15	04h, 八戸、盛岡で地震。 当日津波に大風・地震あり、家屋に被害。	①八戸藩史稿, 平山日記 ②八戸藩日記, 雑書 東北地方とその他の近海における地震活動, 新編日本被害地震総覧 資料日本被害地震総覧	津軽
1683・4・13 4・30 7・16	天和3・3・17	天和3	3・17	20h, 盛岡地方地震。 4月4日(03h)地震。 閏5月22日(12h)地震。	②雑書	
1683・7・22	天和3・閏5・28	天和3	閏5・28	15h, 盛岡、江戸で地震。	②雑書, 御日記, 榑原藩日記, 大控	
1683・9・5 9・28 10・15 11・5	天和3・7・15	天和3	7・15	16h, 盛岡地方地震。 8月8日(24h)地震。 25日(02h)地震。 9月17日(01h)地震。	②雑書	
1684・2・6	天和3・12・20	天和3	12・20	09h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1685・3・15	貞享2・2・11	貞享2	2・11	07h, 盛岡地方地震。 2月16日(06h)も地震。	②雑書	
1685・7・9 7・10	貞享2・6・8	貞享2	6・8	12h, 八戸地方地震。 6月9日(12h)地震。 同日、日光、江戸で地震。同じものか? 6月11日(09h)も地震。	①御番所日記 ②八戸藩日記, 御日記, 榑原藩日記	
1685・9・4 10・1	貞享2・8・6	貞享2	8・6	16h, 盛岡地方地震。 9月4日(15h)地震。	②雑書	
1686・1・7	貞享2・12・13	貞享2	12・13	17h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1686・6・11	貞享3・4・21	貞享3	4・21	24h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1686・7・14	貞享3・5・24	貞享3	5・24	12h, 八戸、江戸、日光で地震。	①貞享日記, 常憲監實記, 御番所日記 ②八戸藩日記, 榑原藩日記, 毎日記 出火洪水大風地震	

1686・7・22	貞享3・6・3	貞享3	6・3	09h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1686・8・2	貞享3・6・14	貞享3	6・14	16h, 迫・米谷(宮城県)、江戸で地震。	②米谷郷土史年表, 近世日誌, 榑原藩日記, 毎日記, 出火洪水大風地震 ③元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	
1686・8・17 8・23	貞享3・6・29	貞享3	6・29	八戸地方地震。 7月5日(09h)地震。	②八戸藩日記	
1687・1・27	貞享3・12・14	貞享3	12・14	12h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1687・5・26	貞享4・4・16	貞享4	4・16	12h, 盛岡、八戸で地震。	②雑書, 八戸藩日記	
1687・7・10	貞享4・6・2	貞享4	6・2	15h, 盛岡、弘前で地震。	②雑書, 御日記	
1687・7・12 9・13	貞享4・6・4	貞享4	6・4	13h, 盛岡地方地震。 8月9日(04h)地震。	②雑書	
1687・10・22	貞享4・9・17	貞享4	9・17	陸前海岸に津波。 塩釜で潮約50cm上がり、干潮12~13回繰り返す。 この日沖繩にも津波あり。 10月20日発生のペルー・カヤオ沖の地震津波。	①宮城県海嘯誌 ②唐桑町史 ③日本付近の地域別被害地震津波地震の表及び震度の分布 図, 東北地方に襲来した外国地震津波, ずり地震津波調査報告 ずり地震津波速報, 桐住居小史資料編, 山田町津波誌, 震波災 害土木誌, 若手縣昭和震災誌, 三陸沿岸津波誌, 気仙沼市史 資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧, 日本被害津波 総覧, 背山公治家記録目録	遠地地震津波(南米ペルー沖) <0>
1687・10・24 11・8 12・30	貞享4・9・19	貞享4	9・19	10h, 盛岡地方地震。 10月4日(20h)地震。 10月5日(09h)も地震。日光2度地震。 11月26日(08h)地震。	①御番所日記 ②雑書	
1688・1・7	貞享4・12・5	貞享4	12・5	19h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1688・1・8	貞享4・12・6	貞享4	12・6	09h, 盛岡、弘前、江戸で地震。	②雑書, 御日記, 榑原藩日記	
1689・1・1	元禄2・1・1	元禄2	1・1	三陸沿岸に津波 [口碑]。	①三陸地方津波調査取調報告(宮城県海嘯誌・岩手県災異年表) ②気仙沼市史, 岩手県災害関係行政資料, 震波災害土木誌, 宮城縣昭和震災誌, 若手縣昭和震災誌	
1689・1・21	元禄2・1・1	元禄2	1・1	三陸沿岸に津波?	③防災の町, 津波と防災, 宮古のあゆみ, 駿震時報第7巻2号	
1689・3・22	元禄2・2・2	元禄2	2・2	16h, 江戸、盛岡、日光で地震。	①御番所日記, 御仮殿御番所日記 ②雑書, 御日記	
1689・3・28	元禄2・2・8	元禄2	2・8	16h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1689・1・1	元禄2・8・1	元禄2	8・1	陸中に津波 [口碑]?	②宮城県史	



西暦	年	代		地震・津波に関する記事の概要 (地名の「・」は同じ県で列挙。1 地域の場合、1 地方を付した。数字〇〇h は地震発生時間、2 つある場合は2 度発生)	文献	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
		和	暦			
1689・12・13 12・29	元禄2・11・2			07h, 盛岡地方地震。 11月18日(22h) 地震。 20日(15h) 地震、夜中々々地震。	②雑書	
1690・1・1	元禄2・11・21			02h ~ 12h, 盛岡、弘前、角館で地震。	①角館火災地震年譜 ②雑書, 御日記, 北家御日記	
1690・1・3	元禄2・11・23			17h, 盛岡地方地震。 11月25日(20h) も地震。	②雑書	
3・3 5・27	元禄3・1・23			16h, 盛岡地方地震。 4月19日(08h) 地震。	①御番所日記 ②雑書, 御日記, 毎日記, 榊原藩日記, 三浦家家乗	
1691・4・28	元禄4・4・1			八戸地方地震。	②雑書	
1691・11・19	元禄4・9・30			20h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1692・5・10	元禄5・3・25			16h, 盛岡、弘前、日光、江戸で地震。	②雑書	
1692・8・14	元禄5・7・3			17h, 盛岡地方地震。	②雑書, 三浦家家乗, 八戸藩日記, 御日記	
1692・11・10	元禄5・10・3			06h, 盛岡、八戸・弘前、江戸で地震。	②雑書	
1693・1・25	元禄5・12・20			夜中, 盛岡地方地震。	②雑書	
1693・1・27	元禄5・12・22			03h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1693・12・5	元禄6・11・9			09h, 盛岡、弘前、角館で地震。	①角館火災地震年譜 ②雑書, 御日記, 北家御日記	
1694・3・9 4・1	元禄7・2・14			20h, 盛岡地方地震。 3月7日(16h) 地震。	②雑書	
1694・4・15	元禄7・3・21			10h, 八戸、盛岡で地震。	②八戸藩日記, 雑書	
1695・2・21	元禄8・1・9			17h, 盛岡、弘前で地震。	②御日記, 雑書	
1695・3・2・	元禄8・1・18			八戸地方地震。 1月19日も地震。	②八戸藩日記	
1695・4・18	元禄8・3・6			20h, 盛岡地方地震。日光でも地震。 3月7日(11h) も地震。	①御番所日記 ②雑書	
1695・5・7	元禄8・3・25			15h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1695・5・16	元禄8・4・4			02h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	

1695・6・7	元禄8・4・26			08h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1695・10・1	元禄8・8・24			06h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1695・10・20	元禄8・9・13			01h, 八戸2度、弘前1度地震。	②御日記, 八戸藩日記	
1696・1・8	元禄8・12・4			08h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1696・2・6	元禄9・1・4			23h, 角館、盛岡、八戸・弘前、日光で地震。	①御番所日記, 角館火災地震年譜 ②雑書, 八戸藩日記, 御日記, 北家御日記	
1696・3・17	元禄9・2・14			17h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1696・3・29	元禄9・2・26			20h, 八戸、日光で地震。	①御番所日記 ②八戸藩日記	
1696・5・30	元禄9・4・30			12h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1696・7・25	元禄9・6・27			小名浜に津波、死者多数 [古説]。	①綱要岩城郡村史	
1696・8・17	元禄9・7・20			17h, 八戸地方地震。 7月22日(06h) も地震。	②八戸藩日記	
1696・9・4	元禄9・8・8			11h, 八戸・弘前で地震。	②御日記, 八戸藩日記	
1696・9・19	元禄9・8・23			14h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1696・9・20	元禄9・8・24			10h, 八戸地方地震。 8月25日(16h) も地震。	②八戸藩日記	
1696・11・25	元禄9・11・1			石巻に津波、河口の船 300余隻の船頭・水手溺死。 浦浜水溢れる。 地震記録無く、風津波か?	①肯山公綱村治家記録日録(宮城県海嘯誌・宮城県気象防災異年表) ③日本付近の地域海嘯の被害地震津波地震の表及び震度の分布図, 本吉郡誌, 東北地方とその近海における地震活動, 山田町津波誌, 震災災害土木誌, 宮城県昭和震嘯誌, 岩手県昭和震災誌, 資料日本被害地震総覧, 気仙沼市史 新編日本被害地震総覧。	陸前石巻
1696・12・15	元禄9・11・21			08h, 10h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1697・3・30	元禄10・閏2・8			04h, 八戸地方地震。 閏2月12日(19h) も地震。	②八戸藩日記	
1697・7・11 7・19	元禄10・5・23			22h, 盛岡地方地震。 6月2日(10h) 地震。 6日(18h) 地震。	②雑書	
1698・5・7 6・4 7・11	元禄11・3・27			24h, 盛岡地方地震。 4月26日(20h) 地震。 6月4日(07h) 地震。	②雑書	

年	代	西 暦	和 暦	地震・津波に関する記事の概要 は他県、「・」は同じ県で列挙。1:地域の都合「地方を付した。数字○○h,は地震発生時間、2:つある場合は2度発生)	(地名の「,、」は地方を付した。数字○○h,は地震発生時間、2:つある場合は2度発生)	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ④内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1699・6・6	元禄12・5・9	15h, 盛岡地方地震。	②御用人所雑書				
1699・8・26	元禄12・8・2	13h, 八戸・弘前で地震。	②八戸藩日記, 御日記				
1699・10・25	元禄12・閏9・3	13h, 盛岡地方地震。 閏9月5日(04h)地震。 16日(08h)地震。	②御用人所雑書				
1699・11・11	元禄12・閏9・20	23h, 盛岡、弘前で地震。	②御用人所雑書, 御日記				
1699・12・1	元禄12・10・11	14h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記				
1699・12・12	元禄12・10・22	02h, 盛岡地方地震。	②御用人所雑書				
1699・12・28	元禄12・11・8	11月9日にかけて、津堅石(岩手県)付近に津波。 津堅石で家屋2軒被害。大槌で火事。 気仙郡にも津波(01h)? 地震記録なし。12月8日の津波か?	②古実伝書記, ③盛合文書, 気仙郡郷土史年表				
1700・-・-	元禄12・12・-	大槌(岩手県)地方に津波。 12月8日の津波か?	①大槌出陣抄 ③大槌古今伝記(金石市誌), 岩手県震災異年表, 山田町津波誌 岩手県震災習俗係行政資料				
1700・1・20	元禄12・12・1	14h, 八戸、日光、江戸で地震。	①御審所日記 ②八戸藩日記, 榊原藩日記, 毎日記				
1700・1・27	元禄12・12・8	大槌・宮古に津波。鎌ヶ崎(宮古)で被害家屋33軒、 大槌で2軒。地震記録なし。仲ノ浜(那珂湊/茨城県)で 当日、紀伊で潮水異常あり。仲ノ浜(那珂湊/茨城県)で 波高く盛り入りかね御米船破船荷打ち。遠地津波か?	①田辺町大帳 ③雑書(八戸地方史・大槌町漁業史) 北太平洋に於ける近世海難史料				
1700・2・2	元禄12・12・14	大槌・宮古に津波。 12月8日か?	③大槌地方年表				
1700・2・10	元禄12・12・22	18h, 盛岡地方地震。	②御用人所雑書				
1700・2・13	元禄12・12・25	13h or 01h, 八戸地方地震。	①八戸藩史稿 ②八戸藩日記, 奥南温古集				
1700・4・5	元禄13・2・16	19h, 盛岡地方地震。 2月18日(17h)も地震。	②雑書				
1700・4・13	元禄13・2・24	16h, 盛岡、八戸・弘前で地震。	②雑書, 御日記, 八戸藩日記				
1700・4・22	元禄13・3・4	盛岡地方地震。	③枯清私記				

1700・5・11	元禄13・3・23	16h, 八戸地方地震。 3月24日(08h) 盛岡、八戸で地震。	②雑書, 八戸藩日記				
1700・6・14 6・27	元禄13・4・27	16h, 盛岡地方地震。 5月11日(04h)地震。	②雑書				
1700・7・2	元禄13・5・16	02h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記				
1700・8・12	元禄13・6・28	08h, 盛岡地方地震。	②雑書				
1700・12・21	元禄13・11・12	田老(岩手県)地方に津波?	③防災の町				
1701・1・3	元禄13・11・25	10h or 22h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記				
1701・-・-	元禄13・12・-	12h or 24h, 田老(岩手県)に津波?被害なし。 元禄12年か?	②津波と防災				
1701・4・4 4・16 4・18 5・31	元禄14・2・26	03h, 盛岡、八戸で地震。 3月9日(07h) 盛岡、八戸で地震。 11日(09h) 八戸地方地震。 00h, 盛岡、八戸2度(02h, 08h)、弘前(04h)地震。 八戸地方地震。	②八戸藩日記, 雑書 御日記				
1701・6・13	元禄14・5・8	12h, 八戸・弘前で地震。	①八戸藩史料 ②奥南温古集				
1701・7・13	元禄14・6・8	12h, 八戸・弘前で地震。	①津軽藩日記 ②八戸藩日記, 御日記				
1701・8・9 9・10 9・25 11・13 11・27 12・14	元禄14・7・6	16h, 八戸地方地震。 8月8日(05h)地震。 23日(23h)地震。 10月14日(17h)地震。 10月15日(12h)地震。 28日(19h, 22h)地震。 11月15日(24h)地震。	②八戸藩日記				
1702・-・-	元禄14・12・-	三陸に津波?	③梅庄見聞録(岩手県史)				
1702・1・21	元禄14・12・24	24h, 八戸・弘前で地震。	②御日記, 八戸藩日記				
1702・1・25 2・13 2・18	元禄14・12・28	12h, 八戸地方地震。 12月30日(12h)地震。 1月17日(06h)地震。 22日(02h or 14h)地震。	①八戸藩史料 ②八戸藩日記, 奥南温古集				
1702・3・12	元禄15・2・14	11h, 八戸・弘前で地震。	②御日記, 八戸藩日記				
1702・3・14	元禄15・2・16	00h, 盛岡、八戸、余目(山形県)で地震。	②雑書, 八戸藩日記, 西野伊藤氏記録・菅浦氏年代記				
1702・3・27	元禄15・2・29	12h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記				

年 西 曆	代 和 曆		地震・津波に関する記事の概要 (地名の「」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場台「地方を付した。数字〇〇h.は地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 (内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの) ○は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 < 津波規模
	西 曆	和 曆			
1702・4・6 6・5 6・25 7・23 8・4 11・8	元禄15・3・10		17h, 八戸地方地震。 5月10日(08h) 地震。 6月1日(12h) 地震。 29日(13h) 地震。 7月11日 地震。 9月19日(10h) 地震。	①八戸藩史稿 ②八戸藩日記, 奥南温古集	
1703・2・26	元禄16・1・11		09h, 八戸・弘前で地震。	①津懸藩日記 ②御日記, 八戸藩日記	
1703・2・27	元禄16・1・12		20h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1703・3・13	元禄16・1・26		八戸、余目(山形県)で地震。	②菅浦氏年代記, 勘定所日記	
1703・4・12 5・9 6・15	元禄16・2・27		09h or 21h, 八戸地方地震。 3月24日(14h) 地震。 5月2日(19h) 地震。	②八戸藩日記	
1703・7・5 7・6	元禄16・5・22		21h, 八戸、余目(山形県)、高田(新潟)、日光で地震。 5月23日(10h) 八戸、日光(2度)で地震。	①御審所日記 ②八戸藩日記, 榑原藩日記, 菅浦氏年代記	
1703・7・29 8・14	元禄16・6・16		09h or 21h, 八戸地方地震。 7月2日(04 or 16h) 地震。	②八戸藩日記	
1703・8・23	元禄16・7・11		12h, 八戸・弘前で地震。	①八戸藩史稿 ②御日記, 八戸藩日記	
1703・8・26	元禄16・7・14		20h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1703・12・19	元禄16・11・11		迫(宮城県)地方地震。	②近世日誌 ③元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	
1703・12・30	元禄16・11・22		地震、津波? 11月23日か。 大槌、気仙沼で地震。 気仙沼では 02h~06h まで揺れる。	③防災の町 大槌記録抄(岩手県災異年表), 大槌地方年表, 若手県漁業史, 気仙沼本郷記, 宮古のあゆみ	
1703・12・31	元禄16・11・23		02h, 大槌、八戸・館野越で地震。小名浜に津波。 『元禄地震』の震動。 *最近の研究では、『元禄地震』による津波が三陸沿岸にも及び、死者が出たとされる。	①永禄日記 その他の記録 略 ②八戸藩日記 その他の記録 略 ③資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧, 山田町津波誌 日本被害津波総覧 その他の記録 略	江戸、関東諸国 λ=139.8°E φ=34.7°N (B) M=7.9~8.2 (IV) < 3 >
1704・2・2	元禄16・12・27		02h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1704・2・6	宝永1・1・2		03h, 盛岡、八戸・弘前・館野越、角館、余目(山形県)、秩父で地震。 1月3日(04h) 盛岡地方で地震。	①角館火災地震年譜, 弘前市史, 永禄日記 ②八戸藩日記, 雑書, 北家御日記, 御日記, 菅浦氏年代記, 明治百年記念野上町郷土史年表	

1704・2・20	宝永1・1・16		04h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1704・5・23	宝永1・4・20		18h, 沢内(岩手県)、八戸で地震。	①南部沢内年代記(岩手県災異年表) ②八戸藩日記	
1704・5・27	宝永1・4・24		12h, 盛岡2度・八戸で地震。 秋田県八森付近を震源とする地震の震動。 4月25日(08h) 八戸地方地震。	① 略 ②八戸藩日記 雑書 北可継日記, その他の記録 略 ③資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧 その他の記録 略	羽後、津軽 λ=140.0°E φ=40.4°N (A) M=7.0 ± 1/4 (II)
1704・6・16 7・10	宝永1・5・15		15h, 八戸地方地震。 5月17日(23h) 地震。 6月9日(11h) 地震。	②八戸藩日記	
1704・10・9 12・16 12・20	宝永1・9・11		19h, 盛岡地方地震。 11月20日(19h) 地震。 24日(18h) 地震。	②北可継日記, 雑書	
1704・12・22	宝永1・11・26		大槌(岩手県)地方地震。	③大槌古今代伝記(釜石市誌・大槌町漁業史)	
1705・1・22 1・26	宝永1・12・27 宝永2・1・2		06h, 盛岡地方地震。 夜, 盛岡地方地震。	①始清私記(岩手県災異年表) ②北可継日記 ③岩手県災異関係行政資料	
1705・3・25	宝永2・3・1		23h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1705・4・3	宝永2・3・10		12h, 盛岡地方地震。 3月11日(13h) も地震。	②雑書, 北可継日記	
1705・4・5	宝永2・3・12		06h, 盛岡、日光で地震。	①御審所日記 ②北可継日記	
1705・4・18	宝永2・3・25		24h, 八戸地方地震。 3月27日(12h) 地震。 28日(06h) 地震。	②八戸藩日記	
1705・4・24	宝永2・4・2		21h, 八戸、日光で地震。	①御審所日記 ②八戸藩日記	
1705・6・18	宝永2・閏4・27		06h, 盛岡地方地震。	②北可継日記	
1705・7・17 8・20 8・30 9・10 9・24 10・3	宝永2・5・27		08h, 八戸地方地震。 7月2日(22h) 地震。 12日(12h) 八戸・津軽で地震。 23日(18h or 01h) 八戸地方地震。 8月7日(17h) 地震。 16日(16h) 地震。	②八戸藩日記, 御日記	
1705・10・9	宝永2・8・22		23h, 盛岡、茂木(栃木県)で地震。	②北可継日記, 小崎家日記	
1705・10・15	宝永2・8・28		04h, 盛岡地方地震。	②雑書	

年 西曆	代 和曆	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は同じ県で列挙。1.地域の場合「地方を付した。数字〇〇h.は地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1705・11・15	宝永2・9・29	02h.盛岡、八戸地方地震。	②八戸藩日記、雑書	
1705・12・27	宝永2・11・12	21h.八戸・弘前で地震。	②御日記、八戸藩日記	
1705・12・31	宝永2・11・16	24h.盛岡地方地震。	②北可継日記	
1706・1・19	宝永2・12・5	20h.盛岡、角館、弘前で地震。 山形県西部の地震の震動。 盛岡は12月7日(20h)も地震。	①津野藩日記、角館火災地震年譜、その他資料は略 ②御日記、北家御日記、雑書、北可継日記、その他の資料は略	湯殿山付近 λ=139.9°E φ=38.6°N (B) M=5%±1/4
1706・2・9	宝永2・12・26	20h.八戸地方地震。 12月27日(23h)も地震。	②八戸藩日記	
2・17	宝永3・1・5	11h.地震。		
1706・4・26	宝永3・3・14	09h.盛岡、八戸で地震。	②八戸藩日記、雑書、北可継日記	
1706・6・24	宝永3・5・14	04h.盛岡地方地震。	②雑書	
1706・7・22	宝永3・6・13	11h or 23h.八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1706・8・16	宝永3・7・9	14h.八戸、盛岡で地震。	②八戸藩日記、雑書	
1706・9・26	宝永3・8・20	10h.八戸地方地震。 9月1日(18h)地震。	②八戸藩日記	
10・7				
1706・10・21	宝永3・9・15	15h.八戸・弘前で地震。	②御日記、八戸藩日記	
1706・10・25	宝永3・9・19	14h.23h.盛岡地方地震。	②雑書、北可継日記	
1706・11・11	宝永3・10・7	08h.盛岡、八戸で地震。	②雑書、八戸藩日記	
1706・12・13	宝永3・11・9	18h.盛岡地方地震。	②北可継日記	
1707・1・3	宝永3・11・30	21h.八戸地方地震。 12月7日(11h or 23h)八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1・10				
1707・1・21	宝永3・12・18	09h.八戸、日光で地震。	①御番所日記 ②八戸藩日記	
1707・2・13	宝永4・1・11	07h.盛岡地方地震。	②北可継日記	
1707・2・14	宝永4・1・12	23h.八戸地方地震。 2月16日(02h)地震。 3月6日(18h)地震。 12日(12h)地震。 13日(09h)地震。	②八戸藩日記	
3・19				
4・8				
4・14				

1707・5・7	宝永4・4・6	13h.盛岡地方地震。 4月9日(11h, 14h) 盛岡、八戸で地震。	②北可継日記、雑書、八戸藩日記	
1707・5・30	宝永4・4・29	24h.八戸地方地震。 5月11日(14h)地震。	②八戸藩日記	
6・10				
1707・7・10	宝永4・6・11	20h.盛岡地方地震。	②北可継日記	
1707・9・13	宝永4・8・18	20h.八戸、盛岡で地震。 8月24日(19h) 盛岡地方地震。	②八戸藩日記、北可継日記	
1707・10・28	宝永4・10・4	14h.八戸・五所川原で地震。 『宝永地震』の震動による? 10月5日八戸で小潮入る。 16日(14h) 八戸地方地震。 19日(16h) 八戸地方地震。 24日(14h) 八戸地方地震。 28日(20h) 八戸地方地震。 29日(08h) 八戸地方地震。	①略 ②八戸藩日記、北可継日記、平山日記、西野伊藤氏記録 その他の資料は略 ③新編日本被害地震総覧  その他の資料は略	五畿七道 λ=135.9°E φ=33.2°N (D) M=8.4 (IV) <4>
1708・2・16	宝永5・1・25	盛岡(12h)、八戸(10h, 17h)で地震。 八戸地方は1月27日(24h)も地震。	②北可継日記、八戸藩日記	
1708・3・20	宝永5・閏1・28	12h.盛岡地方地震。	②北可継日記	
1708・6・20	宝永5・5・3	09h.八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1708・8・2	宝永5・6・16	09h.盛岡地方地震。 6月22日(22h)地震。 8月22日(04h)地震。	②北可継日記	
8・8				
10・5				
1708・11・14	宝永5・10・3	10h.八戸地方地震。 10月11日(17h)地震。	②八戸藩日記	
11・22				
1708・12・10	宝永5・10・29	02h.盛岡地方地震。 11月4日(23h)地震。	②北可継日記	
12・15				
1709・1・22	宝永5・12・12	21h.八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1709・2・16	宝永6・1・7	15h.盛岡地方地震。 1月8日(12h) 盛岡、八戸で地震。	②北可継日記、雑書、八戸藩日記	
1709・3・24	宝永6・2・14	22h.八戸地方地震。 2月16日(?)地震。 18日(02h or 14h)地震	②八戸藩日記	
1709・4・26	宝永6・3・17	10h.八戸・盛岡で地震。	②八戸藩日記、北可継日記	
1709・6・26	宝永6・5・19	02h.盛岡地方地震。 5月20日(02h) 2度地震。 6月17日(08h) 地震。	②雑書、北可継日記	
7・23				

年	西暦	代		地震・津波に関する記事の概要 は他県・「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生） (地名の「・」は「・」を付した)	文献	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 △ 津波規模
		和	暦			
1709	8・27	宝永6	7・22	04h, 八戸(08h まで8度)、盛岡で地震。 7月23日(18h ~20h)八戸、盛岡地震数度。 25日(08h)盛岡地方地震。	②八戸藩日記, 雑書, 北可継日記	
1709	9・11	宝永6	8・8	20h, 盛岡地方地震。 8月11日(08h, 10h) 地震。 9月9日(16h, 22h) 地震。 10日(17h) 地震。 18日(15h, 17h, 21) 地震。 10月3日(02h) 地震。 6日(16h) 地震。 20日(22h) 地震。 11月16日(07h) 地震。 12月3日(02h) 地震。	①御番所日記 ②八戸藩日記, 当用記	
1710	2・9	宝永7	1・11	02h, 八戸、日光、岩槻で地震。	②八戸藩日記	
1710	2・10	宝永7	1・12	夜、八戸地方地震。	②雑書	
1710	3・8	宝永7	2・9	11h, 盛岡地方地震。	②八戸藩日記	
1710	3・22	宝永7	2・23	12h, 八戸地方地震。	②雑書	
1710	4・23	宝永7	3・25	04h, 盛岡地方地震。	②八戸藩日記, 御日記, 雑書	
1710	5・18	宝永7	4・20	08h, 盛岡、八戸・弘前で地震。	②雑書	
1710	6・9	宝永7	5・13	16h, 盛岡地方地震。	①佐渡年代記, 御番所日記, 月堂見聞集, 津軽藩日記	
1710	8・29	宝永7	8・5	16h, 沢内(岩手県)、余目(山形県, 16h, 18h)、弘前(19h) 佐渡、岩槻(屋・夜)、日光(17h, 23h)、江戸で地震。 8月4日(08h)には只見・昭和(福島県)、余目(山形県, 09h, 18h)、会津若松、江戸(12h, 16h)で地震。 只見で地割れ。 8月6日佐渡で地震3度。	②御日記, 西野伊藤氏記録, 菅浦氏年代記, 寛文以降万覚書, 会津若松史, 摘要佐渡年代記, 大石組「年代寛書」, 当用記, 南部沢内年代記 ③新編日本被害地震総覧	只見
1710	9・13	宝永7	8・20	18h, 盛岡、いわき・弘前、余目(山形県)、江戸、茂木(栃木県)、名古屋、日光(2度 18h, 22h)で地震。 江戸で大水涌くつがえる。日光で菅原破壊。 8月22日の地震の前震?	①御番所日記, 津軽藩日記, 菅浦氏年代記, 萬年記 ②万覚書, 御日記, 西野伊藤氏記録, 菅浦氏年代記, 雑書, 小崎家日記, 鶴鶴籠中記, 新井白石日記 ③資料日本被害地震総覧	
1710	9・15	宝永7	8・22	10h, 盛岡、いわき・弘前、余目・上郷(山形県)、江戸、茂木(栃木県)、日光で地震。 いわきで城の櫓に被害、潰家9軒、土蔵被害35。 江戸、弘前で大水とぶ。	①御番所日記, 月堂見聞集 ②万覚書, 御日記, 西野伊藤氏記録, 菅浦氏年代記, 雑書, 小崎家日記, 鶴鶴籠中記, 新井白石日記, 福島県災害誌, 雑事日記	いわき λ=141.5°E φ=37.0°N (C) M=6.5 ± 1/2 [0]

1710	10・10	宝永7	閏8・18	余目で2度(10h, 12h)、盛岡2度(08h, 10h)、弘前2度(09h, 16h)地震。	上郷郷土史 ③新編日本被害地震総覧	米沢・白河で大被害との記録もある
1710	10・11	宝永7	閏8・19	00h, 登米(宮城県)、余目(山形県)、岩槻、江戸で地震。	②鶴鶴籠中記, 日次記, 当用記, 菅浦氏年代記, 登米郡史 ③北郡紀行(宮城県気象災異年表, 登米郡史)	
1710	10・14	宝永7	閏8・22	04h, 盛岡、八戸、日光で地震。	①御番所日記 ②八戸藩日記, 雑書	
1710	12・20	宝永7	11・1	09h, 盛岡、江戸で地震。 江戸で大水とび、同日(10h)に2度地震。	②雑書, 御日記, 日次記	
1711	3・18	正徳1	1・30	02h, 盛岡地方地震。 昨晚(20h)も地震。	②雑書	
1711	4・11	正徳1	1・30	15h, 22h, 盛岡地方地震。 2月24日(20h) 地震。 4月22日(07h) 地震。	②北可継日記	
1711	6・16	正徳1	5・1	登米(宮城県)、茂木(栃木県)で地震。	②村田正兵衛覚書, 小崎家日記 ③宮城県気象災異年表	
1711	6・22	正徳1	5・7	14h, 八戸、盛岡で地震。	②八戸藩日記, 北可継日記, 雑書	
1711	6・24	正徳1	5・11	18h, 盛岡地方地震。 5月17日(14h) 地震。 6月25日(18h) 地震。 7月22日(14h) 地震。 8月3日(17h) 地震。 9日(11h) 地震。 9月27日(10h) 地震。 10月11日(12h) 地震。 11月3日(22h) 地震。	②北可継日記, 雑書	
1712	1・18	正徳1	12・11	00h, 02h, 04h, 八戸地方地震。 12月13日(昼夜時々)地震。	②八戸藩日記	
1712	1・24	正徳1	12・17	07h, 盛岡地方地震。 12月21日(06h) 地震。 23日(19h) 地震。 20h, 地震。	②北可継日記	
1712	3・4	正徳2	1・27	10h, 盛岡2度(00h, 10h)、八戸・弘前で地震。	②北可継日記, 御日記, 八戸藩日記	
1712	3・12	正徳2	2・6	14h, 盛岡地方地震。 2月22日(15h) 地震。	②北可継日記	
1712	3・28	正徳2	2・11	01h, 盛岡、日光、江戸で地震。	①御番所日記 ②北可継日記, 御日記	
1712	4・10	正徳2	3・5	14h, 盛岡地方地震。 3月25日(21h) 地震。	②北可継日記	

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「・」は地名、「・」は同じ県で別挙。1 地域の場合「地方」を付した。数字〇〇h は地震発生時間、2 つある場合は2度発生)。	文献 ①津軽藩日記 ②北可継日記、雑書、八戸藩日記、御日記、喜浦氏年代記、永禄日記 ③新編日本被害地震総覧	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・経度・相模・深さ) ( ) 地震被害等級 ◇ 津波規模
1712・6・10	正徳2・5・7	12h, 盛岡、八戸で地震。 5月11日(13h)盛岡地方地震。	②北可継日記、八戸藩日記	
1712・7・2 7・21	正徳2・5・29	18h, 盛岡地方地震。 6月18日(07h)地震。 19日(08h)地震。 8月3日(07h)地震。 4日(14h)地震。 15日(13h)地震。 18日(14h)地震。	②雑書、北可継日記	
1712・9・20	正徳2・8・20	07h, 盛岡、八戸で地震。	②北可継日記、八戸藩日記	
1712・10・2 11・24	正徳2・9・2	17h, 盛岡地方地震。 10月28日(04h)地震。	②北可継日記	
1712・12・6	正徳2・11・8	11h, 盛岡、津軽・八戸、余目、江戸で地震。	①津軽藩日記 ②御日記、雑書、北可継日記、八戸藩日記、喜浦氏年代記、棚原藩日記、間部日記	
1712・12・16 12・23	正徳2・11・18	夜半~晝、盛岡地方地震4度。 11月25日(16h)地震。 12月7日(01h)地震。	②北可継日記	
1713・1・3	正徳2・12・11	00h, 02h, 04h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1713・1・7	正徳2・12・12	時々、盛岡(19h, 23h)、八戸・弘前(04h)で地震。 12月13日(昼夜時々)八戸地方地震。	①津軽藩日記 ②八戸藩日記、御日記、北可継日記	
1713・1・14	正徳2・12・18	00h, 盛岡地方地震。 12月23日(19h)地震。 25日(05h, 18h)地震。	②北可継日記、雑書	
1713・1・27	正徳3・1・2	14h, 盛岡地方地震。 1月3日(02h, 12h)地震。 4日(06h)地震。 5日(20h)地震。 11日(02h)地震。 12日(12h, 21h)地震。		

1713・4・2	正徳3・3・8	09h, 盛岡、弘前・館野越(青森県)、秋田で地震。 館野越は13日まで続く。	①永禄日記 ②御日記、日記、雑書、北可継日記	
1713・4・5	正徳3・3・11	09h or 21h, 二戸(岩手県)、角館で地震。	①角館火災地震年譜 ③諸事手控帳	
1713・4・6	正徳3・3・12	09h, 盛岡(09h, 15h)、八戸、秋田(10h)、弘前(09h)・館野越・角館(09h)で地震。江戸(10h)有感。 3月13日盛岡(04h, 05h, 12h)、弘前(12h)も地震。	①永禄日記、津軽藩日記 ②八戸藩日記、雑書、日記、北家御日記、北可継日記、御日記	
1713・4・13	正徳3・3・19	17h, 盛岡地方地震。	②北可継日記	
1713・4・17	正徳3・3・23	15h, 盛岡、弘前で地震。 盛岡地方は3月25日(22h)も地震。	①永禄日記 ②北可継日記	
1713・5・5 6・10	正徳3・4・11	11h, 盛岡地方地震。 5月18日(20h, 24h)地震。	②北可継日記	
1713・7・2	正徳3・閏5・10	12h, 盛岡、八戸・弘前で地震。	②北可継日記、御日記、八戸藩日記	
1713・7・27	正徳3・6・6	八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1713・8・7	正徳3・6・17	16h, 盛岡地方地震。	②北可継日記	
1713・8・8	正徳3・6・18	09h, 盛岡、八戸・弘前、秋田、余目(山形県)、江戸で地震。	②北可継日記、御日記、八戸藩日記、喜浦氏年代記、日記、封内事実秘苑	
1713・8・23 9・7	正徳3・7・3	03h, 盛岡地方地震。 7月18日(08h)地震。	②北可継日記	
1713・9・21	正徳3・8・2	21h, 盛岡、秋田、弘前で地震。	②北可継日記、雑書、御日記、日記	
1713・10・30 11・20	正徳3・9・12	04h, 盛岡地方地震。 9月12日(09h)地震。 10月3日(13h)地震。	②北可継日記	
1714・2・19 5・10	正徳4・1・5	20h, 盛岡地方地震。 3月27日(12h)地震。	②北可継日記	
1714・5・14	正徳4・4・1	17h, 盛岡、弘前、秋田、角館、余目(山形県)で地震。 盛岡では夜までに10数度地震。	①角館火災地震年譜、津軽藩日記 ②北可継日記、日記、北家御日記、喜浦氏年代記、御日記、雑書	
1714・5・16	正徳4・4・3	16h, 18h(2度)、盛岡、二戸(岩手県)で地震。 4月4日(01h)も地震。	②北可継日記 ③諸事手控帳	
1714・5・28 7・30 8・13 9・11	正徳4・4・15	07h, 盛岡地方地震。 4月20日(08h)地震。 6月18日(14h)地震。 7月4日(24h)地震。 8月3日(19h)地震。 6日(24h)地震。	②北可継日記	

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「・」は同じ県で別添。1 地域の場合「地方を付し は他県。数字○○h. は地震発生時間、2 つある場合は2 度発生) 16h, 盛岡、弘前、秋田、余目(山形県)、日光、 江戸で地震。 13h, 盛岡地方地震。 8月13日(08h)地震。 20日(08h, 10h)地震。 9月2日(18h)地震。 5日(08h)地震。 10月17日(04h)地震。 19h, 盛岡、江戸で地震。 20h, 盛岡地方地震。 11月30日(12h, 20h)地震。 12月10日(22h)地震。 16h, 盛岡、八戸で地震。 12月25日(23h)盛岡地方地震。 16h, 17h, 盛岡地方地震。 3月6日(08h, 18h)地震。 3月10日(16h)地震。 4月11日(13h)地震。 4月16日(13h)地震。 4月19日(10h)地震。 5月2日(10h)地震。 22h, 盛岡、弘前で地震。 22h, 盛岡地方地震。 09h, 盛岡、八戸・弘前で地震。 7月8日(19h)盛岡地方地震。 08h, 盛岡地方地震。 8・29日(06h)地震。 9月1日(04h)地震。 8日(19h)地震。 10日(10h, 16h)地震。 (20h)鳴動。 17日(17h)地震。 04h, 06h, 16h, 盛岡、弘前で地震。 <th rowspan="2">文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史 料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの ①御番所日記, 津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記, 日記, 菅浦氏年代記 ②北可継日記 ②北可継日記 ②北可継日記, 御日記 ②北可継日記, 八戸藩日記 ②北可継日記 ①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記 ②北可継日記 ①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記 ②北可継日記 ①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記 ①津軽藩日記 ②雑書, 北可継日記, 御日記 <th rowspan="2">新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模 ・深さ) □ 地震被害等級 △ 津波規模 </th></th>	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史 料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの ①御番所日記, 津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記, 日記, 菅浦氏年代記 ②北可継日記 ②北可継日記 ②北可継日記, 御日記 ②北可継日記, 八戸藩日記 ②北可継日記 ①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記 ②北可継日記 ①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記 ②北可継日記 ①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記 ①津軽藩日記 ②雑書, 北可継日記, 御日記 <th rowspan="2">新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模 ・深さ) □ 地震被害等級 △ 津波規模 </th>	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模 ・深さ) □ 地震被害等級 △ 津波規模
1714・9・18 9・28 10・10 11・23	正徳4・8・10			
1714・12・26	正徳4・11・20			
1715・1・1 1・15	正徳4・11・26			
1715・1・26	正徳4・12・21			
1715・3・3 4・9 5・13 6・3	正徳5・1・28			
1715・6・24	正徳5・5・23			
1715・7・10	正徳5・6・10			
1715・8・3	正徳5・7・5			
1715・8・13 9・26 10・5 10・14	正徳5・7・15			
1715・10・20	正徳5・9・23			

1715・10・22	正徳5・9・25	12h or 24h, 八戸地方地震。 陸前沿岸に津波があり、田畑に被害。 地震記事なし。 享保15年5月25日の津波か?	②八戸藩日記 ①宮城県海嘯誌 ②本吉郡誌 ③日本付近の地域海城別の被害地震津波地震の表及び震度の分布 図、宮城県昭和震嘯誌、資料日本被害地震総覧 新編日本被害地震総覧、東北地方とその近海における地震活動 気仙沼市史	陸前
1716・2・24 3・29 5・11	享保1・2・2	11h, 盛岡地方地震。 2月7日(24h)地震。 閏2月6日(19h)鳴動。 閏2月9日(21h)地震。 3月20日(14h)地震。	②北可継日記	
1716・5・15	享保1・3・24	13h or 01h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1716・6・21	享保1・5・2	17h, 盛岡地方地震。	②北可継日記	
1716・6・22	享保1・5・3	仙台地方地震。多少の被害あり。	②石巻市史	
1716・7・27 8・11	享保1・6・9	10h, 盛岡地方地震。 6月24日(14h)地震。	②北可継日記	
1716・8・12	享保1・6・25	22h, 盛岡、八戸・弘前で地震。	①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記, 八戸藩日記	
1716・8・17	享保1・7・1	13h, 盛岡地方地震。	②北可継日記	
1716・9・1	享保1・7・16	08h, 八戸、日光、江戸(08h, 02h)で地震。	①御番所日記 ②八戸藩日記, 御日記	
1716・9・25	享保1・8・10	12h, 盛岡、八戸で地震。	②北可継日記, 八戸藩日記	
1716・10・1 10・8	享保1・8・16	13h, 盛岡地方地震。 8月28日(10h, 22h)地震。 (20h)鳴動。	②北可継日記	
1716・11・7	享保1・9・24	八戸地方4度地震。	②八戸藩日記	
1716・11・16	享保1・10・3	仙台地方地震。多少の被害あり。	①東藩史稿(宮城県気象災異年表) ③宮城県史, 元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	
1716・11・21 11・27 12・22 1717・1・2 1・15 1・26	享保1・10・8	07h, 盛岡地方地震。 10月14日(22h)地震。 19日(14h, 22h)地震。 11月9日(13h)地震。 20日(18h)地震。 12・3日(10h)地震。 14日(22h)地震。	②北可継日記	

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は他県、「・」は同じ県で発生。1地域の場合「地方を付した。数字○○h」は地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 (○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの) ②北可継日記, 雑書, 八戸藩日記 ②御日記, 八戸藩日記, 大地震風雨洪水飢饉或病難等記録 ①角館火災地震年譜, 津軽藩日記 ②北可継日記, 雑書, 八戸藩日記, 御日記, 北家御日記 ①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記, 八戸藩日記 ②北可継日記 ①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記 ①花印(岩手県震災年表) 津軽藩日記, 角館火災地震年譜, 萬年記 ②北可継日記, 御日記, 雑事日記, 桃生村史, 近世日誌, 御日記, 高浦氏年代記, 雑書, 八戸藩日記, 北家御日記, 毎日記, 備原藩日記, 彌山公治家記録 ③元和元年ヨリ歳之吉凶留帳, 曆, 見聞帳, 花巻年契, 資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧, 東北地方とその近海における地震活動 日本付近の地域海別の被害地震津波地震の表及震度の分布図	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1717・3・19	享保2・2・7	22h, 八戸、足柄、江戸で地震。	②御日記, 八戸藩日記, 大地震風雨洪水飢饉或病難等記録	
1717・3・21	享保2・2・9	14h, 盛岡、八戸・弘前、角館で地震。 盛岡は20hにも地震。	①角館火災地震年譜, 津軽藩日記 ②北可継日記, 雑書, 八戸藩日記, 御日記, 北家御日記	
1717・4・4	享保2・2・23	08h, 盛岡2度(08h, 23h)、八戸・弘前で地震。 2月25日(10h, 14h) 盛岡地方地震。	①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記, 八戸藩日記	
1717・4・24	享保2・3・13	22h, 盛岡地方地震。	②北可継日記	
1717・4・28	享保2・3・17	19h, 盛岡、弘前で地震。	①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記	
1717・5・13	享保2・4・3	14h, 盛岡・花巻、弘前・八戸、角館、仙台・桃生・唐桑・追・気仙沼、余目(山形県) 江戸で地震。 仙台藩の本丸石垣崩れ、二ノ丸屏屋根崩落、地割れがあり、神社の石灯籠倒れ、城下・在所々破損。 桃生・追(宮城県)でも家屋・土蔵に被害。 花巻では方々家々大小の破損多数。地割れ、花の噴出あり 弘前で天水こぼれ、角館・江戸で有感。 盛岡地方では余震続く。 4月4日(17h) 地震。 5日(21h) 地震。 6日(19h) 地震。 7日(04h, 14h) 地震。 13日(23h) 地震。 22日(14h) 地震。 24日(14h) 地震。 唐桑では階上村の津波記録を享保2年とする。	①花印(岩手県震災年表) 津軽藩日記, 角館火災地震年譜, 萬年記 ②北可継日記, 御日記, 雑事日記, 桃生村史, 近世日誌, 御日記, 高浦氏年代記, 雑書, 八戸藩日記, 北家御日記, 毎日記, 備原藩日記, 彌山公治家記録 ③元和元年ヨリ歳之吉凶留帳, 曆, 見聞帳, 花巻年契, 資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧, 東北地方とその近海における地震活動 日本付近の地域海別の被害地震津波地震の表及震度の分布図	仙台・花巻 λ=142 1/2° E φ=38 1/2° N (C) [III]
1717・6・25	享保2・5・17	06h, 盛岡、八戸・弘前、角館、日光、江戸で地震。	①角館火災地震年譜, 御番所日記 ②北可継日記, 北家御日記, 雑書, 八戸藩日記, 御日記, 備原藩日記	
1717・7・8	享保2・5・30	21h, 盛岡、弘前で地震。	②北可継日記, 御日記	
1717・8・12	享保2・7・6	10h, 盛岡地方地震。	②北可継日記	
1717・9・9	享保2・8・5	20h, 盛岡、余目(山形県)で地震。	②北可継日記, 高浦氏年代記	
1717・9・24	享保2・8・20	02h, 盛岡地方地震。	②北可継日記	
1717・11・5	享保2・10・3	12h, 仙台、盛岡で地震。 仙台で所々破損。	②北可継日記, 東藩史料, 続岩沼物語 ③重訂宮城縣郷土史年表, 宮城県史, 新編日本被害地震総覧	盛岡・仙台 地震のあったことは確か

1718・1・4	享保2・12・3	17h, 盛岡、弘前で地震。	①津軽藩日記, 御日記 ②北可継日記, 御日記	
1718・1・30	享保2・12・29	14h, 盛岡、八戸で地震。	②北可継日記, 八戸藩日記	
1718・2・1	享保3・1・2	01h, 盛岡地方地震。 1月6日八戸(04h)、盛岡(09h)、日光(02h)で地震。 1月7日八戸2度(08h, 02h)、盛岡(09h)で地震。	①御番所日記 ②北可継日記, 八戸藩日記	
1718・2・18 2・26	享保3・1・19	04h, 八戸地方地震。 1月20日(06h) 地震。 27日地震。所々破損。	①八戸藩史料 ②八戸藩日記 ③資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧 日本付近の地域海別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 東北地方とその近海における地震活動	1月27日の地震 八戸 M=6.2 疑わしい
1718・3・18	享保3・2・16	13h, 盛岡、八戸で地震。	②八戸藩日記, 北可継日記	
1718・3・22	享保3・2・21	06h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1718・4・15	享保3・3・15	19h, 盛岡地方地震。	②北可継日記	
1718・5・2	享保3・4・3	宮城県北部から岩手県南部に地震。 大原(岩手県)、石越、川崎・古川・若柳・高清水・花山(以上宮城県)で地震。 高清水で民家に被害。	②豊凶年表, 石越村史(宮城県気象災異年表), 川崎町郷土史年表, 古川市史, 若柳町史, 高清水町史, 花山村史 ③宮城県史, 若柳年代表(東京都誌)	
1718・5・12	享保3・4・13	11h, 盛岡地方地震。 4月16日(24h) 盛岡、八戸、弘前で地震。	①津軽藩日記 ②北可継日記, 雑書, 八戸藩日記, 御日記	
1718・5・21 6・20 6・27 7・6 8・26	享保3・4・22	14h, 盛岡地方地震。 5月22日(10h) 地震。 29日(14h) 地震。 6月9日(10h) 鳴動。 8月1日(19h) 地震。 5日(16h) も地震。	②北可継日記	
1718・9・30	享保3・9・7	仙台・白石で地震。 仙台被害多く、白石で城破壊。	②東藩史料 ③新編日本被害地震総覧	仙台・白石 詳細不明、疑わしい
1718・10・17	享保3・9・24	八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1718・10・22	享保3・9・29	16h, 盛岡、八戸地震。 9月30日(07h) 盛岡地方地震。	②北可継日記, 八戸藩日記	
1718・11・22 11・28 12・14 1719・1・24 2・6	享保3・閏10・1	23h, 盛岡地方地震。 閏10月2日(20h) 鳴動。 7日(15h) 地震。 23日(08h) 地震。 12月5日(14h) 地震。 18日(14h) 地震。	②北可継日記, 雑書	
1719・2・8	享保3・12・20	22h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	



年 西 曆	代 和 曆		地震・津波に関する記事の概要 (地名の場合「」は同じ県で列挙。1地域の場合「」地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史 料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模 ・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
	年	月・日			
1719・2・9 2・28 3・15	享保3・12・21 享保4・1・10		02h, 盛岡地方地震。 10h, 地震。 1月12日(10h) 西方鳴動。 25日(02h) 地震。	②北可継日記, 雑書	
1719・3・18	享保4・1・28		08h, 盛岡、角館、江戸で地震。	①角館火災地震年譜 ②北可継日記, 雑書, 御日記, 北家御日記	
1719・4・2 4・14 5・16 8・20 11・2 11・23 12・21	享保4・2・13		09h, 盛岡地方地震。 2月25日(08h) 地震。 3月27日(08h) 地震。 7月5日(16h) 地震。 9月21日(08h) 地震。 10月12日(16h) 地震。 11月11日(22h) 地震。	②北可継日記	
1720・1・17	享保4・12・8		23h, 盛岡、弘前で地震。 12月13日(16h) 盛岡地方地震。	①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記	
1720・3・8	享保5・1・30		04h, 18h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1720・4・2 4・20	享保5・2・25		09h, 盛岡地方地震。 3月13日(22h) 地震。 19日(09h) 地震。	②北可継日記, 雑書	
1720・4・30	享保5・3・23		八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1720・5・20 7・20	享保5・4・		花巻地方4月下旬から7月下旬まで毎日地震。 1日に13度または5〜6度または2〜3度揺らぬ日なし	①花印(岩手県災異年表) ③花巻年契, 岩手県災害関係行政資料	
1720・5・20 7・20	享保5・4・14		21h, 盛岡地方地震。 4月15日(10h) 鳴動。 6月15日(18h) 地震。	②北可継日記, 雑書	
1720・7・29	享保5・6・24		10h, 盛岡(2度)、弘前・八戸、余目(山形県)で地震。 6月25日 昼夜地震、5〜20度。日光も揺れる。 6月26日 盛岡(08h, 11h, 13h)、八戸・弘前(11h)、余目 地震。 6月27日(08h, 16h) 盛岡地方地震。 6月28日(08h or 20h)八戸地方地震。 6月29日(08h or 20h)八戸地方地震。	①津軽藩日記 御番所日記 ②北可継日記, 葛藤氏年代記, 御日記, 雑書, 八戸藩日記	
1720・8・9 8・16	享保5・7・6		23h, 盛岡地方地震。 7月13日(20h) 地震。	②北可継日記	
1720・8・23	享保5・7・20		21h, 八戸、盛岡で地震。	②八戸藩日記, 北可継日記	

1720・9・15	享保5・8・13		01h, 盛岡地方2度地震。 8月14日(11h) 地震。	②北可継日記, 雑書	
1720・9・29 10・2 10・14 10・24 11・1 11・7 11・28 12・14 12・26	享保5・8・27  9・23 10・2 10・8 10・14		06h, 盛岡地方地震。 9月1日(14h) 地震。 13日(06h) 地震。 08h, 盛岡2度(06h, 10h)・八戸で地震。 01h, 盛岡地方地震。 21h, 盛岡、八戸で地震。 10月29日(04h) 地震。 11月15日(04h) 地震。 27日(13h) 地震。 28日(07h) も地震。	②雑書, 北可継日記, 八戸藩日記	
1721・1・9	享保5・12・12		05h, 盛岡、八戸・弘前で地震。 12月17日(00h, 02h) 八戸地方地震。 18日(22h) 盛岡地方地震。 21日(09h) 盛岡地方地震。	①津軽藩日記 ②北可継日記, 八戸藩日記	
1721・1・23	享保5・12・26		06h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1721・1・23	享保5・12・26		10h, 盛岡地方地震。 12月28日(13h) も地震。	②北可継日記	
1721・1・31 2・9	享保6・1・4 1・13		12h, 21h, 盛岡2度、八戸(21h) 地震。 10h, 14h, 八戸2度、盛岡(14h) 地震。	②北可継日記, 雑書, 八戸藩日記	
1721・2・16 5・22	享保6・1・20		19h, 盛岡地方地震。 4月27日(09h) 地震。	②北可継日記, 雑書	
1721・5・24	享保6・4・29		07h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1721・6・30	享保6・6・6		17h, 盛岡、弘前で地震。 6月12日(14h) 盛岡地方地震。	①津軽藩日記 ②北可継日記, 御日記	
1721・9・10	享保6・閏7・19		12h, 盛岡、八戸で地震。	②北可継日記, 八戸藩日記	
1721・9・30	享保6・8・10		08h or 20h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1721・10・2 10・11 12・27	享保6・8・12		19h, 盛岡地方地震。 8月21日(19h) 地震。 11月9日(12h) 地震。	②北可継日記	
1722・3・11	享保7・1・24		19h, 盛岡、日光、江戸で地震。	①御番所日記 ②北可継日記, 御日記	
1722・3・19 5・8	享保7・2・3		21h, 盛岡地方地震。 3月23日(09h) 地震。	②北可継日記	
1722・5・11	享保7・3・26		10h, or 22h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇h」は地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1722・8・16	享保7・7・5	昼, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1722・12・4	享保7・10・26	23h, 盛岡地方地震。 10月27日(03h) 地震。 11月9日(23h) 地震。 23日(06h) 地震。 27日(20h) 地震。	②北可継日記	
1723・3・16	享保8・2・10	11h, 盛岡・気仙郡(岩手県)で地震。	②北可継日記 ③気仙境目並浜方巡検記	
1723・3・19	享保8・2・13	気仙地方(岩手県)地震。	③気仙境目並浜方巡検記	
1723・5・1	享保8・3・27	12h, 盛岡2度(10h, 12h)、八戸・弘前、角館、余目(山形県)で地震。 3月28日盛岡2度(12h, 14h)、八戸(12h)で地震。	①津野藩日記, 角館火災地震年譜 ②八戸藩日記, 御日記, 北家御日記, 菅浦氏年代記	
1723・5・6	享保8・4・2	20h, 盛岡、余目(山形県)、日光、江戸、青梅で地震。	①御番所日記 ②北可継日記, 菅浦氏年代記, 御日記, 谷合氏見聞録	
1723・5・30 6・10 6・20 6・29 7・17	享保8・4・26	16h, 盛岡地方地震。 5月8日(21h) 地震。 18日(22h) 地震。 27日(06h) 地震。 6月16日(17h) 地震。 21日(06h) 地震。 7月9日(14h) 地震。 10日(12h) 地震。 17日(16h) 地震。 19日(20h) 地震。 23日(12h) 地震。	②北可継日記	
1723・9・4	享保8・8・5	14h, 八戸、盛岡、余目(山形県)で地震。	②八戸藩日記, 北可継日記, 菅浦氏年代記	
1723・9・9	享保8・8・10	08h, 沢内(岩手県)、八戸、余目(山形県)、会津、江戸で地震。 沢内では農家に被害。	①新宮雑業記 ②八戸藩日記, 菅浦氏年代記, 御日記, 南部次内年代記	
1723・10・15	享保8・9・17	12h, 盛岡、八戸で地震。 9月22日(夜半過ぎ)盛岡地方地震。 23日(12h)八戸地方地震。	②北可継日記, 八戸藩日記	
1723・11・7	享保8・10・10	12h, 盛岡地方地震。 鳴物(16h)。	②北可継日記	

11・23 12・19		10月26日(19h) 地震。 11月22日(07h) 地震。		
1724・2・16	享保9・1・22	09h, 盛岡、八戸で地震。	②北可継日記, 御用人所日記	
1724・2・22	享保9・1・28	18h, 八戸地方地震。 1月29日(12h) 盛岡、八戸で地震。	②北可継日記, 御用人所日記, 八戸藩日記, 雑書	
1724・5・21	享保9・4・29	14h, 八戸地方地震。	②御用人所日記	
1724・6・1	享保9・閏4・10	10h, 盛岡2度(09h, 17h)、八戸・弘前で地震。	①津野藩日記 ②北可継日記, 八戸藩日記, 御用人所日記, 御日記	
1724・6・21	享保9・5・1	11h, 盛岡、日光で地震。	①御番所日記 ②北可継日記	
1724・6・26	享保9・5・6	08h or 20h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1724・7・20	享保9・6・1	16h, 盛岡地方地震。	②北可継日記	
1724・9・3	享保9・7・16	16h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1724・9・9	享保9・7・22	12h, 盛岡、八戸で地震。 7月28日(22h) 盛岡地方地震。 29日(11h) 盛岡、八戸で地震。	②北可継日記, 八戸藩日記, 御用人所日記	
1724・12・7 12・24	享保9・10・22	20h, 盛岡地方地震。 11月9日(08h) 地震。	②北可継日記	
1725・3・31	享保10・2・17	19h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1725・4・8	享保10・2・25	09h, 盛岡地方地震。	②北可継日記	
1725・5・20	享保10・4・9	昼前, 八戸地方地震。	②御用人所日記	
1725・5・25	享保10・4・14	06h, 盛岡、八戸で地震。	②北可継日記, 御用人所日記	
1725・5・29	享保10・4・18	14h, 盛岡地方地震。 日光付近を震源とする地震の震動。 東照堂石灯籠倒れる。 江戸弘前藩邸に被害。	①資料 略 ②北可継日記 その他の資料略 ③資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧	日光 λ=139.7°E φ=36.25°N (C) M=6.0 [0]
1725・6・3	享保10・4・23	04h or 16h, 八戸地方地震。 4月29日(00h)も地震。	②八戸藩日記	
1725・6・27	享保10・5・17	08h, 盛岡地方地震。	②北可継日記, 雑書	
1725・7・25	享保10・6・16	14h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1725・8・2	享保10・6・24	11h, 八戸・弘前で地震。	①津野藩日記 ②八戸藩日記, 御日記	

西暦	年	年代		地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
		和	暦			
1725・8・29		享保10・7・22		地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)。 晩、盛岡地方地震。 7月24日(15h)地震。	②北可継日記	
1725・9・30		享保10・8・24		12h or 24h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1725・10・24 11・2 11・8		享保10・9・19		14h, 盛岡地方地震。 9月28日(18h)地震。 10月4日(18h)地震。	②北可継日記	
1725・11・24		享保10・10・20		12h, 盛岡、八戸、余目(山形県)で地震。	②北可継日記, 八戸藩日記, 菅浦氏年代記	
1726・1・31		享保10・12・29		06h, 八戸地方地震。	②御用人所日記	
1726・一・一		享保11・2・一		三陸沿岸に地震と風雨。 家屋の破損と泥水の湧出。 津波があり、唐丹・田老で溺死者64人、舟5隻流出。 地震と被害の関係不明。高潮の可能性あり。	③元龜以来岩手県沿岸漁民溺死集	
1726・3・22 8・17		享保11・2・19		08h, 八戸地方地震。 2月26日(07h)地震。 27日(04h, 15h)地震。 7月20日(12h or 24h)地震。	②八戸藩日記	
1726・12・20		享保11・11・27		14h, 盛岡、八戸、余目(山形県)、日光、江戸で地震。	①御番所日記, 寛在記 ②八戸藩日記, 菅浦氏年代記, 御日記, 榊原藩日記	
1727・1・27		享保12・1・6		06h or 18h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1727・2・1		享保12・1・11		17h, 八戸・弘前で地震。	①津野藩日記 ②八戸藩日記, 御日記	
1727・2・8		享保12・1・18		22h ~, 八戸地方地震数度。	②八戸藩日記	
1727・6・30		享保12・5・12		12h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1727・7・15 12・30 1728・2・21 3・7 4・12		享保12・5・27 享保13		10h or 22h, 八戸地方地震。 11月18日地震。 1月12日(02h or 14h)地震。 27日地震。 所々破損。 3月4日(11h)地震。 5日(04h)地震。 7日(09h, 17h)地震。	②八戸藩日記, 奥南温古集	
1728・10・19		享保13・9・17		10h, 盛岡地方地震。	②雑書	

1728・12・16		享保13・11・16		18h, 八戸地方地震。 11月17日(18h)も地震。	②八戸藩日記	
1728・12・19		享保13・11・19		02h, 八戸、弘前で地震。	①津野藩日記 ②八戸藩日記, 御日記	
1728・12・25		享保13・11・25		14h, 盛岡、八戸(度々)で地震。	②雑書, 八戸藩日記	
1729・3・22 5・10 5・20		享保14・2・23		19h, 八戸地方地震。 4月13日(08h)地震。 23日(08h)地震。	②八戸藩日記	
1729・5・29		享保14・5・2		06h, 盛岡、余目(山形県)で地震。	②雑書, 菅浦氏年代記	
1729・8・23		享保14・7・29		06h, 八戸・弘前・五所川原で地震。	①津野藩日記 ②八戸藩日記, 御用人所日記, 御日記, 平山日記	
1729・9・8 10・2		享保14・8・16		10h, 11h, 八戸地方2度地震。 9月10日(12h or 24)地震。	②八戸藩日記	
1729・12・25		享保14・11・6		12h, 盛岡、八戸・弘前で地震。	①津野藩日記 ②雑書, 八戸藩日記, 御日記	
1730・4・3		享保15・2・16		気仙地方に津波。 5月25日の津波か?	③気仙郡郷土史年表	
1730・6・4		享保15・4・19		18h, 八戸・弘前、江戸で地震。	②御用人所日記, 御日記 [津野・弘前]	
1730・7・9		享保15・5・25		宮城・牡鹿・桃生・本吉(宮城県)地方に津波。 田畑に被害。 チリ沖地震による津波。	①東藩史稿(宮城県気象災異年表, 気仙沼市史, 本吉郡誌) ③日本付近の地域海域別の被害地震津波の表及震度の分布図 東北地方に襲来した外国地震津波、チリ地震津波調査報告、 チリ地震津波速報、鶴住居小史資料編、三陸沿岸津波読本、 宮城県史、資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧 日本被害津波総覧	陸前 前日の午前9時(GMT)ころの チリ・パルパライソ沖の地震による 津波 <1>
1731・2・1		享保15・12・25		06h ~, 八戸・鎗野越で地震。しばらく続く。 三陸に津波。	②八戸藩日記, 永禄日記	
1731・一・一		享保16・一・一			②河南町誌	
1731・7・25		享保16・6・22		10h, 盛岡、弘前で地震。	②雑書, 御日記	
1731・8・21		享保16・7・19		06h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1731・10・7		享保16・9・7		20h, 桑折(福島県)、白石を中心に東北で地震。 弘前・鎗野越、上山・余目(山形県)、平、江戸、 津(三重県)で有感。 桑折では家屋300余崩れ、橋84落ちる。 白石では城の石垣・新・櫓倒壊、死者2。 周辺各村を含め、居家118、土蔵5、 厩7倒壊。 七ヶ宿(宮城県)では居家・土蔵・橋に被害、地割れ。	①有徳院實記, 刈田郡誌, 永禄日記, 奥羽朝霞閣老志補修編(仙台年表), 栗澤史稿(宮城県気象災異年表) ②片倉代々記, 滑津松井家文書・滑津「御甲留」安藤家文書 永禄日記, 上山三宅見聞日記, 八拾年余之間出羽国上山城日記 菅浦氏年代記, 万覚書, 御日記, 中新田町史, 伊藤家日記抜書 ③大日本寺院総覧, 封内風土記	岩代 λ=140.6° E φ=38.0 N (B) M≈6.5 [J]

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1731・10・12 11・5	享保16・9・12	蔵王・小原温泉も被害。 仙台にも被害多数。	②八戸藩日記、御用人所日記	新編日本被害地震総覧
1732・1・29	享保17・1・3	12h or 24h, 八戸地方地震。 10月6日(16h)地震。 9日(10h or 22h)地震。 10日(10h or 22h)地震。	①月宮見聞集、有徳院實紀、御番所日記、蔵年記 ②谷合氏見聞録、雑書、菅浦氏年代記、御日記	新編日本被害地震総覧
1732・4・9 4・24	享保17・3・15	16h, 盛岡、余目(山形県)、日光、青梅・江戸で地震。	②雑書	新編日本被害地震総覧
1732・8・10	享保17・6・20	08h or 20h, 盛岡地方地震。 3月30日(轟頭)地震。	①花印(岩手県災異年表) ②御日記 ③岩手県災異関係行政資料	新編日本被害地震総覧
1732・9・5	享保17・7・17	24h, 花巻、江戸で地震。 6月22日(20h) 花巻地方地震。	①花印(岩手県災異年表)、宮地日記 ②雑書、八戸藩日記、御日記「江戸・津軽」、菅浦氏年代記 ③岩手県災異関係行政資料	新編日本被害地震総覧
1732・11・30	享保17・10・13	12h, 盛岡・花巻、八戸・弘前、余目(山形県)、江戸で地震。 盛岡では東禅寺御成座敷根太落ちる。	②菅浦氏年代記、御日記、八戸藩日記	新編日本被害地震総覧
1733・5・4	享保18・3・21	08h, 八戸・弘前、余目(山形県)で地震。	②雑書	新編日本被害地震総覧
1733・5・12	享保18・3・29	14h, 盛岡地方2度地震。	①花印、宮地日記、某日記 ②御日記、八戸藩日記、永禄日記、封内事実秘苑	新編日本被害地震総覧
1733・6・22	享保18・5・11	22h, 花巻、八戸・弘前・館野越、江戸で地震。	②雑書	新編日本被害地震総覧
1733・9・14	享保18・8・7	10h, 盛岡地方地震。	②八戸藩日記	新編日本被害地震総覧
1734・8・6	享保19・7・8	02h or 14h, 八戸地方地震。	②雑書	新編日本被害地震総覧
1734・8・26 1735・1・4	享保19・7・28	13h, 盛岡地方地震。	②八戸藩日記	新編日本被害地震総覧
1735・一・一	享保20・一・一	10h, 八戸地方地震。 12月11日(06h or 18h)地震。	②泰平年表弘賢賞書	新編日本被害地震総覧
1735・2・8	享保20・1・16	仙台地方地震。	②八戸藩日記	新編日本被害地震総覧
1735・2・9	享保20・1・17	八戸数度(06h~08h 3度、昼過1度)、盛岡2度(20h, 14h)地震。	②八戸藩日記、雑書	新編日本被害地震総覧

1735・4・29	享保20・閏3・7	00h or 12h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	日光・守山
1735・5・6	享保20・閏3・14	10h, 盛岡・花巻、八戸・弘前、日光、守山、江戸で地震。 日光では東照宮の石垣少々崩れ、田村(現守山、郡山市福高町)で神蔵の壁割れる。	①御番所日記、宮地日記、萬年記、花印(岩手県災異年表) ②八戸藩日記、御日記、雑書、神原藩日記 ③岩手県災異関係行政資料、新編日本被害地震総覧	
1735・5・25	享保20・4・4	12h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	東海道 1735年8月20日(享保20・7・3)としている
1735・一・一	享保20・7・一	山田・織笠(宮古市・岩手県)地方地震・風雨。 津波のため死亡21人、舟2隻流出。 仙台地方も地震。 東海道諸国にも同様の被害の記録あり。	②築館町史 ③元龜以来岩手県沿岸漁民溺死集、本朝地震考、日本災異志 資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧	
1735・10・6	享保20・8・20		②花山村史	
1736・3・6	元文1・1・24	暮、八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1736・4・30	元文1・3・20	18h、仙台、余目(山形県)、江戸で地震。 仙台で城の石壁・藏橋破損。地震数回続く。 江戸は20hに地震。	①東藩史稿(宮城県災異年表)、本朝天文志 ②柳山公治家記録、菅浦氏年代記、御日記、宮城県米谷郷土史年表 ③遠田郡誌、日本災異志、資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧、東北地方とその近海における地震活動	仙台 λ=140.8°E φ=38.3°N (?) M=6.0 あるいは仙台東方沖地震か
1736・5・17	元文1・4・7	12h or 24h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1737・1・20	元文1・12・20	登米・佐沼・追(宮城県)で地震。	②登米郡史、佐沼郷土史年表 ③元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	
1737・2・25	元文2・1・26	24h, 盛岡、弘前・五所川原で地震。 五所川原は2月まで地震。	①平山日記 ②雑書、御日記	
1737・3・13 5・14	元文2・2・13	03h, 八戸地方地震。 4月15日(10h or 22) 地震。	②八戸藩日記	
1737・7・1	元文2・6・4	08h or 20h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1737・7・20	元文2・6・23	登米(宮城県)地方地震。	②登米郡誌	
1737・8・9	元文2・7・13	04h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記、御日記	
1737・12・27	元文2・閏11・6	13h, 八戸、江戸で地震。	②八戸藩日記、幕府書物方日記	
1738・3・12	元文3・1・22	20h, 八戸・弘前、盛岡で地震。	②八戸藩日記、雑書、御日記	
1738・5・7	元文3・3・19	盛岡3度(07h, 12h, 20h)、弘前2度(12h, 19h)、日光(12h)で地震。	①御番所日記 ②雑書、御日記	
1738・7・20	元文3・6・4	16h, 盛岡、弘前・八戸・五所川原で地震。 八戸では夜中に6・7度地震。 6月5日(10h or 20h)八戸地方で地震。	①某日記 ②雑書、御日記、平山日記、八戸藩日記	

年 西 暦	代 和 暦		地震・津波に関する記事の概要 は地震、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付し た。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生） （地名の「・」は地方を付し た。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生）	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史 料収録史・資料 ③その他の史・資料 ④内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 （震央の位置、震源の緯度・経度・規模 ・深さ） □ 地震被害等級 △ 津波規模
	西 暦	和 暦			
1738・8・7 9・12	元文3・6・22 6月29日(20h)地震 7月29日(06h)3度地震 30日(10h)地震	6日(20h)盛岡地方地震。 7日弘前(18h,24h)・八戸(20h)で地震。 8日(07h)弘前地方地震。	②八戸藩日記		
1738・10・2	元文3・8・19	12h,八戸、盛岡で地震。	②八戸藩日記, 雑書		
1738・12・26	元文3・11・16	04h or 16h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記		
1739・3・28 6・2	元文4・2・19 4月26日(10h)地震。	19h,盛岡地方地震。 4月26日(10h)地震。	②雑書		
1739・8・16	元文4・7・12	18h,弘前・館野越・八戸・五所川原、盛岡で地震。 八戸で藩士町屋に被害。 弘前で蔵潰れる。 八戸・津軽・青森に7月26日まで余震・鳴動続く。 7月13日(06hなど)盛岡、八戸・弘前で地震。 14日 八戸地方度々地震。 15日(23hなど)八戸・弘前で地震。 16日(22h)八戸地方で地震。 17日(暮)八戸地方で地震。 18日(08h)八戸地方地震。青森屋敷鳴動。 20日(10h)八戸地方地震。青森・弘前・五所川原鳴動。 21日(08h)八戸地方地震。青森・館野越鳴動。 22日(14h,22h)八戸地方地震。弘前昼夜数度鳴動。 26日(08h)八戸地方地震。青森・弘前・五所川原・ 館野越夜鳴動。	①平山日記, 東藩日記, 八戸藩史稿 ②永録日記, 青森市沿革史, 八戸藩日記, 雑書, 平山日記 御日記 ③東北地方とその近海における地震活動 日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧	陸奥・南部 〔II〕 八戸沖の地震か	
1739・9・7 10・10	元文4・8・5	暮,八戸地方地震。 9月8日(20h)も地震。	②八戸藩日記		
1739・10・11	元文4・9・9	18h,盛岡、弘前で地震。	②雑書, 御日記		
1739・10・15 10・22	元文4・9・13 9・20	16h,八戸・弘前で地震。 18h,八戸・弘前で地震回数。 20hに止む。以後地震続く。	①八戸藩史料 ②御日記, 八戸藩日記, 奥南温古集, 御用人所日記		
1739・11・2	元文4・10・2	24h,盛岡地方地震。	②雑書		
1740・一・一	元文5・一・一	花巻地方で地震か?	②曆		
1740・2・28	元文5・2・2	朝,八戸地方2度地震。	②八戸藩勘定所日記		

1740・5・31	元文5・5・7	13h,盛岡地方地震。	②雑書	
1741・3・8	寛保1・1・21	24h,盛岡、弘前で地震。	②雑書, 御日記	
1741・7・4	寛保1・5・22	06h,盛岡地方地震。	②雑書	
1741・8・18	寛保1・7・8	15h,八戸・弘前2度(14h,24h)地震。	②八戸藩日記, 御日記	
1741・12・19	寛保1・11・12	06h,弘前・八戸2度(08h)地震。 11月13日(08h)盛岡地方地震。 14日(14h)盛岡、八戸・弘前で地震。	②雑書, 御日記, 八戸藩日記	
1742・1・16	寛保1・12・10	10h,八戸・弘前で地震。	②八戸藩日記, 御日記	
1742・2・12 10・21 11・5	寛保2・1・8	08h,八戸地方地震。 9月23日(暮)地震。 10月9日(02h)地震。	②八戸藩日記	
1743・1・20	寛保2・12・25	16h,盛岡、角館、江戸で地震。	②雑書, 御日記, 北家御日記	
1743・7・1	寛保3・5・10	21h,盛岡、角館、丹生(山形県)で地震。	②北家御日記, 雑書, 謀氏日記	
1743・8・7	寛保3・6・18	10h,八戸地方地震。 被害多い。	①八戸藩史料 ③日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧 東北地方とその近海における地震活動	八戸
1743・11・22	寛保3・10・7	24h,八戸・弘前、八王子、江戸で地震。	②八戸藩日記, 奥南温古集, 石川日記, 御日記 [江戸・弘前]	八戸
1743・12・18	寛保3・11・3	16h,盛岡、弘前、江戸で地震。	②雑書, 御日記 [江戸・弘前]	
1743・12・21	寛保3・11・6	06h,盛岡、角館で地震。 11月7日(17h)盛岡地方地震。	②雑書, 北家御日記	
1744・7・15 7・24	延享1・6・6	08h,盛岡地方地震。 6月15日(01h)地震。	②雑書	
1746・2・27	延享3・1・8	11h,盛岡、八戸で地震。	②八戸藩日記, 雑書	
1746・5・4	延享3・3・14	05h,盛岡地方地震。	②雑書	
1746・5・7	延享3・3・17	16h,盛岡、弘前・八戸で地震。	②雑書, 八戸藩日記, 御日記	
1748・1・19	延享4・12・19	10h or 22h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1748・一・一	寛延1・一・一	花巻地方この年度々地震。	②曆	
1748・12・12	寛延1・閏10・22	07h,盛岡、八戸・弘前で地震。 閏10月23日(04h or 16h)八戸地方地震。	②八戸藩日記, 雑書, 御日記	

年	代		地震・津波に関する記事の概要 (地名の「」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付し」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付し」は他県、「・」は同じ県で列挙。2つある場合は2度発生した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生した。)	文献	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
	西暦	和暦			
1748・12・23	寛延1・11・4	18h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新訂日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献③にあたるもの	
1749・1・10	寛延2・3・28	02h, 地震。			
5・14		4月5日(10h or 22h)地震。			
5・20		8月5日(06h)地震。			
9・16		10月7日(06h)地震。			
11・16		11月3日(02h)地震。			
12・12		21h, 地震。			
1750・4・30	寛延3・3・24				
1750・5・24	寛延3・4・19	10h, 八戸・弘前で地震。	②八戸藩日記, 御日記		
1750・9・22	寛延3・8・22	04h or 16h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記		
1751・一・一	宝暦1・一・一	本吉・桃生・牡鹿に津波。被害があった。 5月2日の津波か?	②雄勝町史		
1751・3・5	宝暦1・2・8	20h, 盛岡地方地震。	②雑書		
1751・5・20	宝暦1・4・25	大槌地方に津波。5月2日の津波か?	③山田町津波誌, 山田の津波		
1751・5・21	宝暦1・4・26	大槌地方に津波。5月2日の津波か?	③宮城県昭和震害誌, 震浪災害土木誌, 岩手懸昭和震災誌 録震害報告第7巻第2号		
1751・5・26	宝暦1・5・2	14h, 三陸に津波。 大槌(岩手県)では大槌7度、小槌5度押し寄せ、 民家の敷板まで上がる。 5月25日チリ・コンセブシオン沖で発生した地震津波による	①三陸沿岸海嘯誌(岩手県震災年表) ②岩手懸津波史 大槌代官支配録(大槌町漁業史・釜石市誌), 大槌古今伝記 (大槌町漁業史・岩手県震災年表), 大槌官職記(山田町津波誌), 豊間浪家年中行事, 東北地方に襲来した外国地震津波, チリ地震津波調査報告, 鶴住居小史資料編, 岩手県震災関係行政資料, 三陸沿岸津波誌, 大槌地方年表, 日本被害津波総覧 宮古のあゆみ, チリ地震津波速報	*m=3 コンセブシオン全滅、津波は24時間 続いた。 フアンフェルナンデス諸島では津波 が3回襲来し、町が沈められ船が沈没。	
1751・6・24	宝暦1・6・2	牡鹿・桃生・本吉(宮城県)、気仙(岩手県)に津波。 石巻では米蔵に被害。	②唐桑町史, 古城記(宮城県気象災異年表)		
1751・7・24	宝暦1・閏6・2	牡鹿・桃生・本吉(宮城県)、気仙(岩手県)に津波。 石巻では米蔵に被害。 5月2日の津波か?	①東藩史稿(宮城県気象災異年表・本吉郡誌) ③広田漁業史, 宮城県史, 赤崎村史, 綾里村誌, 気仙沼市史 気仙代表, 気仙郡海嘯誌, 循庵日記, 広田村郷土教育資料		
1751・5・29	宝暦2・4・16	16h, 盛岡地方地震。	②雑書		
1752・10・7	宝暦2・9・1	04h, 盛岡地方地震。	②雑書		
1752・11・27	宝暦2・10・22	晝, 八戸地方地震。	②八戸藩日記		
1753・4・10	宝暦3・3・7	06h, 盛岡地方地震。	②雑書		

1753・5・27	宝暦3・4・25	08h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記		
1753・7・20	宝暦3・6・20	07h, 八戸・弘前で地震。	②八戸藩日記, 御日記		
1753・9・8 10・16	宝暦3・8・11	19h, 盛岡地方地震。 9月20日(18h)地震。	②雑書		
1753・12・23	宝暦3・11・29	08h or 20h, 登米(宮城県)、八戸で地震。	②八戸藩日記 ③宮城県気象災異年表, 登米郡史		
1754・1・25	宝暦4・1・3	14h, 八戸・弘前・五所川原・館野越で地震。	①平山日記 ②御日記, 永祿日記, 御用人所日記		
1755・3・29	宝暦5・2・17	16h, 八戸・弘前・盛岡で地震。牡鹿(宮城県)も有感。 八戸では殿中、外通破損。 2月25日(08h or 20h) 八戸地方地震。	①八戸藩史料 ②八戸藩日記, 御日記, 耳目凶歳録, 天明凶歳録, 雑書 八戸藩勅定所日記	陸奥 八戸	
1755・4・16	宝暦5・3・5	10h, 弘前・八戸・盛岡、牡鹿で地震数度。 八戸では3月6日から9日まで地震続く。	②天明凶年記集(牡鹿郡誌), 資料日本被害地震総覧, 日本付近の地域海域別の被害地震津波の表及震度の分布図 東北地方とそとの近海における地震活動, 新編日本被害地震総覧		
1755・7・21	宝暦5・6・13	16h, 盛岡地方地震。	②八戸藩日記, 御日記, 耳目凶歳録, 天明凶歳録, 雑書 八戸藩勅定所日記		
1756・6・13	宝暦6・5・16	14h, 盛岡地方地震。	②雑書		
1756・6・17	宝暦6・5・20	02h, 八戸地方地震。	②雑書		
1756・8・3	宝暦6・7・8	09h, 弘前・盛岡、江戸で地震。	②御用人所日記		
1756・8・10	宝暦6・7・15	21h, 05h, 盛岡地方地震。	②御日記, 雑書, 榊原藩日記		
1757・1・6 2・20 4・17	宝暦6・閏11・16 宝暦7・1・3	09h, 盛岡地方地震。 06h, 盛岡地方地震。 2月29日(13h)地震。	①自然未聞記 ②雑書 ③日本近世飢饉史, 岩手県災害関係行政資料		
1757・9・19	宝暦7・8・7	12h or 24h, 八戸地方地震。	②雑書		
1757・9・21 10・13	宝暦7・8・9	07h, 盛岡地方地震。 9月1日(04h)地震。	②雑書		
1758・一・一	宝暦8・一・一	中新田・登米・河南(宮城県)で地震。	②中新田町史, 登米町史編纂史料集, 河南町誌		
1758・3・31 5・18	宝暦8・2・22	07h, 盛岡地方地震。 4月12日(07h)地震。	②雑書		

年 西 曆	代 和 曆	地 震 ・ 津 波 に 関 する 記 事 の 概 要 (地名の「、」は他県「・」は同じ県で別添。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇hは地震発症時間、2つある場合は2度発生)。	文 献	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1758・6・17	宝曆8・5・12	10h, 盛岡、弘前で地震。	②雑書, 御日記	
1758・7・27	宝曆8・6・23	06h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1758・8・2	宝曆8・6・29	朝, 古川・梶首(宮城県)で地震。 古川では地割れ、岩崩れ、沼四方に生じる。	②古川市史 ③玉造郡梶首村高橋卯平氏所蔵日記(宮城県泉家災異年表)	
1758・9・10 10・10	宝曆8・8・9	07h, 盛岡地方地震。 9月9日(06h) 盛岡地方地震。(22h) 弘前地方地震。 11日(12h) 盛岡、弘前で地震。	②雑書, 御日記	
1759・2・6 4・2 5・2	宝曆9・1・9	12h, 盛岡地方地震。 3月5日(14h) 地震。 4月6日(09h) 地震。	②雑書	
1759・12・8	宝曆9・10・19	21h, 八戸・弘前、盛岡で地震。	②八戸藩日記, 御日記, 雑書	
1760・10・1	宝曆10・8・23	17h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1760・11・4	宝曆10・9・27	09h, 盛岡、弘前で地震。	②雑書, 御日記	
1761・5・11 5・26	宝曆11・4・7	18h, 八戸地方地震。 4月22日(12h) 地震。	②八戸藩日記	
1761・8・1	宝曆11・7・1	10h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1761・8・10	宝曆11・7・10	13h, 弘前・八戸、盛岡で地震。	②雑書, 御日記、八戸藩日記	
1761・8・16 9・2	宝曆11・7・16	07h, 盛岡地方地震。 8月4日(17h) 地震。	②雑書	
1761・9・11	宝曆11・8・13	09h or 21h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1761・11・24 12・27	宝曆11・10・29	01h, 盛岡地方地震。 12月2日(24h) 地震。 5日(02h) 地震。 10日(14h) 地震。	②雑書	
1762・1・1	宝曆12・1・1	伊達領に地震3度。	③重訂宮城県郷土史年表、宮城県史	
1762・2・10	宝曆12・1・17	20h, 盛岡、江戸で地震。	②雑書, 御日記	
1762・4・6	宝曆12・3・12	12h, 盛岡、日光(12h, 13h)、江戸(14h)で地震。	①御所日記 ②雑書, 御日記	
1762・6・21	宝曆12・閏4・29	11h or 23h, 八戸地方地震。	②八戸藩日記	

1763・1・18	宝曆12・12・5	08h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1763・1・21	宝曆12・12・8	八戸地方地震。 足懸家・御書所小破損。	②八戸藩日記 ③新編日本被害地震総覧	八戸
1763・1・29	宝曆12・12・16	18h, 八戸・弘前・五所川原・館野越、函館・盛岡・碓石・大原(岩手県)、高清水・湧谷・小牛田・古川(宮城県)、酒田で地震。 八戸では昨年7月下旬から井戸水濁れ、今年11月より微震。この日の大地震で、八戸は人家土蔵破損、糶手の石垣の石ぬける。南宗寺の廟・仏殿破損。地割れあり。 青森県 むつ 家2軒馬屋1倒壊 死亡2 野辺地土蔵等破損 七戸 御役屋・土蔵破損 給人町屋の倒壊破損 青森 1～2軒家屋倒壊 岩手県 遠野 漬家1死亡3 花巻 人馬に被害 宮城県 高清水人家の倒壊多 古川 地割れ、家屋破損 八戸、久慈・宮古、函館に津波。 八戸では小船4流出、田地冠水、大橋新井田橋落ちる。宮古で網納屋打ち壊す。 久慈・種市通りで流破船13	①八戸藩史料、宝曆年中八戸御領大地震并洪水略記、八戸藩史稿北海道史、維新前北海道地震年表、糠部五郡小史、小山内某手記、小山内氏史料、村井舊記、葛西日記、平山日記 ②古川市史、湧谷町史、小牛田町史、亀崎左藩御用留、八戸藩日記、御日記、八戸藩御定所日記、奥南温古集、奥南温古録、雑書、阿部隆家文書、曆、碓石歳代日記、豊凶年表、永禄日記、青森市沿革史、封内事美秘苑、御用格、平山日記、要記秘鑑、高清水町史 ③資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧、日本被害津波総覧、宮古のあゆみ、津波観測異常気象報告6002、若柳年代表(栗原郡誌)、三陸沿岸津波読本、山田町津波誌、チリ地震津波調査報告、日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図、東北地方とその近海における地震活動、鶴住居小史資料編	陸奥八戸 λ=142 1/4° E φ=41.0° N (C) M=7.4 [Ⅲ] <1> 余震多い。翌年5月ごろまで地震続く 1968年十勝沖地震に似る。
1763・1・1	宝曆13・1・1	二戸(岩手県)地方地震。	③書留覚帳	
1763・2・21	宝曆13・1・9	八戸3度、盛岡(12h)で地震。 1月10日(11h) 八戸、盛岡で地震。 13日～16日八戸地方度々地震。 18日(10h) 盛岡、弘前で地震。 19日(17h) 盛岡、八戸で地震。 20日盛岡(04h, 05h)、弘前(02h)で地震。 26日(18h) 盛岡地方2度地震。	①本藩歴年亀鑑圖、八戸藩史料、糠部五郡小史、小山内某手記、 ②雑書, 八戸藩日記, 御日記, 封内事美秘苑	
1763・3・11	宝曆13・1・27	12h, 八戸・弘前、盛岡・花巻、江戸で地震。 八戸で町村家屋土蔵の破損、南宗寺の石塔崩れ、津波で船1隻打ち上げられる。	①八戸藩史稿、八戸藩史料、糠部五郡小史、小山内某手記、本藩歴年亀鑑圖、村井舊記、封内事美秘苑 ②雑書, 奥南温古録、八戸藩日記, 御日記 [江戸・津軽]、曆	陸奥八戸 λ=142.0° E φ=41.0° N (C) M=7.4 [Ⅲ] <0>

年 西 曆	代 和 曆	地震・津波に関する記事の概要 (地名の場合「」は同一県で発生。1地域の場合「」地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生) 1月28日(08h)盛岡、八戸で地震。 14h,八戸・弘前、盛岡で地震。 八戸で城の崩壊損、玄中寺大破。 八戸に津波? 家屋・人馬の流出多い。 2月4日(10h)盛岡、弘前で地震。 3月、4月まで地震続く。 20h,八戸地方地震。 2月18日(02h or 14h)地震。 3月5日 地震。 6日 度々地震。 15日(10h or 22h)地震。 27日 地震。 06h,盛岡2度、八戸で地震。 4月7日(08h)八戸地方地震。 03h,盛岡地方地震。 暁,八戸地方地震。 4月27日(06h)地震。 12h,盛岡、弘前で地震。 朝,八戸地方地震。 5月19日(06h)地震。 20日(朝)地震。 25日(朝)地震。 26日(朝)地震。 27日(暁)地震。 20h,盛岡2度、弘前で地震。 08h,盛岡地方地震。 6月26日(24h)も地震。 10h,盛岡・花巻、八戸・弘前で地震。 7月4日(11h)花巻、八戸で地震。 八戸地方地震。 8月15日も地震。 <th rowspan="2">文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの ③日本付近の地域海城別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧、東北地方とその近海における地震活動 ①八戸藩史料、糠部五郡小史 ②雑書、八戸藩日記、御日記、八戸藩勘定所日記 ③新編日本被害地震総覧、東北地方とその近海における地震活動 日本付近の地域海城別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 山田町津波誌、日本被害津波総覧、資料日本被害地震総覧 <th rowspan="2">新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模 </th></th>	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの ③日本付近の地域海城別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧、東北地方とその近海における地震活動 ①八戸藩史料、糠部五郡小史 ②雑書、八戸藩日記、御日記、八戸藩勘定所日記 ③新編日本被害地震総覧、東北地方とその近海における地震活動 日本付近の地域海城別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 山田町津波誌、日本被害津波総覧、資料日本被害地震総覧 <th rowspan="2">新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模 </th>	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1763・3・24 4・1 4・17 4・18 4・27 5・9	宝暦13・2・10		②八戸藩日記	
1763・5・17	宝暦13・4・5		②雑書、八戸藩日記	
1763・5・23	宝暦13・4・11		②雑書	
1763・5・24 6・8	宝暦13・4・12		②八戸藩日記	
1763・6・10	宝暦13・4・29		②雑書、御日記	
1763・6・28	宝暦13・5・18		②八戸藩日記	
1763・7・26	宝暦13・6・16		②雑書、御日記	
1763・8・3	宝暦13・6・24		②雑書	
1763・8・11	宝暦13・7・3		②雑書、御日記、曆、八戸藩日記	
1763・8・18	宝暦13・7・10		①八戸藩史料	

1763・9・30	宝暦13・8・23		②雑書	
1763・10・16	宝暦13・9・10	05h,盛岡地方地震。 07h,盛岡、八戸2度・弘前、江戸で地震。 9月11日(08h)八戸地方地震。	②雑書、御日記 [江戸・津軽], 八戸藩日記	
1764・1・14	宝暦13・12・12	10h,盛岡地方地震。	②雑書	
1764・3・3	明和1・2・1	暁,八戸地方地震。 2月7日(08h)も地震。	②八戸藩日記	
1764・3・16	明和1・2・14	22h,盛岡地方地震。	②雑書	
1764・3・17	明和1・2・15	07h,八戸・弘前で地震。	②八戸藩日記、御日記	
1764・4・25	明和1・3・25	10h or 22h,八戸地方地震。 3月26日(04h or 16h)も地震。	②八戸藩日記	
1764・5・6	明和1・4・6	09h,盛岡地方地震。	②雑書	
1764・8・2	明和1・7・5	05h or 17h,八戸地方地震。 7月8日(11h)地震。 12日(昼)地震。 24日(06h)地震。	②八戸藩日記	
8・21				
1764・9・16	明和1・9・1	04h,八戸・弘前で地震。	②八戸藩日記、御日記	
1764・10・18	明和1・9・23	昼,八戸地方地震。 9月25日(暁)も地震。	②八戸藩日記	
1765・5・18	明和2・3・29	06h,八戸地方地震。 3月30日(02h or 14h)も地震。	②八戸藩日記	
1765・7・2	明和2・5・15	07h,盛岡地方地震。	②雑書	
1765・7・25	明和2・6・8	14h,盛岡、弘前で地震。	②雑書、御日記	
1765・8・23	明和2・7・7	八戸地方2度地震。	②八戸藩日記	
1765・12・11	明和2・10・29	22h,八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1766・1・14 1・20	明和2・12・4	13h,盛岡地方地震。 12月10日(23h)地震。	②雑書	
1766・3・8	明和3・1・28	18h,弘前市付近を震源とする地震。 弘前から津軽半島にかけては被害大。 各地で地割れ、傾斜あり。 余震は年々まで続いた。とくに2月8日の余震は強く、 家屋の破損あり。南外(秋田県)で震動。 同日、銚子で津波?との記録がある。	①津軽・北海道の被害に関する資料略 ②南部に関する資料なし 津軽・その他の被害に関する資料略 ③資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧	津軽 λ=140.5°E φ=40.7°N (A) M=7¼±¼ (II)



年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は他県、「・」は同じ県で発生。1地域の場合「地方」を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1766・10・7	明和3・9・4	07h or 19h, 八戸地方地震。	②新御殿御用人所日記	
1767・ - ・ -	明和4・ - ・ -	仙台地方地震。	③宮城県史、登米郡史	
1767・3・18	明和4・2・19	07h, 八戸、盛岡で地震。 2月20日(08h) 八戸地方地震。	②八戸藩日記、雑書	
1767・4・24	明和4・3・26	16h, 八戸・弘前、盛岡・花巻、沢内(岩手県)、南外村(秋田県)、米谷(宮城県)、金井(山形県)、江戸で地震。	①村井舊記、南部沢内年代記(岩手県災異年表) ②八戸藩日記、唐、御日記[江戸・津軽]、谷村村御用留帳、相馬家文書、米谷郷土史年表 ③岩手県災異関係行政資料	
1767・4・25	明和4・3・27	14h? 宮城(宮城県)・白河、八王子、江戸で地震。	②榎原藩日記、御日記、信繁公御代日記 ③廣瀬村愛子菅井甚兵衛氏所蔵曆(宮城郡誌)	
1767・5・2	明和4・4・5	10h, 盛岡地方地震。 ?、沢内地方地震。 06h, 八戸地方度々地震。	①南部沢内年代記(岩手県災異年表) ②八戸藩日記、雑書 ③岩手県災異関係行政資料	
1767・5・4	明和4・4・7	08h, 弘前・八戸、盛岡・花巻、鬼柳・沢内(岩手県)、宮城・石巻・米谷・佐沼・河南・中新田(以上宮城県)、南外(秋田県)、金井(山形県)、八王子・江戸で地震。 鬼柳(現北上市)では濃家1、2軒焼失。 4月8日(04h) 盛岡地方地震。 9日(16h) 八戸地方地震。 * 1887年岩手県中部沿岸地震に似る?	①村井舊記(青森市沿革史) ②八戸藩日記、雑書、青森市沿革史、八戸藩勘定所日記、石川日記、唐、相馬家文書、谷村御用留帳、米谷郷土史年表、佐沼郷土史年表、河南町誌、中新田町史、石井忠運日記、榎原藩日記、御日記[江戸・津軽] ③廣瀬村愛子菅井甚兵衛氏所蔵曆(宮城郡誌)、南部沢内年代記(岩手県災異年表)、肥又岩藤家文書、資料日本被害地震総覧新編日本被害地震総覧、東北地方とその近海における地震活動日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図	陸中 三陸沖の地震か
1767・6・6	明和4・5・10	08h, 盛岡、南外(秋田県)で地震。	②雑書、相馬文書	
1767・7・10	明和4・6・15	08h, 沢内、南外(秋田県)で地震。 * 10h, 日光、江戸で地震。	②雑書、相馬家文書、日光社家御番所日記、御日記、榎原藩日記	
1767・7・21	明和4・6・26	晝、八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1767・10・22	明和4・9・30	10h, 八戸・弘前、宮城(宮城県)、耶麻(福島県)、高田で地震。 江戸では(11h, 02h)にも地震。 江戸5度、八王子、日光3度で強く揺れる。 江戸では屋根瓦落ち、家14~15軒潰れ、大水溢れる。 日光で彫り物抜け落ちる。	②大殿様御用人所日記、御日記[江戸・津軽]、幕府書物方日記、榎原藩日記[江戸・高田]、耶麻郡誌、木村家日記、石川日記、信繁公御代日記、日光社家御番所日記、新編総覧 ③廣瀬村愛子菅井甚兵衛氏所蔵曆(宮城郡誌)、新編日本被害地震総覧	江戸 λ = 139.8° E φ = 35.7° N (B) M = 6.0
1767・10・29	明和4・閏9・7	11h, 盛岡、日光で地震。	②雑書、日光社家御番所日記	

1767・10・31	明和4・閏9・9	08h, 盛岡、八戸・弘前で地震。	②雑書、八戸藩日記、御日記、大殿様御用人所日記	
1767・12・8	明和4・10・18	10h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1767・12・9	明和4・10・19	15h, 八戸・弘前(00h, 02h)にも地震。	②御日記、八戸藩日記	
1767・12・16 12・21	明和4・10・26	10h, 盛岡地方地震。 11月1日(12h) 地震。	②雑書	
1767・12・22	明和4・11・2	04h or 16h, 八戸地方地震。 11月3日(晝)も地震。	②八戸藩日記	
1768・1・8	明和4・11・19	22h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1768・1・18	明和4・11・29	仙台地方地震。肯山公、獅子公靈廟の碑傾く。	②六代治家記録徹山公、宮城県通史、中新田町史、東藩史稿、登米郡史 ③重訂宮城県郷土史年表、新編日本被害地震総覧	仙台
1768・2・21	明和5・1・4	22h, 盛岡、弘前(2度)で地震。	②雑書、封内事実秘苑	
1768・3・10	明和5・1・22	02h, 04h, 八戸地方2度地震。 1月24日(20h)も地震。	②大殿様御用人所日記	
1768・3・30	明和5・2・12	15h, 盛岡、八戸地方地震。	②大殿様御用人所日記、雑書	
1768・4・10	明和5・2・23	11h, 八戸・弘前で地震。	②大殿様御用人所日記、御日記	
1768・4・24	明和5・3・8	14h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1768・5・18 6・13	明和5・4・3	08h, 八戸地方地震。 4月29日(11h or 23h)も地震。	②大殿様御用人所日記	
1768・9・8	明和5・7・28	18h, 八戸・弘前、沢内(岩手県)で地震。 7月29日(00h, 05h) 八戸・弘前で2度地震。 八戸では屋根、塀は被害。 8月1日(14h) 八戸地方地震。	①南部沢内年代記(岩手県災異年表)、八戸藩史料 ②大殿様御用人所日記、御日記、奥南温古集、南部沢内年代記、八戸藩日記 ③岩手県災異関係行政資料、東北地方とその近海における地震活動、資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧、日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図	陸奥八戸
1768・10・12	明和5・9・2	15h, 八戸・弘前、盛岡、日光で地震。 八戸は前夜中地震があり、16hにも地震。 9月5日(01h) 八戸地方地震。 6日(02h) 八戸地方地震。	①八戸藩史料 ②雑書、御日記、奥南温古集、大殿様御用人所日記、日光社家御番所日記	
1768・11・3 11・10 11・19 12・12	明和5・9・24 10・11 11・4	暮、八戸地方地震。 10月2日(22h) 八戸地方地震。 03h, 八戸、盛岡で地震。 10h, 八戸地方地震。 11月5日(10h) 地震。 12月8日(14h) 地震。	②大殿様御用人所日記、雑書	
1769・1・15				

年 西曆	代 和曆	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「・」は同じ県で列挙。1.地域の場合一地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ④内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) 〔〕 地震被害等級 〔〕 津波規模
1769・一・一	明和6・一・一	沢内地方(岩手県)地震。	②、③南郡沢内年代記	
1769・4・21	明和6・3・15	12h,盛岡、弘前で地震。	②雑書,御日記	
1769・6・22	明和6・5・19	08h,八戸地方地震。 殿中、諸建物崩落土町屋破損。6月9日の地震か?	②奥南温古集 ③新編日本被害地震総覧	八戸 6月9日の誤記か?
1769・7・12	明和6・6・9	08h,八戸・弘前、盛岡・花巻、江戸で地震。 八戸では大橋五間落ち、南宗寺石塔石灯籠庫裡大門等破損。諸々破損。 弘前は続いて2度地震。 花巻は7日間揺れる。 6月11日(10h)八戸地方地震。 14日(度々)盛岡地方地震。	②八戸藩日記,雑書,封内事実秘苑,八戸藩勅定所日記,曆,御日記〔江戸・津軽〕 ③新編日本被害地震総覧	八戸 $\lambda = 141.6^\circ E$ $\phi = 40.6^\circ N$ (C) $M \approx 6\frac{1}{2}$ (?)
1769・7・22	明和6・6・19	10h,八戸地方地震。 損害あり。	①八戸藩史料 ②奥南温古集,八戸藩日記 ③日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 東北地方とその近海における被害地震総覧,資料日本被害地震総覧 新編日本被害地震総覧	八戸 3つの地震は群発か?誤記か?
1769・8・5	明和6・7・4	15h,17h,盛岡地方地震。	②雑書	
1770・3・1	明和7・2・4	10h,盛岡地方地震。	②雑書	
1770・3・25	明和7・2・28	05h or 17h,八戸地方地震。	②御用人所日記	
1770・5・27	明和7・5・3	06h,盛岡、江戸で地震。所々破損、人馬の死多数。	①岩手懸誌資料(岩手県災異年表),宮地日記 ②御日記 ③日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 資料日本被害地震総覧,新編日本被害地震総覧,東北地方とその近海における被害活動,岩手県災異関係行政資料	陸中盛岡 要再考
1770・6・12	明和7・5・19	24h,八戸地方地震。	②新御殿御用人所日記	
1770・6・26	明和7・6・4	04h,八戸、沢内(岩手県)で地震。	①南郡沢内年代記 ②御用人所日記	
1770・7・26	明和7・閏6・4	04h,沢内(岩手県)地方地震。	②南郡沢内年代記 ③岩手県災異関係行政資料,岩手県災異年表	
1770・9・22 11・25 12・15	明和7・8・4	02h,八戸地方2度地震。 10月9日(03h)地震。 29日(12h or 24h)地震。	②御用人所日記,新御殿御用人所日記	
1771・6・15	明和8・5・3	11h or 23h,大船・大原(岩手県)で地震。 大船では石崩れ、死者3、馬9頭死ぬ。	②時事見聞録 ③大船地方年表	

1771・11・11	明和8・10・5	大原では膳・椀・鍋・釜破損、酒溢れる。 安永元年地震か? 10h,八戸・弘前、盛岡・花巻、日光で地震。	②新御殿御用人所日記,御日記,雑書,曆,日光社家御番所日記	
1771・11・24	明和8・10・18	16h,盛岡地方地震。	②雑書	
1772・4・4	安永1・3・2	10h or 22h,八戸地方地震。	②御用人所日記	
1772・5・5	安永1・4・3	12h,14h,八戸・弘前で地震。 弘前は2日、10日、13日、15日にも地震。	①封内事実秘苑 ②御日記,新御殿御用人所日記	
1772・6・1	安永1・5・1	11h or 23h,八戸地方地震。	②新御殿御用人所日記	
1772・6・3	安永1・5・3	10h,北東北で地震。日光、八王子、江戸で有感。 ④地震被害の概略は別表2「安永地震による各地の被害」等参照。 1987年1月9日の岩手県中部沿岸地震に似ており、同様のものであるとすると「やや深発性」の沿岸部地震となる。 5月3日(02h)にも地震。 沢内・平泉で暮までに数度地震。 10日(17h)弘前で地震。 13日沢内で地震(10h)、暮までに4~5度。 津軽地震(08h)盛岡2度地震(08h,11h)。 14日(10h or 22h)沢内地方で地震。 19日(06h)盛岡地方地震。 6月9日、14日沢内地方地震。 27日(11h)盛岡、八戸・弘前で地震。	陸前・陸中 $\lambda = 143.5^\circ E$ $\phi = 39.5^\circ N$ (C) $M \leq 7.5$ [III]	
1772・12・24	安永1・12・1	09h or 21h,八戸地方地震。	②新御殿御用人所日記	
1773・3・5	安永2・2・13	09h,八戸・弘前で地震。 2月18日(17h)八戸地方地震。	②新御殿御用人所日記,御日記	
1773・4・2 4・5 6・19 7・5	安永2・3・11 3・14 4・30	12h,八戸地方地震。 02h,八戸・弘前で地震。 暮,八戸地方地震。 5月16日(02h)地震。	②新御殿御用人所日記,御日記	
1773・7・21	安永2・6・2	01h,盛岡地方地震。	②雑書	
1773・8・8 9・5	安永2・6・20	23h,八戸地方地震。 7月19日(16h)地震。	②新御殿御用人所日記	
1774・1・9	安永2・11・27	夜,八戸地方地震。 12月3日(22h)地震。 7日(20h)地震。	②御用人所日記	

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「」は他県・「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 (①内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの)	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震原の緯度・経度・規模・深さ) ① 地震被害等級 ◇ 津波規模
1774・6・11	安永3・5・3	大越(若手県)地方に地震。地割れ、泥の噴出、山崩れあり。落石で圧死するものあり。(若手県)に津波? 安永1年5月8日の地震か?	①大越藩事梅狂録 ②津波と防災、奥南見聞録 ③若手県災害関係行政資料、若手県史、気仙年代表、梅狂見聞録(大越町漁業史)、日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図、広田漁業史、資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧、東北地方とその近海における地震活動大越地方年表、赤崎村史、広田村郷土教育資料、米崎村誌、綾里村誌、宮古のあゆみ	
1774・11・5	安永3・10・2	志津川(宮城県)に津波。家屋等流出。追まで海鳴りが聞こえた。	②年々出来事記	
1775・11・3	安永4・10・11	08h,八戸・弘前で地震。	②八戸藩日記,御日記	
1776・5・25	安永5・4・8	八戸地方地震。 4月17日(晩)も地震。 07h,地震。 8月5日(11h or 23h)も地震。	②御用人所日記	
9・6	7・24			
1776・9・26	安永5・8・14	11h,弘前・八戸、秋田で地震。	②御用人所日記,御日記,伊頭國森話	
1777・5・6	安永6・3・29	八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1777・11・3	安永6・10・4	16h,八戸、江戸で地震。	②御用人所日記,宴遊日記	
1778・2・7	安永7・1・11	12h or 24h,八戸地方地震。	②八戸藩日記	
1778・2・15	安永7・1・19	06h,盛岡地方地震。	②雑書	
1778・2・18	安永7・1・22	15h,八戸地方地震。 3月26日(22h)地震。 4月10日(04h or 16h)地震。 8月1日(04h)地震。 2日(晩)地震。 7日(22h)地震。 9月2日地震。	②御用人所日記	
4・23				
5・6				
9・21				
10・21				
1779・11・9	安永8・10・2	稲井(宮城県)地方地震。	②稲井町史	
1780・6・13	安永9・5・11	花巻地方地震。	②曆	
1780・7・4	安永9・6・3	12h,弘前、盛岡・花巻で地震。	②曆,御日記,雑書,	
1780・7・20	安永9・6・19	04h,盛岡・花巻・沢内で地震。 酒田付近を震源とする地震の震動。 酒田で土蔵1、家1倒壊、死亡2。地割れ、泥水噴出。 亀ヶ崎城の鳩居、壁等落ちる。余目で土蔵家屋破壊。	①本藩暦年震源圖、南部沢内年代記(若手県災異年表), 角館火災地震年譜、編年私記、酒田港誌、温海町史 ②雑書,曆,御日記,大泉百談、編年私記、金浦町郷土史年表、東田川郡郷土教育資料、喜浦氏年代記	酒田 λ=139.9°E φ=38.9°N (B) M=6.5(?)

1781~1789	天明年間	金浦(秋田県)落石で津波になる。 秋田・角館・弘前も有感。秋田で家屋の破損あり。 余震は19日(10h)に3度、14hなど)13度。20日は5~6度。数日続く。 陸前に津波。 大島(宮城県気仙沼市)で被害大[口碑]。	表、北家御日記、大内村郷土誌、石井忠通日記、象潟町史、郷土史年表、 ③若手県災害関係行政資料、新編日本被害地震総覧	
1781・1・30	天明1・1・7	1月8日(08h or 20h)地震。 13日(16h)地震。 15日(06h or 18h)地震。	①宮城懸海備誌 ②唐桑町史、本吉郡誌 ③宮城懸海和震備誌、気仙沼市史	
1781・3・7	天明1・2・13	10h,八戸・弘前、盛岡、佐渡、松山(山形県)で地震。	②中新田町史	
1781・4・7	天明1・3・14	14h,盛岡2度(13h,14h)・花巻2度(15h,16h)、八戸・弘前、金井(山形県)、浦谷・小牛田(以上宮城県)、日光、江戸で地震。	②曆	
1781・4・15	天明1・3・22	花巻、金井(山形県)、2度、朝倉後、14h)地震。 同日江戸(10h,16h)、八王子(14h)でも地震あり。	①左渡年代記,某舊記 ②御日記,雑書,松山町史年表	
1781・4・18	天明1・3・25	09h,盛岡、金井(山形県)、江戸で地震。	①葛西日記 ②雑書,御日記,八戸藩日記,曆,谷柏村御用留帳,浦谷町史,小牛田町史,宴遊日記,日光社家御番所日記	
1781・5・7	天明1・4・14	花巻地方地震。 5月13日 地震。	②曆,谷柏村御用留帳,石川日記,宴遊日記	
6・4			②雑書,谷柏村御用留帳,宴遊日記	
1782・3・30	天明2・2・17	牡鹿地方地震。 3月5日 地震。	②曆 ③花巻年表	
4・17			③天明凶年記集(牡鹿郡誌)	
1782・7・7	天明2・7・7	追(宮城県)地方地震。 7月15日の地震か?	②年々出来事記 ③年々出来事記	
1782・8・23	天明2・7・15	陸中に津波。住民、家屋に被害。 相模・武蔵・甲斐の地震津波によるものとされるが疑問。 弘前では15日(15h),16日(09h)地震。 矢祭(福島県)では15日(00h,20h)に地震。所々破壊。	①岩手懸沿岸大海嘯取調書,その他略 ②略 ③山田町津波誌、大槌町史,チリ地震津波調査報告、鶴住居小史 資料編、三陸沿岸津波疏本、資料日本被害地震総覧	相模・武蔵・甲斐 λ=139.1°E φ=35.4°N (B) M=7.0 熱海に津波があったことを示す資料あり
1782・9・21	天明2・8・15	09h,八戸・弘前で地震。江戸も有感。 八戸では諸士町家に被害。大雨による被害の可能性あり	①八戸藩史料,葛西日記 ②宴遊日記,御日記,奥南温古集,八戸藩勘定所日記 ③日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 資料日本被害地震総覧,新編日本被害地震総覧, 東北地方とその近海における地震活動	陸奥八戸
1782・10・1	天明2・10・1	登米地方地震。	②登米郡史(宮城県気象災異年表)	

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇h.は地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ④内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) 〇 地震被害等級 ◇ 津波規模		
					②古川市史 ③天明凶年記集(加美郡誌)	②古川市史 ③天明凶年記集(加美郡誌)
1783・1・19	天明2・12・17	16h,古川・加美(宮城県)地方地震。				
1783・4・6	天明3・3・5	10h~12h,古川・加美(宮城県)地方地震。				
1783・8・1	天明3・7・4	10h or 22h,八戸地方地震。 8月4日も地震。				
1783・12・10	天明3・11・17	10h,盛岡、弘前で地震。				
1784・1・12	天明3・12・20	16h,八戸・弘前・五所川原、盛岡で地震。 同日江戸(10h,12h,16h,02h)でも地震あり。				
1785・2・8?	天明4・12・31?	佐沼・米谷(宮城県)地方地震。				
1785・--・--	天明5・--・--	中新田(宮城県)地方地震。				
1785・6・6	天明5・4・29	08h,盛岡、弘前で地震。				
1785・8・4	天明5・6・30	14h,盛岡地方地震。				
1786・1・29	天明5・12・30	20h,盛岡・花巻、金井(山形県)・[山形]、矢祭(福島県)、八王子、江戸(2度 21h,23h)で地震。				
1786・--・--	天明6・--・--	河南・中新田・登米(以上宮城県)で地震。				
1786・3・31	天明6・3・2	16h,盛岡5度・花巻5度、弘前で地震。				
1786・9・9	天明6・8・17	10h,盛岡地方地震。				
1786・10・5	天明6・9・14	10h,盛岡、弘前で地震。				
1786・11・5	天明6・10・15	夜明、一関地方地震。 10月19日(昼)も地震。				
1787・1・10	天明6・11・21	14h,盛岡地方地震。				
1787・2・13	天明6・12・26	09h,盛岡、弘前で地震。				
1787・3・22	天明7・2・3	23h,盛岡、米沢で地震。				
1788・5・15	天明8・4・10	10h,花巻地方地震。				

1789 ~1800	寛政年間	三陸沿岸に地震、津波。 雄勝(宮城県)で床上浸水2尺。	①宮城懸昭和震囁誌 ③雄原記録	
1789・7・3	寛政1・6・11	07h,八戸・弘前(2度 07h,10h)、花巻で地震。 6月14日(10h)盛岡・花巻、弘前、江戸で地震。 27日(15h)花巻、弘前で地震。	①木澤曆年龜鑑圖 ②雑書、歴、御日記[江戸・津軽]、八戸藩日記、奥南温古集 ③歴	
1790・10・24 11・12	寛政2・9・17	08h,盛岡地方地震。 10月6日(02h)地震。 15日(22h)地震。 12月13日(18h)地震。	②雑書	
1791・1・17				
1791・2・6	寛政3・1・4	10h,盛岡、弘前で地震。	②雑書、御日記、在国日記	
1791・6・30	寛政3・5・29	08h,盛岡・花巻、弘前、八王子、江戸で地震。	②雑書、歴、御日記[江戸・津軽]、石川日記、松鶴日記、柳原藩日記	
1791・7・29	寛政3・6・29	花巻地方地震。	③歴	
1791・--・--	寛政3・8下旬	昼夜、雫石地方震動。	②雫石蔵代日記	
1791・11・2	寛政3・10・7	10h,盛岡地方地震。	②雑書	
1792・11・19	寛政4・10・6	16h,花巻地方地震。	②歴	
1792・11・29	寛政4・10・16	14h,下北(青森県)で地震。	①菅江真澄遊覧記	
1793・1・24	寛政4・12・12	朝、むつ地方地震。	①菅江真澄遊覧記	
1793・2・8	寛政4・12・28	14h,青森県西方沖の地震津波。 深浦・鮎ヶ沢で被害大。 むつ(青森県)、河南(宮城県)、矢祭(福島県)も震動。 余震続く。	①津軽年表、工藤家記、佐藤家記、津軽藩日記、菅江真澄遊覧記 奥羽西部ノ地震帯 ②御用格、御日記[江戸・津軽]、平山日記、封内事実秘苑、要記秘鑑、伊藤家大鑑録、鮎ヶ沢町史、万覚帳、鮎ヶ沢町史年表 河南町誌、津軽俗説後々拾遺 ③青森県の地震津波、チリ地震津波調査報告、三陸沿岸津波読本 資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧、日本被害津波総覧、東北地方とその他の近海における地震活動、刈	西津軽 λ=139.95° E φ=40.85° N (A) M=6.9 ~7.1 [II] < 1 >
1793・2・17	寛政5・1・7	12h,陸前・陸中・磐城に地震津波。 八戸 大地震3度、堤・橋に被害。 弘前 旧冬より地震。酒蔵割れ、潰家あり。 花巻 日暮まで大地震5度、町家・土蔵に被害。 北上 黒沢尻・高清水・花山・藤里・若柳 瀬峰 米岡在で40軒倒壊。 鹿又 大罹。 仙台 石垣破損、町家多数倒壊。 福島 土蔵20軒、家20軒潰れる。 相馬 粉蔵・味噌蔵潰れる。	①岩手懸沿岸大海嘯取調書、古瀬山主翁記録、武蔵六右衛門所蔵記録、菅江真澄遊覧記、大鑑記録抄、盛藩年表(若手県災異年表)、天保年中巴荒子孫傳、東藩史稿(宮城県災異年表)、慶弘紀聞、春水日記、武江年表、宮地日記、大越海嘯略誌、刈田郡誌 ②雑書、奏款難秘抄、歴、岩手県史、大槻支記録、篤馬家訓、奥南見聞録、八戸藩勘定所日記、古史伝書記、九戸地方史、若手懸津浪史、金市誌、雫石蔵代日記、凶年表、時事見聞録、皆川家日記、御用人所日記、八戸藩日記、封内事実秘苑、永書、元和元年ヨリ蔵之吉凶留帳・年々出来事記、塩釜町方留書、塩釜市史、瀬峰町史、中新田町史、高清水町史、花山村史、河南町誌、山下先祖代々記、登米町史編纂史料集、星彦市家督面裡	陸前・陸中・磐城 λ=144.5° E φ=38.5° N (D) M=8.0 ~8.4 [IV] < 2 > 余震が多く、長く続き、また津波は相馬・いわきで引きで始まった。このことから、この地震は昭和8年よりは明治29年の三陸沖地震に似る。

西暦	年	代和暦		地震・津波に関する記事の概要 (地名の「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付しは他県・「・」は同じ県で列挙。2つある場合は2度発生)。 数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ④内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
		西暦	和暦			
				大原・江刺・藤沢(以上岩手県)、塩釜・中新田・登米(以上宮城県)、矢祭・田島・三春(以上福島県)、鶴岡・米沢(山形県)、空閑(茨城県)、日光・赤城、八王子・川越(埼玉県)、江戸・甲府、御殿場で震動。 八戸から泉(福島県)まで津波。 八戸・山田・大槌・金石 家屋流出破壊83、死11外。 宮古・山田・大槌・金石 家屋流出78軒。 大船渡 湾内の塩場石埋流出。 陸前高田 人家3〜4尺浸水。 石巻 小淵で40軒流出。 雄勝 床上浸水2尺。 泉 流死者あり。 余震は翌年10月まで続く。 1月7日 地震発生直後〜暮まで 地震22度(5度大地震) 1月7日 花巻 18h まで地震37度 1月7日 追 相馬 18h まで地震11度 1月7日 福島 19h に大地震 1月7日 山形 地震20度 1月7日 江戸 地震20度余 1月7日 12h ~13h 大小3度、14h ~15h 大小12度、16h ~17h 4度、18h ~20h 繰り返し続く、21h 1度、22h 2度、24h 3度 御殿場 20h まで地震3〜4度 甲府 地震5〜6度 1月7日 花巻 夜地震6度 1月7日 追 仙台 18h ~8日06h までに地震8〜9度 1月7日 相馬 地震54〜55度(22h に大地震) 1月7日 米沢 地震8〜9度 1月8日 八戸 度々地震 1月8日 追 塩釜 地震3度 1月8日 追 仙台 地震3〜4度 1月8日 追 仙台 晩地震 1月8日 相馬 昼夜地震30度余 1月8日 8〜9度 暮に大地震 1月8日 山形 朝から教度 暮大地震 1月8日 米沢 朝より地震教度 18h 大地震 1月8日 御殿場 18h、9日02h 地震 1月8日 甲府 夜中3度地震	書、中村藩新妻常手記、忠壽公当御代京藩家譜、福島県史、万寛庵、農業耕作帳、藤原家記、明光寺過去帳(東邊野概中)藤里村誌、大京百談、瀧沢八郎兵衛日記、東置賜郡史、矢島の古文書散歩、藤林年表、三重年表、米沢里人談、御年表並月表上杉家御年譜、米沢大年表、越後野誌、宿直所日記(日光社家御審所日記)、表日記、松平藩史料、赤城神社年代記、粕川村誌、永代記録帳、幕府書物方日記、柳原藩日記、坂田家御用日記、名主日記、石川日記、若柳町史 ③梅狂早開録(江戸地方史・大槌町漁業史)、大槌代官支配録、日本付近の地域領域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧、三陸沿岸津波読本、東北地方とその近海における地震活動、大槌官職記大槌古今代伝記(金石市誌)、西石浦大重抄之事、大槌官職記(大槌地方年表)、上閉伊郡誌、厩代年譜考、大図日記、若柳年代表(東原郡誌)、雄保記録、先代より神社仏閣奇附及び当代迄相編御真方書物等写帳、世乃中吉凶之事、津波懸該親異常気象報告6002、青森県の地震津波、気仙郡海嘯誌、ちり地震津波調査報告、岩手県災害関係行政資料、宮城県史、日本被害津波総覧、赤崎村史、綾里村誌、瓜田村郷土教育資料、末崎村誌、宮古のあゆみ、気仙沼市史、見聞帳、世間風情書之事、年代風物物語	

1月9日 江戸 08h 3度、10h 2度、12h 3度、18h 1度、20h 3度、22h 2度、24h 5度地震	度々地震	御殿場 07h 地震
1月9日 八戸 地震36度	23h 地震	1月10日 八戸 地震
1月9日 追 仙台 地震17度	地震5度	24h 大地震で家蔵転ぶ
1月9日 相馬 地震10〜11度	地震 7〜8度地震	仙台 晩地震
1月9日 福島 地震少々	2度 24h の地震大	相馬 地震
1月9日 米沢 救度地震	少々地震	福島 地震大
1月9日 日光 朝地震	24h 地震大	米沢 地震大
1月9日 江戸 10h 1度、12h 1度、14h 3度、16h 1度、24h 1度地震	甲府 24h 地震大	八王子 24h 地震
1月10日 御殿場 07h 地震	江戸 08h 1度、10h 2度、24h 3度地震	1月11日 追 仙台 10日から11日明前までに11度地震
1月10日 八戸 地震	御殿場 22h 地震	11日は22度地震
1月10日 追 仙台 地震	仙台 地震	5〜6度
1月10日 相馬 地震	仙台 地震	10日から11日明までに2度地震
1月10日 福島 地震	福島 地震	11日は2度地震
1月10日 江戸 地震	福島 大地震	暮 大地震
1月10日 追 相馬 地震	江戸 地震	02h 1度、14h 1度地震
1月10日 追 仙台 地震	相馬 地震	8度地震
1月10日 追 仙台 地震	明け方、19h 地震	相馬 06h 地震。怪我1、土蔵20潰、家屋20潰
1月10日 追 仙台 地震	江戸 18h 地震	御殿場 20h 地震
1月10日 追 仙台 地震	御殿場 地震	1月13日 追 2度、相馬5度、江戸で地震
1月10日 追 仙台 地震	追 2度、相馬2度で地震	1月14日 追 2度、相馬2度で地震
1月10日 追 仙台 地震	追 2度、夜2度地震	1月17日 追 2度、夜2度地震
1月10日 追 仙台 地震	追(00h)、相馬(02h、15h)で地震	1月18日 追(00h)、相馬(02h、15h)で地震
1月10日 追 仙台 地震	追(16h)、相馬(02h、06h、18h)で地震	1月19日 追(16h)、相馬(02h、06h、18h)で地震
1月10日 追 仙台 地震	追(02h、10h、12h、18h)、相馬(10h、14h)で地震	1月20日 追(02h、10h、12h、18h)、相馬(10h、14h)で地震

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇h」は地震発生時間、2つある場合は2度発生)	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ④内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1783・4・17	寛政5・3・7	1月21日 相馬(06h, 16h) で地震 1月22日 追(10h, 24h)、相馬(06h, 16h) で地震 1月23日 追(08h, 22h)、相馬(20h, 22h) で地震 1月24日 追(00h, 04h, 12h)、相馬(04h, 12h) で地震 1月26日 相馬(明け方) 地方地震 1月28日 追(10h)、相馬(明け方2度) 地震 2月1日 相馬(明け方) 地方地震 2月5日 追(02h) 地方地震 2月6日 追(24h)、相馬(23h) で地震 2月7日 追(22h)、相馬(屋2度) で地震 2月9日 追(12h) 地方地震 *米沢(17h) 地震。暁まで14~15回地震 2月9日 追(06h) 1度、屋3度、夜2度、相馬(屋2度、夜2度) で地震 2月10日 相馬(屋2度、夜2度) で地震 2月11日 追(屋2度)、相馬で地震 2月12日 追(屋2度)、相馬で地震 2月19日 追(14h) 地方地震 2月20日 追(08h) 地方地震 2月21日 追(06h) 地方地震 これより日々地震 2月21日 相馬屋3度、夜1度地震 3月6日 相馬(10h, 暮) 地方地震 各地の余震状況 雲石 3月まで地震 花巻 1月13日まで昼夜15~16度 宮古 2月中全日全夜 大船 2~3月まで 大原 2月上旬まで 塩釜 3月7日まで日々5~7度 山形 1月14日までやまず	①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ④内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模

1783・4・17	寛政5・3・7	矢祭 1月13日までやまず 赤城 1月13日まで昼夜、2月も度々	①春水日記 ①御日記、牧野家御家譜、万賞帳、元和元年ヨリ歳之吉凶留帳、年々出来事記、桐原藩日記、石川日記、御直所日記(日光社家御番所日記)、坂田家御用日記、庄田日記、御年表並月表、塩釜町方留書、赤城神社年代記、中村藩新妻陰常手記 ③新編日本被害地震総覧	三陸沖?
1783・4・18	寛政5・3・8	弘前(04h)、追(10h)、相馬(夜明、14h, 16h) で地震。相馬に10月までの地震記録あり。	②元和元年ヨリ歳之吉凶留帳、中村藩新妻陰常手記	
1783・5・1	寛政5・3・21	08h or 20h, 追地方地震。それより度々地震。家蔵、小家、馬家、便所転び人は気絶。	②元和元年ヨリ歳之吉凶留帳	
1783・一・一	寛政5・5・一	金ヶ崎(岩手県) 地方地震。承德寺本堂、土蔵破壊。	②水沢市承德寺古文書	陸前登米町
1783・一・一	寛政5・7・一	登米(宮城県) 地方地震。家屋の倒壊、破損多。	②登米町史編纂史料集 ③新編日本被害地震総覧	
1783・8・26	寛政5・7・20	02h or 14h, 八戸地方地震。	②御用人所日記	
1783・10・1	寛政5・8・27	06h, 八戸・弘前、相馬(朝) で地震。	②勘定所日記、御日記、中村藩新妻陰常手記	
1783・10・31	寛政5・9・27	15h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1783・12・15	寛政5・11・13	16h, むつ・弘前で地震。	①菅江貞澄遊覧記 ②御日記	
1784・5・18	寛政6・4・19	08h, 盛岡、弘前で地震。	②雑書、御日記	
1784・11・25	寛政6・11・3	00h, 仙台・追(宮城県 04h)、花巻、弘前で地震。江戸を震源とする地震。鳥取藩土屋敷土蔵2か所倒れ、幕府書物方の番所壁・蔵蔵落ちる。日光、甲府、矢祭(福島県) も震動。	①秦平年表、文恭院實紀 ②鳥府藩秘録、御在府日記、御日記[江戸・津軽]、桐原藩日記、四井屋久兵衛覚之事(西宮市史)、万覚帳、御用日記、曆御番所日記、幕府書物方日記、坂田家御用日記、曆 ③廣瀬村愛子菅井甚兵衛所蔵曆(宮城郡誌)、日本災異志、武江年表、新編日本被害地震総覧、年々出来事記	江戸
1785・1・30	寛政6・12・10	10h, 盛岡、弘前で地震。	②雑書、御日記、封内事夷秘苑	
1785・11・20	寛政7・10・9	08h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1785・11・24	寛政7・10・13	08h, 盛岡、弘前、江戸で地震。10月17日(06h) 盛岡、江戸で地震。	②雑書、御日記[江戸・津軽]、小野田孝徴日記	
1785・12・31	寛政7・11・21	06h, 盛岡地方地震。	②雑書	
1786・1・4	寛政7・11・25	15h, 盛岡、江戸で地震。	②雑書、御日記	

年 西 曆	代 和 曆		地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合1地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ④内は前記史・資料を引用している文献で⑤にあたるもの (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 △ 津波規模	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 △ 津波規模
	西 曆	和 曆			
1797・2・3	寛政9・1・7	06h, 八戸地方地震。	②遠山家日記		
1797・11・14 11・17 12・26	寛政9・9・26	夜 むつ(田名辺、青森県)地方地震。 9月29日(10h or 22h)地震。 11月9日(10h or 22h)地震。 12月21日(18h)地震。	②雑書		
1798・2・6 3・5 5・2 5・7 6・6 6・11 6・19	寛政10	1月18日(10h or 22h)地震。 3月17日(22h)地震。 22日(10h or 22h)地震。 4月22日(06h or 18h)地震。 27日(06h or 18h)地震。 5月6日(06h or 18h)地震。	③年々出来事記		
1798・7・15	寛政10・6・2	20h, 迫(宮城県)地方地震。	②雑書		
1798・8・7 9・18	寛政10・6・25	04h, むつ(田名辺、青森県)地方地震。 8月9日(16h)も地震。	②雑書		
1799・1・1 2・7 2・14	寛政11	11月26日(04h or 16h)地震。 1月3日(00h or 12h)地震。 10日(夜)地震。	③大越地方年表		
1799・2・20	寛政11・1・16	晩, 釜石地方地震。 海辺大騒ぎ。	②雑書		
1799・3・9	寛政11・2・4	00h or 12h, むつ(田名辺、青森県)地方地震。	②雑書		
1799・6・25	寛政11・5・22	04h, 迫(宮城県)地方地震。	③年々出来事記		
1799・8・16 9・27 11・7	寛政11・7・16	02h or 14h, むつ(田名辺、青森県)地方地震。 8月26日(晴)地震。 10月10日(02h)地震。	②雑書		
1800・2・20 2・27 5・9 5・17	寛政12	1月27日(10h or 22h)地震。 2月4日(10h or 22h)地震。 4月16日(02h or 14h)地震。 22日(00h or 12h)地震。	②雑書		
1800・6・13	寛政12・閏4・21	15h, むつ(田名辺、青森県)・弘前地震。	②雑書, 御日記		
1800・6・23	寛政12・5・2	盛岡地方地震。	②雑書		
1800・8・10 8・27	寛政12・6・22	08h, むつ(田名辺、青森県)地方地震。 7月8日(10h or 22h)地震。	②雑書		
1801・1・25	寛政12・12・11	13h, 盛岡、むつ(田名辺、青森県)・弘前地震。	②雑書, 御日記		
1801・3・6	享和1・1・22	夜, むつ(田名辺、青森県)地方地震。	②雑書		

1801・4・13	享和1・3・1	06h, 花巻、弘前で地震。	②曆, 御日記		
1801・4・13	享和1・3・1	晩, むつ(田名辺、青森県)地方地震。 3月5日(08h)も地震。	②雑書		
1801・9・6	享和1・7・29	06h, 盛岡地方地震。	②雑書		
1801・10・20	享和1・9・13	20h, 八戸地方地震。	②御用人所日記		
1801・11・15	享和1・10・10	22h, むつ(田名辺、青森県)地方地震。	②雑書, 御日記		
1802・1・3	享和1・11・29	13h, むつ(田名辺、青森県)・弘前で地震。	②雑書, 御日記, 警備日誌		
1802・5・24	享和2・4・23	むつ(田名辺、青森県、11h, 18h)・弘前(18h)で地震。	②雑書, 御日記		
1802・5・31	享和2・5・1	08h, 弘前・八戸、秋田、遠田郡(宮城県)地震。	①日本地震史料年表 ②御日記, 御用人所日記, 野上陳令日記		
1802・6・8	享和2・5・9	10h, むつ(田名辺、青森県)地方地震。 昨夜22h, むつ・弘前で地震。	②雑書, 御日記		
1802・8・24	享和2・7・27	夜, むつ(田名辺、青森県)地方地震。	②雑書		
1803・2・19	享和3・1・28	10h or 22h, 盛岡地方地震。	②雑書		
1804・7・10	文化1・6・4	22h, 象潟で地震。 松前、弘前、気仙沼、南郷(宮城県)でも震動。 5日、6日余震。	①資料 ②松前蝦夷記, 封内事実秘苑, 御日記, 古川市史その他略 ③遠田郡南郷村高橋氏磨面算書(浦合町付近災異誌), 見聞帳 新編日本被害地震総覧 その他略	羽前・羽後 λ=139.95° E φ=39.05° N (B) M=7.0 ±0.1 [II]	
1807・3・18	文化4・2・10	10h, むつ2度(08h, 田名辺、青森県)・弘前、江戸で地震。	②御日記, 備原蕃日記, 文化四年御山御用留		
1808・3・31	文化5・3・5	24h, 花巻、弘前で地震。	②曆, 御日記		
1808・8・7	文化5・閏6・16	08h, 八戸・弘前、花巻、松前、鶴岡、日光、江戸、近江八幡(滋賀県)で地震。	②和田家諸用記録, 御日記, 八戸藩日記, 曆, 瀧沢八郎兵衛日記 御用日記(日光社家御審所日記), 備原蕃日記, 市田家日記	*梁発地震か	
1809・7・26	文化6・6・14	08h, 弘前、北上(黒沢尻、岩手県)、鶴岡で地震。	②和田家諸用記録, 瀧沢八郎兵衛日記, 御日記		
1809・10・16	文化6・9・8	むつ(田名辺、青森県)地方地震。	②御用留		
1810・1・18	文化6・12・13	24h, 花巻地方地震。	②曆		
1810・4・2	文化7・2・29	07h, むつ(田名辺、青森県)・弘前で地震。	②御日記, 御用留		
1810・4・10	文化7・3・7	18h, 弘前、遠田郡(宮城県/22h)、鶴岡、江戸で地震。	①日本地震史料年表 ②備原蕃日記, 瀧沢八郎兵衛日記, 御日記		

年 西 暦	年 和 暦	代	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「・」は同じ県で別添。1地域の場合は「地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1810・5・9 11・3	文化7・4・7	和	むつ (田名辺、青森県) 地方地震。 10月7日 地震。	①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 (内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの)	
1811・1・29	文化8・1・5	和	06h, 八戸地方地震。	②御用留	
1811・3・6	文化8・2・12	和	04h, むつ (田名辺、青森県) ・弘前で地震。	②御用留, 御日記	
1812・4・11	文化9・2・30	和	朝, むつ (田名辺、青森県) 地方地震。	②御用留	
1812・6・29	文化9・5・21	和	14h, 八戸・弘前・むつ (田名辺、青森県) ・鶴岡、江戸で地震。	②御用留, 遠山家日記, 瀧沢八郎兵衛日記, 八戸藩勘定所日記, 御日記 [江戸・津軽]	
1812・10・3	文化9・8・28	和	22h, むつ2度 (田名辺、青森県) ・八戸・弘前で地震。 8月29日(04h or 16h) むつ地震。	②御日記, 御用留, 遠山家日記, 八戸藩日記	
1812・11・10	文化9・10・7	和	04h, 八戸、鶴岡で地震。	②遠山家日記, 瀧沢八郎兵衛日記	
1812・12・8	文化9・11・5	和	19h, むつ (田名辺、青森県) 地方地震。	②御用留	
1813・1・8	文化9・12・6	和	16h, むつ (田名辺、青森県) ・弘前で地震。	②御用留, 御日記	
1813・2・4	文化10・1・4	和	03h, 八戸地方地震。	②遠山家日記, 御用人所日記	
1813・3・22	文化10・2・20	和	晝, 遠田郡 (宮城県) 地方地震。	①日本地震史料年表	
1813・3・24	文化10・2・22	和	10h, 仙台、矢祭 (福島県) ・秩父で地震。	②万覚帳, 升屋平右衛門仙台下向日記, 三峰神社日鑑	
1813・8・6	文化10・7・11	和	朝, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1813・10・10	文化10・9・17	和	24h, 八戸・弘前で地震。	②遠山家日記, 御日記	
1814・1・4	文化10・閏11・13	和	05h, 弘前・八戸、鶴岡、日光、近江八幡、金沢、岡山で地震。	②遠山家日記, 御日記, 瀧沢八郎兵衛日記, 表日記, 市田家日記 御村日記, 御留方日帳	* 深発地震小
1815・2・11	文化12・1・3	和	昼, 八戸地方地震。	②御用人所日記	
1815・2・13	文化12・1・5	和	18h, 花巻・弘前で地震。	①葛西日記 ②暦, 御日記	
1815・2・27	文化12・1・19	和	花巻2度(00h, 12h) ・鶴岡3度(02h, 04h, 屋前) ・磐城(13h) ・江戸(18h) で地震。	①補原藩日記, 御日記, 瀧沢八郎兵衛日記, 和田家諸用記録 暦,	
1815・2・28	文化12・1・20	和	02h, 遠田郡 (宮城県) 地方地震。 1月21日(14h) も地震。	①日本地震史料年表	

1816・1・1	文化13・1・1	和	河南・中新田 (宮城県) で地震。	①河南町誌, 中新田町史	
1816・7・10	文化13・6・16	和	08h, 遠田郡 (宮城県) 地方地震。 * 銚子(02h) で地震。	①日本地震史料年表 ②玄蕃日記	
1817・5・3	文化14・3・18	和	花巻2度(20h) ・一関、佐沼・米谷 (宮城県) ・弘前(22h) ・鶴岡(22h) ・釧路2度 (後半) で地震。 3月19日弘前(04h) ・鶴岡(04h) で地震。 花巻は20日まで地震。	①葛西日記 ②暦, 瀧沢八郎兵衛日記, 米谷郷土史年表, 佐沼郷土史年表, 御日記, 國泰寺日鑑 ③暦代年譜考	
1817・7・30	文化14・6・17	和	09h, 弘前、迫 (宮城県) ・湯沢 (秋田県) ・鶴岡、江戸、武蔵で地震。 6月22日(18h) 迫 (宮城県) 地方地震。	①一茶七番日記, 権書樓日記 ②補原藩日記, 御日記, 佐竹南家御日記, 瀧沢八郎兵衛日記 ③年々出来事記	
1817・12・29	文化14・11・22	和	10h, 迫 (宮城県) ・江戸で地震。 11月24日(10h) 迫地方地震。	①権書樓日記 ③年々出来事記	
1818・2・1	文化14・12・26	和	迫 (宮城県) 地方地震。	③年々出来事記	
1818・9・4	文政1・8・4	和	02h, 八戸・弘前・鶴岡・釧路で地震。	②遠山家日記, 御日記, 國泰寺日鑑, 瀧沢八郎兵衛日記	
1818・9・4	文政1・8・4	和	昼, 盛岡地方地震。	②雑書	
1819・5・27	文政2・閏4・4	和	迫 (宮城県) 地方地震。	③年々出来事記	
1819・6・6	文政2・閏4・14	和	23h, 花巻地方地震。	②暦	
1819・7・28	文政2・6・7	和	暮, 遠田郡 (宮城県) 地方地震。	①日本地震史料年表	
1819・8・6	文政2・6・16	和	迫 (宮城県) 地方地震。	③年々出来事記	
1819・10・4	文政2・8・16	和	陸中地震。	②奥南温故録	
1820・10・7	文政3・9・1	和	迫 (宮城県) 地方地震。 * 甲府(14h) ・江戸(12h) 地震。	②坂田家御用日記, 補原藩日記 ③年々出来事記	
1821・9・2	文政4・8・6	和	10h, 花巻地方地震。	②暦	
1821・9・12	文政4・8・16	和	11h, 弘前・鶴ヶ沢・八戸、鶴岡で地震。 八戸では殿中及び御垣破損、南宗寺・本寿寺石碑痛む。 青森で小戸屋根落ち、子供1人死亡。 弘前(20h, 24h) ・鶴岡(夜) 地震。	①葛西日記 ②御日記, 永宝日記, 奥南温古集, 勘定所日記, 八戸藩日記, 瀧沢八郎兵衛日記 ③新編日本被害地震総覧	津軽・青森・八戸
1822・1・1	文政5・1・1	和	金ヶ崎 (若手県) 地方地震。	②金ヶ崎町町史	
1823・1・1	文政6・6・1	和	仙台地方地震。城星破損。 津波襲来し、民家流出、溺死者多数。天保6年の津波か	③十三紀朝聞 (宮城県気象災異年表)	
1823・7・31	文政6・6・24	和	八戸(12h, 16h, 21h) ・弘前(14h, 16h, 18h) ・鶴岡(16h, 18h) ・江戸(16h) で地震。	②御日記, 八戸藩日記, 補原藩日記, 瀧沢八郎兵衛日記	



西 暦	年 代	和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1823・9・29	文政6・8・25	文政6・8・25	24h, 弘前・八戸、盛岡、大館、鶴岡で地震。翌年春まで地震・鳴動続く。山崩れがあり、西根(若手県)で潰家105軒、振込家46軒、損68軒。七時雨山、鹿角(秋田県)で地割れ、山崩れで69死。	①篤篤家訓、内史畧、寺實矩格、奥羽西部ノ地震帯、岩手縣誌資料、大館日記 ②御日記、瀧沢八郎兵衛日記、奥南見聞録、御用人所日記、寛政文政間盛藩重要事項、島川謙満自筆見聞録、著聞集雜記 ③新編日本被害地震総覧、資料日本被害地震総覧	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1824・2・11	文政7・1・12	文政7・1・12	06h, むつ(田名部、青森県)・弘前で地震。	②雑書、御日記	岩手山 λ=141.4°E φ=40.0°N M=5¼~6
1824・10・11	文政7・閏8・19	文政7・閏8・19	遠田郡(宮城県)地方地震。	①日本地震史料年表	
1825・2・18	文政8・1・1	文政8・1・1	04h or 16h, 迫(宮城県)地方地震。	②年々出来事記	
1825・6・26	文政8・5・11	文政8・5・11	04h, 花巻地方地震。 5月12日(朝)も地震。	②曆	
1825・8・26	文政8・7・13	文政8・7・13	朝, 迫(宮城県)地方地震。	②年々出来事記	
1825・12・10	文政8・11・1	文政8・11・1	17h, 遠田郡(宮城県)、江戸、甲府で地震。	①日本地震史料年表 ②榊原藩日記、棟堂日曆、坂田家御用日記	
1825・12・25	文政8・11・16	文政8・11・16	迫(宮城県)地方地震。	②年々出来事記	
1826・3・1	文政9・1・23	文政9・1・23	遠田郡(宮城県)地方地震。	①日本地震史料年表	
1826・3・4	文政9・1・26	文政9・1・26	16h, 一関3度、登米(宮城県)2度(14h, 16h)、鶴岡、稲川(秋田県)、江戸で地震。	①續王代一覽後記 ②星彦市家曆面裡書、瀧沢八郎兵衛日記、寛政拾年以降算書 ③曆代年譜考	
1826・4・3	文政9・2・26	文政9・2・26	陸前高田地方2度地震。	③世間風唱日記	
1826・4・28	文政9・3・22	文政9・3・22	陸前高田地方地震。 3月23日陸前高田、弘前(08h)で地震。 24日(12h)陸前高田、八戸・弘前、鶴岡、江戸で地震。	②御用人所日記、遠山家日記、御日記、瀧沢八郎兵衛日記、榊原藩日記 ③善悪和歌集用記	
1826・7・14	文政9・6・10	文政9・6・10	10h or 22h, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1827・2・4	文政10・1・9	文政10・1・9	02h, むつ(田名部、青森県)地方地震。	②雑書	
1827・2・5	文政10・1・10	文政10・1・10	02h, 遠田郡(宮城県)地方地震。	①日本地震史料年表	
1827・9・7	文政10・7・17	文政10・7・17	晝, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1828・1・5	文政10・11・19	文政10・11・19	晩, 八戸地方地震。	②遠山家日記	

1828・7・3	文政11・5・22	文政11・5・22	23h, むつ(田名部、青森県)・弘前で地震。	②御日記、雑書	
1829・8・6	文政12・7・7	文政12・7・7	遠田郡(宮城県)地方地震。	①日本地震史料年表	
1829・12・7	文政12・11・12	文政12・11・12	22h, 仙台地方地震。	②中井源左衛門光熙旅日記	
1830・	天保1・7・	天保1・7・	一関地方7~8月地震続く。	③曆代年譜考	
1831・1・10	天保1・11・27	天保1・11・27	09h, 沢内(若手県)、弘前、江戸で地震。	①續王代一覽後記 ②南部沢内年代記、御日記	
1831・1・14	天保1・12・1	天保1・12・1	22h, 弘前、鶴岡(2日02hも)、日光、江戸で地震。 12月2日(08h)遠野・沢内(若手県)、弘前・八戸、湯沢・稲川(秋田県)、鶴岡、日光、江戸、山梨、新島で地震。	①續王代一覽後記、動転秘記(若手県災異年表)、斎藤月岑日記 ②瀧沢八郎兵衛日記、御日記、国泰寺日曆記、南部沢内年代記、御用人所日記、佐竹南家御日記、寛政拾年以降算書、日光社家御番所日記、榊原藩日記、棟堂日曆、水野家日記、保坂家日記、鳥居所日記 ③若手県災害関係行政資料	
1831・3・28	天保2・2・15	天保2・2・15	盛岡地方地震。大橋破損。	②奥南浦古集 ③新編日本被害地震総覧	陸中
1831・4・29	天保2・3・17	天保2・3・17	河南(宮城県)地方地震。	②河南町誌	
1832・1・3	天保2・12・1	天保2・12・1	暮, 遠田郡(宮城県)地方地震。	①日本地震史料年表	
1832・2・14	天保3・1・13	天保3・1・13	02h or 14h, 花巻地方地震。	②曆	
1832・3・15	天保3・2・13	天保3・2・13	12h, 八戸・弘前・鯉ヶ沢、花巻・雫石、気仙沼、村山(山形県)、稲川(秋田県)で地震。 八戸では家屋、土蔵破損。南宗寺、本寿寺の石佛痛む。	①某日記 ②御日記、封内事実苑、永宝日記、遠山家日記、通山家日記、八戸藩勘定所日記、八戸藩日記、宇石蔵代日記、気仙沼町誌、近代家譜録、寛政拾年以降算書 ③曆、気仙沼記録、新編日本被害地震総覧	八戸 λ=141.6°E φ=40.7°N (B) M=6½
1832・3・16	天保3・2・14	天保3・2・14	遠田郡(宮城県)地方地震。	①日本地震史料年表	
1832・11・14	天保3・10・22	天保3・10・22	00h, 陸前高田地方地震。	③世乃中風唱聞書	
1833・1・11	天保3・閏11・21	天保3・閏11・21	夕, 気仙沼(宮城県)地方地震。	②気仙沼町誌 ③気仙沼記録	
1833・2・21	天保4・1・2	天保4・1・2	晩, むつ(田名部、青森県)地震。	②雑書	
1833・3・20	天保4・1・29	天保4・1・29	12h, 陸前高田地方地震。	③世乃中風唱聞書	
1833・8・31	天保4・7・17	天保4・7・17	朝, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1833・9・5	天保4・7・22	天保4・7・22	09h, 弘前・八戸、藤沢・前沢・陸前高田2度・(以上岩手県)、気仙沼・新月・遠田郡(以上宮城県)、稲川(秋田県)、大石田・村山(以上山形県)、江戸で地震。	①日本地震史料年表 ②榊原藩日記、備忘録静軒君日記、寛政拾年以降算書、御日記、気仙沼町誌、天保鎮魂の際の気仙沼記録、近代家譜録、皆川家日記、万日記、遠山家日記	

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「・」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの ③世乃中風唱聞書、気仙沼記録(宮城県気象災害異年表)、佐藤家所蔵記録 ②遠山家日記 ①續王代一覽後記 ②御日記、雑書、遠山家日記 ③新編日本被害地震総覧 ②御日記、遠山家日記 ②雑書、御日記 ②遠山家日記 ②近代家譜録、御日記、遠山家日記、備忘録静軒君日記 ②遠山家日記 ③石垣家曆面裡書(宮城県誌) ①十三朝紀聞、若手懸沿岸大海嘯取調書 ①凶荒誌 ②遠山家日記 ①續王代一覽後記、武江年表、刈田郡誌(宮城県気象災害異年表)仙台市史、斉藤月峯日記、泰平年表(日本震災凶鑑改、日本災異志)、天保年中巴荒子孫伝、校正王代一覽、天保四年辛巳凶歳、慶弘紀聞、東藩史稿 ②花巻城代日記、遠山家日記、御用人所日記、雑書、凶年表、皆川家日記、歴、南部内年代記、零石歳代日記、紫波町凶災年代記、御日記、六代治家記録龍山公、気仙沼町誌、天保日記放書、志田郡沿革史、天保御年目家記録、天保御年目家記録、年々出来事記若柳町史、大郷町史、高清水町史、唐桑町史、年々出来事記天保耗録、地蔵記、榑堂日曆、淡江和光日記、寛政拾年以降寛書、万日記、近代家譜録、榑原藩日記、水野家日記、水野家日記、備忘録静軒君日記、領主日記、領主日記、大島家日記、日光社御審所日記、赤城神社年代記、香取郡誌、唐史	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の精度・経度・緯度・深さ)・( ) 地震被害等級 ◇ 津波規模
1834・2・9	天保5・1・1	八戸(夕)・弘前(16h)・むつ(田名辺、青森県)、 江戸で地震。 石狩地方を震源とする地震の震動。	①續王代一覽後記 ②御日記、雑書、遠山家日記 ③新編日本被害地震総覧	石狩 巳の刻過ぎ λ=141.4°E φ=43.3°N (B) M=6.4 (1)
1834・7・7	天保5・6・1	弘前(08h,12h)・八戸(朝、夕)で2度地震。	②御日記、遠山家日記	
1834・7・31	天保5・6・25	00h,むつ(田名辺、青森県)・弘前で地震。	②雑書、御日記	
1835・4・23	天保6・3・26	02h or 14h, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1835・5・23	天保6・4・26	12h,八戸・弘前、村山(山形県)、江戸で地震。	②近代家譜録、御日記、遠山家日記、備忘録静軒君日記	
1835・5・26	天保6・4・29	八戸地方地震。	②遠山家日記	
1835・6・19	天保6・5・24	02h or 14h, 宮城(宮城県)地方地震。	③石垣家曆面裡書(宮城県誌)	
1835・一・一	天保6・6・一	仙台地方地震。城壁壊れる。津波発生し、民家数百 破損、溺死者多数。6月25日の地震津波か。 綾里村では人家に破損無く、海岸より百五十拾間まで波走る。	①十三朝紀聞、若手懸沿岸大海嘯取調書 ①凶荒誌	
1835・7・11	天保6・6・16	04h or 16h, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1835・7・20	天保6・6・25	14h,八戸・弘前、盛岡・花巻・零石・沢内・紫波・藤沢・ 陸前高田・大原(以上岩手県)、気仙沼・唐桑・迫・ 石巻・登米・湧谷・河内・宮城・若柳・大郷・高清水・ 塩釜・仙台(以上宮城県)、秋田・稲川(秋田県)、 大石田・村山(山形県)、清里(新潟県)、日光、赤城 ・八戸 夜も度々地震。 陸前高田で所々痛む。 藤沢 地割れ、石垣が崩れ、蔵の壁落ちる。 唐桑 6・7月地震しばしば 迫 所々小家・居家・人馬痛み、土堤分裂 石巻 古家数軒禿れ、外大破損甚だしい 湧谷・河内で地割れ、家倒れ、深田掘り込まれる この日5～6度揺れる 気仙沼 城の石垣崩れる 仙台 24h,地震 大石田	①續王代一覽後記、武江年表、刈田郡誌(宮城県気象災害異年表)仙台市史、斉藤月峯日記、泰平年表(日本震災凶鑑改、日本災異志)、天保年中巴荒子孫伝、校正王代一覽、天保四年辛巳凶歳、慶弘紀聞、東藩史稿 ②花巻城代日記、遠山家日記、御用人所日記、雑書、凶年表、皆川家日記、歴、南部内年代記、零石歳代日記、紫波町凶災年代記、御日記、六代治家記録龍山公、気仙沼町誌、天保日記放書、志田郡沿革史、天保御年目家記録、天保御年目家記録、年々出来事記若柳町史、大郷町史、高清水町史、唐桑町史、年々出来事記天保耗録、地蔵記、榑堂日曆、淡江和光日記、寛政拾年以降寛書、万日記、近代家譜録、榑原藩日記、水野家日記、水野家日記、備忘録静軒君日記、領主日記、領主日記、大島家日記、日光社御審所日記、赤城神社年代記、香取郡誌、唐史	仙台 λ=142.5°E φ=38.5°N (D) M=7.0 (0) < 2 > 1978年宮城県沖地震に似るか? 藤沢～仙台間で震度V

6月25日09h 気仙沼、江戸で地震。 6月26日04h 宮城、村山、江戸で地震。 * 6月27日 関東で数度地震あり。	6月25日09h 気仙沼、江戸で地震。 6月26日04h 宮城、村山、江戸で地震。 * 6月27日 関東で数度地震あり。	陸前高田地方地震。この日まで小地震が続いていた。 10h,弘前・八戸、花巻・零石、気仙沼・迫、稲川(秋田県)、 村山(山形県)、江戸で地震。 藤沢(岩手県)地方地震。 7月18日(02h)地震。 19日(02h)も地震。	の被害地震津波津波の表及震度の分布図、チリ地震津波調査報告、凶荒誌、鶴住居小史資料編、山田町津波誌、宮城県誌、三陸沿岸津波誌本、資料日本被害地震総覧、新編日本被害地震総覧、東北地方とその近海における地震活動、日本被害津波総覧、世間風唱聞書之事、若柳年代表(東原郡誌)、石垣家曆面裡書(宮城県誌)	
1835・7・30	天保6・7・5	陸前高田地方地震。この日まで小地震が続いていた。	③世間風唱聞書之事	
1835・8・6	天保6・7・12	10h,弘前・八戸、花巻・零石、気仙沼・迫、稲川(秋田県)、 村山(山形県)、江戸で地震。	②御日記、遠山家日記、気仙沼町誌、年々出来事記、寛政拾年以降書書、近代家譜録、榑原藩日記、水野家日記、備忘録静軒君日記、大島家日記、零石歳代日記、天保御年の気仙沼記録	
1835・8・10 8・12	天保6・7・16	藤沢(岩手県)地方地震。 7月18日(02h)地震。 19日(02h)も地震。	③曆、宮城県気象災害異年表、気仙沼記録(気仙沼町史)	
1835・8・14	天保6・7・20	03h,気仙沼地方地震。	②藤沢町黄海岸史、皆川家日記	
1835・8・17	天保6・7・23	仙台地方地震。	②天保御年の気仙沼記録	
1835・8・19	天保6・7・25	仙台領、津堅領、根室に地震。被害不明。 北海道、三陸沿岸に津波。花巻では小屋50余戸流出。 天保6年8月とする記録もある。 天保6年6月25日地震か、天保7年6月25日地震か?	②天保御年の気仙沼記録	
1835・9・11	天保6・閏7・19	00h,八戸・弘前、宮城中部、村山・大石田(山形県)、 塩沢(新潟県)、魏子・野田・習志野、秩父、江戸、 赤尾(山梨県)、近江八幡(滋賀県)で地震。 閏7年20日(02~05) 弘前、気仙沼・宮城中部、石川(福島) )・最上・村山・大石田(山形県)、塩沢(新潟県)、 日光、魏子・習志野、秩父、江戸、近江八幡(滋賀県) で地震。 江戸は21日、22日も地震。石川・最上は8月中旬まで続く。	①續王代一覽後記、齊藤月峯日記、天保年中巴荒子孫伝、 石川郡達田村記録 ②御日記[江戸・津堅]、遠山家日記、近代家譜録、万日記、気仙沼町誌、上田村郷土誌、日光社御審所日記、武江年表、水野家日記、榑堂日曆、備忘録静軒君日記、榑原藩日記、江木野水日記、玄書日記、渡部家日記、千葉野田地方庶民災害年表三峰神社日鑑、大島家日記、保坂家日記、市田家日記 ③時事録、天保凶歳記、気仙沼記録(気仙沼町史)	
1835・9・26	天保6・8・5	08h,紫波(岩手県)、八戸・弘前、村山・大石田(山形県)、 秩父、江戸、近江八幡(滋賀県)で地震。	①齊藤月峯日記 ②水野家日記、御日記、遠山家日記、紫波町凶災年代誌、近代家譜録、万日記、榑原藩日記、三峰神社日鑑、市田家日記、榑堂日曆	
1835・12・4	天保6・10・15	22h,陸前高田・藤沢(岩手県)、大石田・村山(山形県)、 清里(新潟県)、日光、群馬、甲府、魏子、江戸で地震 以後地震続く。	①續王代一覽後記、齊藤月峯日記 ②榑原藩日記、備忘録静軒君日記、大島家日記、榑堂日曆、水野家日記、近代家譜録、皆川家日記、万日記、江木野水日記、玄書日記、日光社御審所日記、保坂家日記、領主日記、坂田家御用日記、赤城神社年代記 ③世乃中風唱聞書	

西暦	年	年代		地震・津波に関する記事の概要 「・」は同じ県で別巻。1地域の場合「地方を付し」は他県。「・」は地震発生時間、2つある場合は2度発生した。数字○○hは地震発生時間、2つある場合は2度発生した。	文献	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) [ ] 地震被害等級 < > 津波規模
		和	曆			
1836・3・8	1836・3・8	天保7・1・21		前沢地方(岩手県)地震。	③佐藤家所蔵記録	
1836・3・31	1836・3・31	天保7・2・15		04h or 16h, 八戸地方地震。	②御用人所日記	
1836・4・23	1836・4・23	天保7・3・8		藤沢(岩手県)地方折々地震。	②皆川家日記	
1836・5・13	1836・5・13	天保7・3・28		14h, 藤沢(岩手県)・花巻、角館、村山(山形県)、江戸で地震。	①鑄王代一覽後記 角館火災地震年譜 ②近代家譜録, 皆川家日記, 備忘録静軒君日記, 柳原藩日記, 御日記, 大島家日記 ③曆	
1836・5・14	1836・5・14	天保7・3・29		10h, 八戸・弘前で地震。	②御日記, 御用人所日記	
1836・6・11	1836・6・11	天保7・4・28		15h, 気仙沼、江戸で地震。	②兼堂日曆, 大島家日記, 天保創備の際の気仙沼記録, 気仙沼町誌 ③気仙沼記録	
1836・7・7	1836・7・7	天保7・5・24		02h or 14h, むつ(田名辺、青森県)地方地震。	②雑書	
1836・8・7	1836・8・7	天保7・6・25		15h, 仙台地方地震、城の石垣崩れる。志田郡(宮城県)では、所々居宅土蔵破損、田で噴砂。津波で民衆数百流出、溺死者多数。6月26日(10h) 気仙沼地方地震。28日(20h) 気仙沼地方地震。	②唐桑町史, 東藩史稿, 鎌田武左衛門ノ歳記要, 天保創備の際の気仙沼記録, 気仙沼町誌, 女川町誌 ③気仙沼記録, 新編日本被害地震総覧	仙台 仙台城下で家屋破損。詳細不明。 天保6年6月25日の地震津波か疑問
1836・9・5	1836・9・5	天保7・7・25		仙台地方地震。城下多数破損。鹿島(茨城県)に津波、死多分、馬・家に被害。高潮の可能性大。	①天保雑記, 根室一等測候所報告 ②日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 ③宮城県気象災異年表, 宮城縣昭和震誌, 資料日本被害地震総覧, 東北地方とその近海における地震活動	
1836・9・8	1836・9・8	天保7・7・28		22h, 藤沢(岩手県)地方地震。	②皆川家日記	
1836・9・23	1836・9・23	天保7・8・13		03h, 藤沢2度(岩手県)、塩釜で地震。塩釜では夜嵐になり、家々破損。 *江戸で同日地震あり。	②皆川家日記, 天保日記故書	
1836・10・8	1836・10・8	天保7・8・28		16h, 塩釜地方3度地震。	②天保日記故書	
1836・10・16	1836・10・16	天保7・9・7		22h, 藤沢(岩手県)地方地震。	②皆川家日記	
1836・12・21	1836・12・21	天保7・11・14		晝, 陸前高田、むつ(田名辺、青森県)、釧路で地震。	②雑書, 國泰寺日鑑記 ③天保七丙申年風唱記	
1837・1・1	1837・1・1	天保7・11・24		10h or 22h, むつ(田名辺、青森県)地方地震。	②雑書	
1837・--・--	1837・--・--	天保8・--・--		気仙地方に津波。10月11日の津波か?	②岩手県史	

1837・3・19	1837・3・19	天保8・2・13		15h, 藤沢(岩手県)地方地震。	②皆川家日記	
1837・5・10	1837・5・10	天保8・4・6		02h, むつ(田名辺、青森県)地方地震。	②雑書	
1837・5・19	1837・5・19	天保8・4・15		24h, 仙台地方地震。	①天保四年辛巳凶歳(宮城県気象災異年表)	
1837・6・8	1837・6・8	天保8・5・1		11h, 15h, 藤沢(岩手県)地方2度地震。5月9日(18h)も地震。	②皆川家日記	
1837・6・20	1837・6・20	天保8・5・18		18h, 藤沢(岩手県)、八戸で地震。	②皆川家日記, 遠山家日記	
1837・7・22	1837・7・22	天保8・6・20		02h or 14h, むつ(田名辺、青森県)地方地震。	②雑書	
1837・8・3	1837・8・3	天保8・7・3		20h, 藤沢(岩手県)地方地震。	②皆川家日記	
1837・9・10	1837・9・10	天保8・8・11		07h, 藤沢(岩手県)、表郷(福島県)で地震。	②皆川家日記, 天保日記	
1837・10・26	1837・10・26	天保8・9・27		02h, 仙台地方地震。	②天保四年辛巳凶歳	
1837・11・8	1837・11・8	天保8・10・11		気仙郡(岩手県)、本吉郡・牡鹿郡・宮城郡(以上宮城県)に津波。田に被害。気仙郡では大船渡湾の塩場に被害。前日チリ・パラディビアで発生した地震津波による。	①東藩史稿(宮城県気象災異年表) ②日本付近の地域海域別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 ③東北地方に襲来した外国地震津波, チリ地震津波調査報告, 気仙沼記録(気仙沼町史), 宮城県史, 三陸沿岸津波読本, 日本被害津波総覧, 気仙沼町史, 天保七丙申年風唱記	*1837年11月7日12時51分発生 チリ南部沖 M=8+ < 3 >
1837・11・13	1837・11・13	天保8・10・16		夜中, むつ(田名辺、青森県)地方地震。	②雑書	
1838・3・8	1838・3・8	天保9・2・13		朝, 盛岡地方地震。城内家中町家破損。	②奥南温古録	
1838・4・18	1838・4・18	天保9・3・24		晝, むつ(田名辺、青森県)地方地震。	②雑書	
1838・5・11	1838・5・11	天保9・4・18		晝, 藤沢(岩手県)地方地震。	②皆川家日記	
1838・6・7	1838・6・7	天保9・閏4・15		藤沢(岩手県、08h, 12h)、弘前(10h)で地震。	②皆川家日記, 御日記	
1838・8・18	1838・8・18	天保9・6・29		04h, むつ(田名辺、青森県)地方地震。	②雑書	
1838・9・10	1838・9・10	天保9・7・22		藤沢(岩手県、朝)、むつ(田名辺、青森県、夜半、屋から20hまで)に5度、うち屋過ぎ最も強)で地震。7月24日(昼) むつ地震。26日(04h or 16h) むつ地震。	②雑書, 皆川家日記	
1838・9・23	1838・9・23	天保9・8・5		夜明, むつ(田名辺、青森県)地方地震。9月19日(晝)も地震。	②雑書	
1839・--・--	1839・--・--	天保10・--・--		藤沢(岩手県)地方地震。	②藤沢町黄海岸史	
1839・3・31	1839・3・31	天保10・2・17		朝, 藤沢(岩手県)地方地震。当月は3度地震。	②皆川家日記	

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)。 14h,むつ(田名辺,青森県)・弘前で地震。 釧路沖の地震の震動。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ④内は前記史・資料を引用している文献で⑤にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) ① 地震被害等級 ② 津波規模
1839・5・1	天保10・3・18	14h,むつ(田名辺,青森県)・弘前で地震。 釧路沖の地震の震動。	①封内事案秘苑, 某日記, 北海道の資料略 ②雑書, 御日記, 北海道の資料略 ③日本付近の地域海域別の被害地震津波の表及震度の分布図 資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) ① 地震被害等級 ② 津波規模
1839・5・8	天保10・3・25	14h,藤沢(岩手県)・登米(宮城県)・仙台・村山(山形県)・下妻(茨城県)・日光・江戸で地震。	①靈憲倭簿, 東藩史稿(宮城県気象災異年表) ②西戌亥春秋日記, 皆川家日記, 御日記, 日光社御番所日記 ③登米郡史, 東北地方の気候(宮城県気象災異年表), 宮城県史	
1839・6・25	天保10・5・15	遠田郡(宮城県)地方地震。 5月25日(18h)地震。	①日本地震史料年表	
1839・7・20	天保10・6・10	08h,藤沢(岩手県)地方地震。	②皆川家日記	
1839・9・24	天保10・8・17	藤沢(岩手県)地方地震。	②皆川家日記	
1839・12・31	天保10・11・26	22h,むつ(田名辺,青森県)・弘前・青森で地震。	①柿崎日記, 雑書 ②御日記	
1840・2・1	天保10・12・28	02h,藤沢(岩手県)・遠田郡(宮城県)・村山(山形県)・下妻(茨城県)・江戸で地震。	①靈憲倭簿, 日本地震史料年表 ②皆川家日記, 稲葉家日記, 西戌亥春秋日記	
1840・2・2	天保10・12・29	晩,大郷(宮城県)地方地震。	②大郷町史	
1840・3・14	天保11・2・11	夕方,八戸地方地震。	②遠山家日記	
1840・5・23	天保11・4・22	遠田郡(宮城県)地方地震。	①日本地震史料年表	
1840・6・13	天保11・5・14	16h,遠田郡(宮城県)・弘前・下妻(茨城県)・習志野・江戸で地震。 関東では17日も地震。	①靈憲倭簿, 日本地震史料年表 ②御日記, 中島市郎兵衛日記, 棟堂日歴, 水野家日記, 渡部家日記, 稲葉家日記	
1841・1・16	天保11・12・24	11h,陸前高田・習志野・江戸で地震。	①靈憲倭簿 ②渡部家日記 ③世乃中風唱聞書	
1841・1・19	天保11・12・27	10h,厚岸,むつ(田名辺,青森県)・八戸・弘前・磐石・紫波・江刺・陸前高田(岩手県)・大石田(山形県)・銚子・習志野・江戸で地震。 江刺では川の氷壊れ2~3人死亡。	①靈憲倭簿, 天保年中巴荒子孫伝 ②渡部家日記, 玄蕃日記, 御日記[江戸・津軽], 万日記, 紫波町凶歳年代誌(地震災害年代表), 磐石歳代日記, 雑書, 国秦寺日鑑記, 柳原藩日記, 遠山家日記 ③世乃中風唱聞書, 大図日記	
1841・12・26	天保12・11・14	16h,陸前高田・弘前で地震。	②御日記 ③世の中風唱聞書	

1842・6・25	天保13・5・17	12h,弘前・遠田郡(宮城県)・大石田3度(山形県)・江戸で地震。	①日本地震史料年表 ②御日記[江戸・津軽], 万日記, 柳原藩日記	
1842・7・25	天保13・6・18	18h,陸前高田・大石田(山形県)・下妻(茨城県)・江戸で地震。 陸前高田で土蔵の壁に被害。 関東では6月16日にも地震。	①寒暖晴雨升降記 ②稲葉家日記, 柳原藩日記, 御日記[江戸・津軽], 万日記, 日光社御番所日記, (益子家)日記 ③世乃中風唱聞書	
1843・1・31	天保14・1・2	00h or 12h,八戸地方地震。	②御用人所日記	
1843・4・25	天保14・3・26	06h,根室・根室・厚岸・釧路・八戸・青森・弘前・釜ヶ沢・大館・大畑・陸前高田・雄勝・村山(山形県)・江戸で地震。 厚岸国秦寺では八幡神社12~15cmいざり、床落ち、石灯籠など倒れ、所々に地割れ。 余震4月まで続く。 津波発生し、厚岸では10hまでに大波2度。向浜のアイヌ34人死亡。 八戸で納屋の流出・破損あり。 根室・大畑・山田で滑水。 田老で死者46人? 大船遊で塩場回りの土手大破 陸前高田では木材船2隻破砕、道路破壊、橋流出。	①国秦寺日鑑, 根室一等測候所報告, 釧路郡役所報告, 維新前北海道災年表, 北海道史, 靈憲倭簿, 大館日記 ②御用諸書物留, 文書, 松前家記, 白糠町史, 国秦寺日鑑記, 万日記, 箱崎日記, 八戸藩勘定所日記, 遠山家日記, 永宝日記, 光陰自他録, 雄勝町史, 大館日記, 柳原藩日記, 御日記[江戸・津軽] ③雑書(大畑町漁業史), 津波概観・異常気象報告6002, 日本付近の地域海域別の被害地震津波の表及震度の分布図, 資料日本被害地震総覧, 山田町津波誌, 三陸沿岸津波流本, 資料日本被害地震総覧, 新編日本被害地震総覧, 日本被害津波総覧, 小島家文書	釧路・根室 λ=146.0°E φ=42.0°N (D) M=7.5 [M] < 2 >
1843・5・27	天保14・4・28	13h,三戸・弘前で地震。	②御日記, 万日記	
1843・6・8	天保14・5・11	04h,紫波(岩手県)・弘前で地震。	②御日記, 紫波町凶歳年代誌	
1843・6・28	天保14・6・1	晩,磐石(岩手県)地方地震。	②磐石歳代日記	
1843・6・29	天保14・6・2	18h,紫波(岩手県)・三戸(青森県)・弘前・中仙(秋田県)で地震。 石鳥谷(岩手県)では地割れ、山崩れ。 中仙では家・土蔵・壁・戸障子いたむ。	②御日記, 年吉凶帳, 紫波町凶歳年代誌, 万日記	
1843・6・30	天保14・6・3	20h,遠田郡(宮城県)地方地震。	①日本地震史料年表	
1843・7・4	天保14・6・7	18h,浜内(岩手県)地方地震。 所々欠損、家痛む、土かまえり崩れる。	②高沢内在代記 ③新編日本被害地震総覧	陸中沢内 λ=140.7°E φ=39.45°N (B) M=5~6

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「、」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇h.は地震発生時間、2つある場合は2度発生)。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 (内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの)	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1843・8・28	天保14・8・4	06h,弘前・磐ヶ沢・三戸(青森県)で地震。	②御日記,万日記,永宝日記	
1843・11・25	天保14・10・4	01h,青森・八戸、江戸で地震。	①靈憲候簿, 栢崎日記 ②栢崎日記, 御用人所日記, 万日記	
1844・1・22	天保14・12・3	00h,八戸・弘前で地震。	②御用人所日記, 御日記	
1844・1・23	天保14・12・4	02h,三戸(青森県)地方3度地震。	②万日記	
1844・12・28	弘化1・11・19	夜,八戸地方地震。	②遠山家日記	
1845・4・15	弘化2・3・9	八戸地方地震。 3月10日(夜)も地震。	②遠山家日記	
1846・一・一	弘化3・2・一	三陸沿岸に地震。 鎌ヶ崎に津波。	①岩手懸沿岸大海嘯取調書	
1847・一・一	弘化4・一・一	気仙郡(岩手県)、本吉郡・桃生郡・杜鹿郡・宮城郡に津波。被害大。 7月17日大時化の誤記か?	②雄勝町史	
1847・3・9	弘化4・1・23	晩, 雫石(岩手県)地方地震。 1月24日地震。25日地震。26日地震。	②雫石歳代日記	
1847・3・20	弘化4・2・4	20h,遠田郡(宮城県)、大石田・村山(山形県)、習志野、日光・佐野・芳賀(栃木県)、結城・下妻(茨城県)、銚子・千鶴(千葉県)、清里(新潟県)、江戸、御殿場、甲府で地震。 12日頃まで揺れる。	①日本地震史料年表, 靈憲候簿, 斉藤月峯日記 ②福葉家日記, 渡部家日記, 万賞帳, 玄蕃日記, 万歳中日記帳, 日光社家御番所日記, 日記, 吉田家日記, 日記, 名主日記, 曆史, 万難控, 二宮金次郎日記, 東護院様御日記, 稲生家日記, 中島市郎兵衛日記, 柳原藩日記, 井伊家文書, 光陰自他録, 萬日記, 坂田家御用日記	
1847・4・12	弘化4・2・27	22h, 雫石(岩手県)、磐ヶ沢(青森県)で地震。 3月1日も雫石地方で地震。	②雫石歳代日記, 永宝日記	
1847・7・15	弘化4・6・4	09h, 遠田郡(宮城県)地方地震。	①日本地震史料年表	
1847・7・26	弘化4・6・15	04h or 16h, 雫石(岩手県)地方地震。	②雫石歳代日記	
1847・12・13	弘化4・11・6	朝, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1848・一・一	嘉永1・一・一	宮城(宮城県)地方地震。	②天保以降年代記	
1848・2・ ~1855・11	嘉永年間	大船渡の田畑に海水上がる。茶碗の中の水を左右に動かすように静かに押さじきたった。[口碑]	③岩手新報(明治29年6月26日付け記事)	

1848・2・5	嘉永1・1・1	嘉永3年の津波か? 八戸地方地震。 1月2日も地震。	②御用人所日記	
1848・2・21	嘉永1・1・17	22h,八戸、勝浦・銚子、江戸で地震。	②遠山家日記, 江沢家日記, 玄蕃日記, 波深斎晴陰記, 永代記録帳	
1848・5・26	嘉永1・4・24	02h or 14h, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1848・8・21	嘉永1・7・23	夜, 八戸、秋田で地震。	②遠山家日記, 日記	
1848・8・23	嘉永1・7・25	晩, 宮古(長沢・岩手県)地方5度地震。	②長沢村災異記	
1848・9・7	嘉永1・8・10	八戸地方地震。	②遠山家日記	
1848・9・13	嘉永1・8・16	16h,八戸・青森・黒石(青森県)で地震。	①青森市史 ②西谷日記, 遠山家日記, 栢崎日記	
1849・3・22 5・15 9・16	嘉永2・2・28	八戸地方2度地震。 4月23日(夕)も地震。 7月30日(14h)八戸・青森で地震。	②御用人所日記, 遠山家日記, 栢崎日記	
1850・7・20	嘉永3・6・12	三陸地方鳴動、津波発生。 山崩れ。被害不明。	①岩手懸誌資料 ③岩手県災害関係行政資料	
1851・4・22	嘉永4・3・21	06h~10h,八戸・黒石、弘前で数回地震。	②御日記, 西谷日記, 遠山家日記	
1851・6・1	嘉永4・5・2	10h,弘前・磐ヶ沢、黒石・三戸・八戸(以上青森県)、千鶴(千葉県)、江戸で地震。	①栢崎日記, 蝦名日記, 靈憲候簿 ②遠山家日記, 永宝日記, 西谷日記, 井原日記, 万賞帳, 万日記, 御日記[江戸・津軽]	
1851・7・2	嘉永4・6・4	02h~14h,八戸地方地震。	②遠山家日記	
1852・5・25	嘉永5・4・7	04h~16h,八戸地方地震。	②遠山家日記	
1852・6・26	嘉永5・5・9	14h,弘前・磐ヶ沢・三戸5度・黒石(14h,15h,16h,夜中2度)・八戸(08h)で地震。 5月10日三戸朝2度・黒石(04h)地震。	①栢崎日記 ②御日記, 万日記, 永宝日記, 西谷日記, 多志南美草	
1852・9・8	嘉永5・7・25	朝, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1852・11・8	嘉永5・9・27	18h,八戸(昼)・青森(18h)で地震。 9月28日(昼)八戸地方地震。	①栢崎日記 ②遠山家日記	
1853・1・15 3・2	嘉永5・12・6 嘉永6・1・23	21h,八戸地方地震。 朝, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1853・10・12 11・10	嘉永6・9・10	08h,八戸、厚岸で地震。 10月9日(06h)も地震。	②遠山家日記, 長万部村平沢豊作日記	

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 は他県、「J」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生した。夕、八戸地方地震。	(地名の「J」は地域の場合「地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生した。夕、八戸地方地震。	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 (○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの)	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1854・6・12	安政1・5・17	夕、八戸地方地震。			
1854・7・27	安政1・7・3	05h or 17h, 南郷(宮城県) 地方地震。所々破損。			陸前遠田郡
1854・8・25	安政1・閏7・2	24h, 宮古(長沢、岩手県)、八戸で地震。 八戸では城内土蔵破損、家土町家被害。閏7月5日か?			八戸
1854・8・28	安政1・閏7・5	21h, 八戸・三戸・黒石・青森・弘前・鯉ヶ沢(以上青森県) 江戸で地震。 三戸では08hに地震、21hまでに2度地震。蔵の壁痛み二階落ち、屋根石落ちる。 青森では10h, 20h, 22h, 24hに地震。 八戸は土蔵大破、地割れ、土塀痛む。			八戸 λ = 141.6° E φ = 40.6° N (B) M = 6.5 ± 1/4
1854・9・24	安政1・8・3	14h, 南郷(宮城県) 地方地震。			
1854・9・26	安政1・8・5	夜、青森(屋須3度地震)・八戸で地震。 八戸では室大破。			
10・5	8月14日(朝)	八戸地方地震。			
10・30	9月9日(夕)	八戸地方地震。			
1855・1・1	安政1・11・13	朝、盛岡地方地震。 上屋敷表長屋通り潰れる。			盛岡?
1855・1・27	安政1・12・10	20h, 三戸・黒石で地震。			
1・28	12・11	三戸(08h)・弘前(20h) 地震。			
2・8	12・22	09h, 八戸・三戸・黒石で地震。			
2・10	12・24	晩、八戸地方地震。			
1855・一・一	安政2・一・一	米谷・登米・宮城(以上宮城県)で地震。 7月3日、8月3日地震で湯本の湯留る。			
1855・一・一	安政2・2・一	藤沢(岩手県) 地方折々地震。			
1855・3・29	安政2・2・12	12h, 八戸・弘前、田島(福島県)、分水(新潟県)、日光、結城、勝浦・成田、江戸・新島、名古屋・西尾・池田で地震。			
1855・8・5	安政2・6・23	二戸(岩手県) 地方地震。余震続く。 6月29日(昼)も地震。			二戸 震度Vくらい

1855・8・15	安政2・7・3	土蔵倒壊1、壁の落下多数、地割れ。 16h, 頭籠、鯉ヶ沢・弘前・三戸(以上青森県)、藤沢、宮古(以上岩手県)、宮城(宮城県)、上山・大江・長井・成田・大石田(以上山形県)、銚田(茨城県)、分水(新潟県)、銚子・成田、江戸で地震。			
1855・9・13	安政2・8・3	12h, 藤沢(岩手県)、秋保・宮城(宮城県)、大江・長井・大石田(以上山形県)、分水(新潟県)、常陸太田(茨城県)で地震。 仙台で土蔵痛む。屋敷の石垣崩れ、堂寺の石塔崩れる。秋保では家屋の倒壊、山崩れ。秋保温泉湧出止まる。宮城町付近では家まがり、壁落ち、山崩れる。			
1855・10・2	安政2・8・22	朝、八戸地方地震。			
1855・11・11	安政2・10・2	20h ~ 22h, 青森・弘前・八戸・三戸・大槌(岩手県)、石巻・宮城・秋保・佐沼・中新田で地震。 同日「江戸地震」あり。			陸前 λ = 142.0° E φ = 38.1° N (C) M = 7 1/4 ± 1/4
1855・11・27	安政2・10・18	石巻地方地震。			
1855・12・13	安政2・11・5	晩、八戸地方地震。			
1855・12・14	安政2・11・6	08h, 八戸、石巻、大江(山形県)、大石田(山形県)で地震。			江戸 λ = 139.8° E φ = 35.65° N (A) M = 6.9 ± 0.1 (II)
1855・12・31	安政2・11・23	24h, 石巻、大江(山形県)、大石田(山形県)で地震。			
1856・1・12	安政2・12・5	朝、八戸地方地震。			
1856・一・一	安政3・一・一	登米地方地震。			
1856・2・17	安政3・1・12	未明、石巻地方地震。			
1856・2・18	安政3・1・13	02h, 石巻・弘前で地震。			
1855・8・15	安政2・7・3		①岩手縣誌資料(岩手県災異年表)、寒暖晴雨升降記 ②長万部村平沢豊作日記、永宝日記、御日記[江戸・津軽]、方日記、長沢村災異記、舊面裡書、黒田家に伝わる玉代帳功、松山領左沢代官所文書、歳々風雨物語集、成田村横田家福初賞帳、萬日記、江戸日記、豊田家日記、玄善日記、松山領左沢代官所文書、歳々風雨物語集、萬日記、西川晩翠先生手録日記、竹山亭日記、天保以後年代記、天保以後年代記、三浦益徳日記、下永良陣屋日記、稲東家日記、御日記[江戸・津軽]		
1855・9・13	安政2・8・3		①寒暖晴雨升降記 ②島役所日記、前田家日記、波深斎晴陰記、柏村日記、日光社家御香所日記、東護院様御日記、斎藤月岑日記、村垣淡路守範正公務日記、遠山家日記、農業耕作帳、竹山亭日記、公私日記、江沢家日記、豊田家日記、三浦益徳日記、下永良陣屋日記、稲東家日記、御日記[江戸・津軽]		
1855・10・2	安政2・8・22		②南部二戸郡沢沢郷土史料 ③新編日本被害地震総覧		
1855・11・11	安政2・10・2		①岩手縣誌資料(岩手県災異年表)、寒暖晴雨升降記 ②長万部村平沢豊作日記、永宝日記、御日記[江戸・津軽]、方日記、長沢村災異記、舊面裡書、黒田家に伝わる玉代帳功、松山領左沢代官所文書、歳々風雨物語集、成田村横田家福初賞帳、萬日記、江戸日記、豊田家日記、玄善日記、松山領左沢代官所文書、歳々風雨物語集、萬日記、西川晩翠先生手録日記、竹山亭日記、天保以後年代記、天保以後年代記、三浦益徳日記、下永良陣屋日記、稲東家日記、御日記[江戸・津軽]		
1855・11・27	安政2・10・18		②遠山家日記		
1855・12・13	安政2・11・5		②万日記、柿崎日記・小山内日記、遠山家日記、日記附録帳、佐沼郷土史年表、西川晩翠先生手録日記、中新田町史、安政三辰年七月廿三日地震にて大汐押上ヶ吉里吉里浦破損並二諸浦破損留書 その他 略		
1855・12・14	安政2・11・6		③大槌町漁業史、宮城県気象災異年表、宮城県史		
1855・12・31	安政2・11・23		②西川晩翠先生手録日記		
1856・1・12	安政2・12・5		②遠山家日記		
1856・2・17	安政3・1・12		②遠山家日記		
1856・2・18	安政3・1・13		②登米郡史 ②西川晩翠先生手録日記 ②西川晩翠先生手録日記、御日記		

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「,」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付した。数字〇〇h」は地震発生時間、2つある場合は2度発生)	09h or 21h, 八戸地方地震。 16h, 八戸・青森・黒石・弘前・函館で地震。 三陸一帯地震。 以後度々続く。 20h, 八戸地方地震。 盛岡地方このころより9月10日まで地震度々。 大槌(岩手県)、八戸この日より地震度々(昼夜7～8度)。 青森はこの日か地震続く。 7月18日(10h or 22h) 八戸地方地震。 宮古に津波、浦々大いに痛む。 19日(09h) 八戸2度・弘前・三戸2度・青森2度・むつ(田名部)・釜ヶ沢(08h)、南郷(宮城県)2度・相馬2度、函館(08h)に2度、16h)3度地震。むつで橋に被害。 20日 大槌、青森(24h) 2度地震。 21日(24h) 大槌(岩手県/昼夜22～23度)、三戸・弘前・黒石、相馬で地震。 13h, 北海道～東北～関東で地震。 被害は少なく、八戸・青森、岩手各地域で土蔵・家屋等の被害あり。 余震は12月まで続く。7月26日(08h)の地震は強い。三陸沿岸・北海道沿岸に、地震後30～60分で津波。 気仙地方では地震の被害なし。津波は長部(陸前高田市)で商家の敷板から5～6尺上まで浸水、馬屋など7～8軒流出。 大船渡・赤崎(大船渡市)に塩場被害大。 被害等は別表3「安政地震津波の各地被害等概要」参照。 本震直前の地震 *その他は別紙 大槌 08h 12h に7～8度地震。 弘前 10h, 12h に2度地震。 三戸 11h に2度地震。 黒石 10h 12h に3度地震。 函館 10h に地震。 相馬 10h に地震。 <th rowspan="2">文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ( )内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの <th rowspan="2">新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) 〇 地震被害等級 ◇ 津波規模 </th></th>	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ( )内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの <th rowspan="2">新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) 〇 地震被害等級 ◇ 津波規模 </th>	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置、震源の緯度・経度・規模・深さ) 〇 地震被害等級 ◇ 津波規模
1856・5・12	安政3・4・9			②遼山家日記, 長万部村平沢豊作日記, 柿崎日記, 西谷日記, 御日記	
1856・7・18	安政3・6・17			③内史略	
1856・7・20	安政3・6・19			②遼山家日記	
1856・8・15	安政3・7・15			③近勘文書	
1856・8・17	安政3・7・17			①荒氏記録, 津磐藩日記, 柿崎日記(青森市沿革史) ②遼山家日記, 御日記, 万日記, 西谷日記, 長沼村災異記, 吉田屋算日記, 多志南美草, 伊東家文書, 永宝日記, 函館区史, 長万部村平沢豊作日記, 西川曉翠先生手録日記, 内史略, 安政三辰年七月廿三日地震にて大夕押上ヶ吉里吉里浦破壊並に諸浦破壊留書 ③近勘文書	日高・胆振・渡島・津軽・南部 λ=142 1/4° E φ=41.0° N (C) M=7.5 [IV] < 2 > 1968年5月16日の十勝沖地震に似る λ=143.5° E φ=40.5° N M=7.8 ~8.0
1856・8・23	安政3・7・23			①時風録, 函館一等測候所報告, 龜田郡上磯村戸長役場報告, 龜田郡津田郡津田村戸長役場報告, 山越郡八雲村戸長役場報告, 津田郡戸長役場報告, 津河郡役所報告, 龜田郡役所報告, 津磐藩日記, 小山中日記, 奥羽西部ノ地震帯, 三陸沿岸海嘯誌, 若手縣誌資料(岩手県災異年表), 維新前北海道災異年表, 関のまにまに録(北海道史), 八戸藩史料, 船越小學校調査, 利剛公御在府御留守留, 岩手縣史, 柿崎日記(青森市沿革史) 若手縣誌資料(岩手縣史), 三陸海嘯年表, 宮城縣海嘯誌, 三陸地方津波實況取調報告, 岩手縣岩手郡大槌取調書, 大槌海嘯略史, 封内事實報告, 先祖代々記(宮城縣気象災異年表) 氣仙沼史料, 本吉郡誌, 雄勝町史, 北遊乘, 南部二戸郡海嘯災異年表), 新渡辺傳一生記(三沢市史), 南郷史要(岩手県災異年表), 荒氏記録, 青森市史, 寒暖晴雨升降記 ②安政三辰年七月松前辺大地震并八月大風雨附録, 松平慶永書簡内史略, 雜書索引, 覽書, 若手縣津浪史, 書留帳抜奉, 安政三辰年七月廿三日地震にて大夕押上ヶ吉里々浦破壊並に諸浦破壊留書, 奥南見附録, 梅庄見聞録(大槌町漁業史・大槌地方年表), 皆川家日記, 長沢村災異記, 利剛公御在府御留守留, 永書,	

安政3・7・24	大槌(岩手県/日中5～6度, 夜中4～5度)・南郷(宮城県/7～8度)、青森(日中時々, 夜中6～7度)・野辺地(30度)・三戸(昼時々, 夜7～8度)・黒石(20h)、函館(14h)に3度、相馬(02h)で地震。 大槌(岩手県/日中・夜とも4～5度)・盛岡(08h, 27日まで日々7～8度)・弘前(10h, 24h)・八戸・青森・野辺地8度・三戸(昼夜20度)・黒石、函館(度々)・江戸(08h)で地震。 08h, 八戸(朝3度)・弘前(00h, 02h, 04h, 06h)・青森(02h, 夜中折々)・野辺地(朝大震)・黒石(08h)・三戸(夜中には一時に5～6度)・盛岡・藤沢・大槌(08h, 日中時々、夜4～5度)・宮古・函館(08h)・庄内・余目・鶴岡(山形県)・相馬、滑里(新潟県)・南河内、鹿沼(栃木県)で地震。 野辺地で土蔵破壊。三戸で土蔵大破、町大いに痛む。大槌で土蔵破壊。	作恐御訴奉申上候事, 曆, 凶年表, 御日記[江戸・津軽], 警石歳代日記, 青森紀聞, 多志南美草, 伊東家文書, 家内年表御日記, 内郷村誌, 一川目郷土誌, 永宝日記, 水書雜記, 八戸藩誌, 西谷日記, 奥南見附録, 見聞録, 伊藤家文書, 西川曉翠先生手録日記, 函館区史, 大宝恵, 長万部村平沢豊作日記, 村垣淡路守圃正公務日記, 北海晴雨考, 国泰寺日鑑記, 北遊乘, 関文書, 矢本町史, 花山村史, 河南町誌, 唐桑町史, 若柳町史, 町会御留守留, 築館町史, 御用御触状類, 狂内史年表, 菅浦氏年代記, 編年私記, 佐藤葛四郎記録, 吉田屋算日記, 日記帳, 二宮金次郎日記, 日記(益子家文書), 輪原藩日記, 汲深斎晴社日記, 坂田家御用日記, 玄蕃日記, 竹山亭日記, 三峯神家曆面理書, 萬日記, 柿崎日記, 近勘文書, 曆史, 秋山家日記帳, 年中日記	③外畑文書, 及川肝入日記, 近勘文書, 中村文書書簡, 大地震大汐人控, 地震二而大夕押上ヶ海辺筋及難儀留書, 安政三年津波聞書(豊岡根陸文書), 大図日記, 諸上新留帳(瀬川忠祐家古新手續, 日本付近の地域海城別の被害地震津波地震の表及震度の分布図, 氣仙郡海嘯誌, 津波概報異常気象報告6002, チリ地震津波調査報告, 若柳年代表(災原郡誌), 広田瀧美史, 鶴住居小史資料編, 山田町津波誌, 宮城縣昭和震嘯誌, 千田家文書, 震災災害土木誌, 岩手縣昭和震災誌, 宮城県史, 若手県災害関係行政資料, 三陸沿岸津波誌, 資料日本被害地震総覧新編日本被害地震総覧, 赤崎村史料, 日本被害津波総覧, 広田村郷土教育資料, 縫里村誌, 天崎村誌, 宮古のあゆみ
安政3・7・25			
安政3・7・26			
安政3・7・27	06h, 08h, 12h など, 大槌(04h, 10h, 昼に3～4度)・藤沢(宮古(長沢, 岩手県)・弘前・八戸(昨夜より続く)・青森(昼, 昼夜度々)・釜ヶ沢(06h, 08h～昼まで)・黒石(04h, 06h, 08h, 22h)、函館(07h, 10h, 度々)・庄内・余目・大石田(山形県)・鶴岡、相馬、江戸で地震。		
安政3・7・28	04h, 24h, 大槌(04h, 10h, 暮, 夜中2度)・藤沢・宮古(長沢(岩手県)・盛岡(04h)、三戸・八戸(唯, 17日まで続く)・弘前・八戸・青森(02hに2度)・釜ヶ沢(04h)・黒石(青森県/04h, 夜)、函館(04h, 08h, 22h)、大石田・庄内・余目(山形県)・鶴岡、相馬、江戸で地震。青森で町貯郷蔵潰れる。三戸で梁落ちて怪我1人。弘前で町貯郷蔵潰れる。		
安政3・7・29	大槌(岩手県/朝2度, 夜中1度)、三戸(青森県/4～5度)で地震。		
安政3・8・1	10h, 12h, 大槌(10h, 夜中)・宮古(長沢・岩手県)・弘前・八戸・青森・釜ヶ沢・黒石(12h)・三戸(以上青森県)・大郷・花山(以上宮城県)・函館(12hに2度)、余目(山形県)・鶴岡、相馬、江戸で地震。 三戸地方(青森県)4～5度地震。		
安政3・8・2			
安政3・8・3	22h, 大槌(岩手県)、三戸(青森県)で地震。 8月4日(12h)も地震。 8月8日(22h) 大槌地方地震。		

年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合「地方を付し た。数字〇〇h,は地震発生時間、2つある場合は2度発生 地震・津波に關する記事の概要 (地名の「・」) 1地域の場合「地方を付し た。数字〇〇h,は地震発生時間、2つある場合は2度発生 地震・津波に關する記事の概要 (地名の「・」) 1地域の場合「地方を付し た。数字〇〇h,は地震発生時間、2つある場合は2度発生	文献 ①増訂大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史 料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模 ・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1856・12・1	安政3・11・4	20h, 三戸(青森県)地方地震。	②万日記	
1856・12・2	安政3・11・5	20h, 04h, 宮古(長沢・岩手県), 弘前・青森(22h)・ 八戸・三戸・鯉ヶ沢(青森県), 大石田(山形県) , 相馬, 北海道で地震。	②遠山家日記 北海晴雨考, 永宝日記, 栢崎日記, 長沢村災異記 萬日記, 吉田屋覚日記	

1856・12・3	安政3・11・6	05h, 八戸・黒石・弘前・青森(04h)・鯉ヶ沢(03h, 04h) (以上青森県)、函館で地震。	②遠山家日記, 御日記, 西谷日記, 長万部村平沢豊作日記, 西川崎翁先生手録日記, 村垣溪路守範正公務日記, 栢崎日記, 永宝日記	
1856・12・30	安政3・12・4	04h, 八戸・弘前、函館で地震。	②遠山家日記, 御日記, 村垣溪路守範正公務日記	
1857・2・1	安政4・1・7	23h, 宮古(長沢・岩手県)、相馬で地震。	②長沢村災異記, 吉田屋覚日記	
1857・2・22	安政4・1・28	04h or 16h, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1857・-・-	安政4・2・-	迫(宮城県)地方3度地震。	③年々出来事記	
1857・3・4	安政4・2・9	06h, 八戸地方地震。昼度々地震。	②遠山家日記	
1857・4・3	安政4・3・9	04h, 八戸・三戸(青森県)、相馬で地震。	②遠山家日記, 万日記, 吉田屋覚日記	
1857・4・5	安政4・3・11	07h, 12h, 八戸・三戸(以上青森県)、花巻、相馬、大石田 (山形県)で地震。	②遠山家日記, 万日記, 吉田屋覚日記, 萬日記, 曆	
1857・4・19	安政4・3・25	08h, 22h, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1857・11・30	安政4・10・14	16h, 暮後, 八戸2度・青森2度、函館で地震。	①栢崎日記 村垣溪路守範正公務日記 ②遠山家日記, 村垣溪路守範正公務日記	
1858・1・13	安政4・11・29	22h, 宮古(長沢・岩手県)、八戸・三戸・青森、鯉ヶ沢 ・弘前(以上青森県)、函館、相馬、鹿沼、 江戸で地震。 青森では蔵精心。	①栢崎日記, 齊藤月岑日記, 寒暖晴雨升降記 ②遠山家日記, 村垣溪路守範正公務日記, 御日記, 八戸藩日記, 栢崎日記, 万日記, 吉田屋覚日記, 多志南美草, 伊東家文書, 永宝日記, 長沢村災異記, 波深斎晴隱記, 齊藤月岑日記, 年中 日記 ③新編日本被害地震総覧	青森 要再考
1858・2・11	安政4・12・28	22h, 24h, 本吉(宮城県)地方2度地震。 「海震」の記録。	①開成丸航海日誌	
1858・-・-	安政5・-・-	三陸一体に津波。被害多い。	②雄勝町史	
1858・2・16	安政5・1・3	07h, 八戸・三戸・鯉ヶ沢(以上青森県)、相馬、函館 で地震。	②遠山家日記, 万日記, 吉田屋覚日記, 村垣溪路守範正公務日記 永宝日記, 長万部村平沢豊作日記	
1858・4・11	安政5・2・28	夜, 八戸地方地震。 2月30日(朝)も地震。	②遠山家日記	
1858・4・16	安政5・3・3	02h or 14h, 仙台地方?(北海道?)地震。	②日々晴曇記	
1858・5・3	安政5・3・20	10h, 八戸、江戸で地震。	②遠山家日記, 齊藤月岑日記	
1858・5・11	安政5・3・28	20h, 八戸地方地震。土蔵破壊、積石崩れる。 5月28日か?	②多志南美草 ③新編日本被害地震総覧	?八戸



年 西 暦	代 和 暦	地震・津波に関する記事の概要 (地名の「・」は他県、「・」は同じ県で列挙。1地域の場合1地方を付した。数字〇〇hは地震発生時間、2つある場合は2度発生)	文献 ①横江大日本地震史料収録史・資料 ②新収日本地震史料収録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1858・7・8	安政5・5・28	20h, 八戸・弘前・青森・磐城・三戸(以上青森県)、盛岡・クナシリ・函館・大石田(山形県)、相馬、佐野・鹿沼(栃木県)、江戸・富士宮で地震。 三戸で土蔵、橋破損。家潰れる。地割れ。 八戸では土蔵、水門に被害。 盛岡で所々破損。	①齊藤月峯日記, 柿崎日記, 寒暖晴雨升降記, 小山内日記, ②村垣後路守範正公務日記, 永宝日記, 御用留, 奥南温故録, 長万部村平沢豊作日記, 御日記, 柿崎日記, 万日記, 奥南温古集, 勘定所日記, 八戸藩日記, 雑書索引, 萬日記, 吉田屋寛日記, 日記, 柏村日記, 齊藤月峯日記, 年中日記, 波濤森情盛記, 役用向日記, 袖日記, 遠山家日記 ③新編日本被害地震総覧	八戸・三戸 λ=142.0°E φ=40.75°N (C) M=7.0~7.5
1858・7・22	安政5・6・12	08h, 八戸・青森、相馬(06h, 08h, 12h) で地震。	①柿崎日記 ②遠山家日記, 吉田屋寛日記	
1858・7・30	安政5・6・20	22h, 八戸・むつ(田名部・青森県)、江戸で地震。 6月22日(02h) 八戸地方地震。 27日(夜中) むつ(田名部・青森県) 地方地震。 7月3日(13h) 八戸・むつで地震。 17日(10h) 八戸・数度・弘前で地震。 21日(夕方) 八戸地方地震。 8月25日 八戸地方2度地震。 26日(朝) 八戸地方地震。 9月1日(14h) 八戸・青森で地震。 8日 八戸地方地震。	①柿崎日記, 青森市史 ②齊藤月峯日記, 御用留, 遠山家日記 柿崎日記	
1858・10・15	安政5・9・9	14h, 八戸、鹿沼(栃木県)、江戸(16h, 02h) で地震。	②御日記, 齊藤月峯日記, 遠山家日記, 年中日記	
1858・12・4 12・16	安政5・10・29	むつ(田名部・青森県) 地方地震。 11月12日 八戸地方地震。 13日 八戸地方地震。 12月12日(22h) 八戸・三戸・弘前で地震。 2月14日 八戸地方地震。 17日 八戸地方地震。 17日(昼、晩) 八戸地方地震。 24日(朝) 八戸地方地震。 3月25日(朝) 八戸地方地震。	②御用留, 遠山家日記, 御用人所日記, 御日記, 万日記	
1859・1・15 1859・2・24 3・18	6・1・22	八戸地方地震。		
1859・4・27		3月25日(朝) 八戸地方地震。		
1859・5・1	安政6・3・29	10h, 南郷(宮城県)、大石田・村山(山形県)・相馬で地震。 3月30日(05h, 18h) 八戸・三戸(青森県)、南郷、大石田、相馬で地震。	①荒氏記録 ②万日記, 遠山家日記, 吉田屋寛日記, 萬日記, 垂石家日記	
1859・8・15	安政6・7・17	19h, 八戸・三戸(青森県)、長万部で地震。 7月18日(19h) 三戸・磐城(青森県) で地震。	②万日記, 御用人所日記, 永宝日記, 長万部村平沢豊作日記	
1859・9・20 12・6	安政6・8・24	昼, 八戸地方地震。 11月13日(16h) も地震。	②遠山家日記	
1860・1・4	安政6・12・12	24h, 宮古(長沢・岩手県)、弘前・八戸・磐ヶ沢(青森県)	②長万部村平沢豊作日記, 御用人所日記, 永宝日記,	

		函館、鹿沼(栃木県)、江戸、横浜、富士宮・甲府・塩山(山梨県)で地震。	長沢村災異記, 吉田屋寛日記, 年中日記, 江戸日記, 村垣後路守範正公務日記, 齊藤月峯日記, 金川日記, 袖日記, 坂田家御用日記, 保坂家日記, 御日記 [江戸・津軽]	
1860・1・14	安政6・12・22	暮, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1860・6・18	万延1・4・29	08h, 宮城(宮城県) 地方地震。	②日記附控帳	
1860・7・10	万延1・5・22	10h, 登米(宮城県)、相馬で地震。	②星彦市家曆面裡書, 吉田屋寛日記	
1860・9・9	万延1・7・24	16h, 盛岡、大石田(山形県)、相馬で地震。	②萬日記, 吉田屋寛日記, 上山半右衛門日記	
1860・9・28	万延1・8・14	02h, 宮城(宮城県) 地方地震。	②日記附控帳	
1861・1・11	万延1・12・1	20h, 南郷(宮城県)、相馬で地震。	①荒氏記録 ②吉田屋寛日記	
1861・3・16	文久1・2・6	晩, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1861・10・21	文久1・9・18	04h, 大原(岩手県)、迫・中津山・宮城・花山・高清水・大郷・米谷・佐沼・唐桑・若柳・河北・南郷(以上宮城県)、湯沢(秋田県)、大石田(山形県)、弘前・磐ヶ沢(以上青森県)、相馬・川俣(以上福島県)・函館、鹿沼、分水(新潟県)、銚子、江戸、横須賀などで地震。 仙台～石巻～大原で家屋の倒壊、地割れ。 気仙郡・本吉郡太いいたむ。 綾里(岩手県) では打上波13尺、200間走る。	①荒氏記録, 高橋氏記録(宮城県涌谷町付近災異志, 宮城県気象災異年表), 陸前地方ノ強震ニ就テ, 東藩史稿, 岩手懸沿岸大海嘯取調書, 齊藤月峯日記, 寒暖晴雨升降記 ②河北町誌, 若柳町史, 唐桑町史, 栗生庄子林右衛門氏筆, 佐沼郷土史年表, 米谷郷土史年表, 大郷町史, 高清水町史, 花山村史, 天保以後年表, 大内家日記, 中津山村誌, 年々出来事記, 気仙沼町誌, 登米郡誌, 成田村横田家種刈遺帳, 萬日記, 佐竹南家御日記, 凶年表, 永宝日記, 御日記, 長万部村平沢豊作日記, 吉田屋寛日記, 高橋義助年表, 年中日記, 高杉晋作日記, 遠山家日記, 領主日記, 永代記録帳, 古令記録帳, 齊藤月峯日記, 玄蕃日記, 竹山亭日記, 東浦賀干鰯屋問屋史料, 信濃・越後地震書留	陸中・陸前・磐城 λ=141.15°E φ=38.55°N (A) M=6.4 [III] 津波記事を無視する。
1861・11・1	文久1・11・1	仙台地方地震。城郭破損。	③新編日本被害地震総覧	
1862・8・1	文久2・7・6	04h, 八戸地方地震。 7月22日(夕方) も地震。 8月5日(朝) も地震。 30日 も地震。 9月13日 も地震。	③東藩史稿, 宮城県気象災異年表	
1862・11・9	文久2・9・18	遠田郡(宮城県) 地震。川溢れ、潰家・破壊家屋あり。 文久1年か?	②小牛田町史	
1862・12・8	文久2・10・17	06h, 八戸地方地震。	②遠山家日記	
1863・1・10	文久2・11・21	04h, 八戸・三戸・弘前(以上青森県)、相馬、江戸で地震。 八戸・弘前は14h も地震。 11月22日(04h) 三戸地方2度地震。	②遠山家日記, 万日記, 吉田屋寛日記, 御用人所日記, 御日記 [江戸・津軽], 掘教斎日記	

年 西 曆	代 和 曆	地震・津波に関する記事の概要 は他県「・」は同じ県で別巻。1.地域の場 合「地方」を付した。数字○○h.は地震発生時間、2つある場合は2度発生	(地名の「・」は同じ県で別巻。1.地域の場 合「地方」を付した。数字○○h.は地震発生時間、2つある場合は2度発生)	文献 ①増訂大日本地震史料収録録史・資料 ②新収日本地震史料収録録史・資料 ③その他の史・資料 ○内は前記史・資料を引用している文献で③にあたるもの	新編日本被害地震総覧による震源要素 (震央の位置・震源の緯度・経度・規模・深さ) □ 地震被害等級 ◇ 津波規模
1863・1・24	文久2・12・5	03h, 八戸、函館で地震。		②遠山家日記, 長万部村平沢豊作日記	
1863・2・20	文久3・1・3	02h or 14h, 八戸地方地震。		②御用人所日記	
1863・2・24	文久3・1・7	08h, 八戸・三戸(青森県)で地震。		②遠山家日記, 万日記	
1863・3・29	文久3・2・11	24h, 北上(埴柳, 岩手県), 三戸・弘前(青森県)、相馬、分水(新潟県)で地震。		②万日記, 吉田屋寛日記, 竹山亭日記, 上山半右衛門日記, 御日記	
1863・5・6	文久3・3・19	15h, 八戸、大石田(山形県)、相馬、日光・鹿沼(栃木県)、江戸、富士宮、勝浦、甲府、分水(新潟県)で地震。		②春日記, 年中日記, 静寛院宮御制日記, 御日記, 袖日記, 江沢家日記, 坂田家御用日記, 竹山亭日記, 遠山家日記, 萬日記, 吉田屋寛日記	
1863・12・2	文久3・10・22	晩, 八戸地方地震。		②遠山家日記	
1864・3・29	元治1・2・22	三陸沿岸に津波。所々破壊。		①岩手縣誌資料(岩手県災異年表) ②日本付近の地域海城別の被害地震津波地震の表及震度の分布図 ③岩手県災異年表 岩手県災異年表の別冊資料, 資料日本被害地震総覧, 東北地方とその近海における地震活動, 大船地方年表, 新編日本被害地震総覧	陸中 史料不十分、疑わしい。
1864・8・5	元治1・7・4	大原(岩手県)地方地震。		②凶年表	
1864・8・19	元治1・7・18	15h, 南郷(宮城県)、相馬で地震。		①荒氏記録 ②吉田屋寛日記	
1864・9・10	元治1・8・10	南郷(宮城県)地方地震。		①荒氏記録	
1865・12・30	慶応1・11・13	02h or 14h, むつ(青森県)地方地震。		②万覚帳	
1866・2・13	慶応1・12・28	20h, 沢内(岩手県)地方地震。		②南部沢内年代記	
1866・6・24 7・19	慶応2・5・12	晩, 八戸地方地震。 6月8日も地震。		②遠山家日記	
1866・7・28	慶応2・6・17	14h, 南郷(宮城県)、相馬で地震。		①荒氏記録 ②吉田屋寛日記	
1866・8・5 9・11	慶応2・6・25	22h, むつ(青森県)地方地震。 8月3日も地震3度。		②万覚帳	
1866・11・17	慶応2・10・11	18h, 南郷(宮城県)、相馬で地震。		①高橋氏記録 ②吉田屋寛日記	
1866・11・24	慶応2・10・18	05h, 南郷(宮城県)、相馬、日光、成田・銚子・千鶴(千葉県)・江戸で地震。		①荒氏記録, 寒暖晴雨升降記, 斉藤月岑日記 ②吉田屋寛日記, 日光社家御番所日記, 豊田家日記, 玄蕃日記,	銚子

				万覚帳, 金沢三右衛門日記, 斉藤月岑日記 ③新編日本被害地震総覧	
1867・2・5	慶応3・1・1	22h, むつ(青森県)地方地震。		②万覚帳	
1867・2・13 3・18	慶応3・1・9	朝, 八戸地方地震。 2月18日も地震。		②遠山家日記	
1867・6・5	慶応3・5・3	06h, むつ(青森県)地方地震。 5月22日(12h)も地震。		②万覚帳	
1867・6・25	慶応3・5・23	13h, 盛岡、津軽・八戸・盛ヶ沢(青森県)、南郷(宮城県)、七塚(石川県)、平潟・成田(以上千葉県)、塩山(山梨県)、町田・江戸で地震。		①荒氏記録, 高橋氏記録, 斉藤月岑日記, 廣善公實記 ②上山半右衛門日記, 因記寺相統年歴等之記, 斉藤月岑日記, 遠山家日記, 万覚帳, 年中日記, 豊田家日記, 保坂家日記, 小島日記, 小栗上野介日記, 金沢丹後日記	
1867・8・3	慶応3・7・4	大原(岩手県)、若柳・高清水・古川で地震。		②古川市史, 高清水町史, 若柳町史 ③若柳年代表(栗原郡誌), 凶年表	
1867・8・4	慶応3・7・5	12h, 盛岡、南郷(宮城県)で地震。		①高橋氏記録 ②上山半右衛門日記	
1867・8・6	慶応3・7・7	24h, 南郷(宮城県)地方地震。		①高橋氏記録	
1867・8・9	慶応3・7・10	00h, むつ(青森県)地方地震。		②万覚帳	
1867・9・11	慶応3・8・14	22h, むつ(青森県)、塩山(山梨県)で地震。		②万覚帳, 保坂家日記	

- 別表
1. 慶長津波
  2. 安永地震
  3. 安政地震津波



## 2. 『安永元年5月3日の地震』

「安永元年5月3日の岩手県の地震について(宇佐美・佐藤1987)」による

表1. 安永地震による各地の被害

地域	被害内容	引用史料等	⇒収録資料
青森	弘前市 (5月3日)……昨夜丑之刻頃地震一度、今日巳之中刻頃地震強 (5月10日)……酉初刻少々地震 (5月13日)……巳ノ刻地震有之候夥敷事ニ候	御日記(御国)	⇒新収日本地震史料
	八戸市 (5月3日)……巳中刻地震……土蔵所々破損……、沢里繩手之石垣二三間程堤之はぶ崩 繩手中返割出売市堤共々繩手割候得共外大破之所無之…… (5月5日)……此度大地震ニ付野作川(野佐?現浅水川)新水門留場所々地さけ…… (5月3日)四つ時半大地震…… (5月28日)地震……	八戸藩勘定所日記	⇒新収日本地震史料
	三戸町 (5月7日)去る三日地震ニ而三戸御古城高石垣先年孕候間五間孕、三ノ御丸石亀屋敷之 上土手走、御金蔵屋敷石垣上石老ツ宛一間半落、大清水垣之四間半孕、御鷹部屋下平土手 四間走り……	御用人雑書	⇒新収日本地震史料
岩手	盛岡市 (5月3日)……今日ノ中刻頃大地震 (5月3日)……巳上刻大地震地割…… ……石垣其外所々小破…… (5月13日)……巳上刻同下刻小地震 (5月19日)……卯ノ中刻地震 (6月27日)……巳ノ下刻地震 (8月28日)当五月三日地震ニ付……盛岡城内東西之石垣ニケ所孕出……	御用人雑書 御用人雑書「別本」	⇒新収日本地震史料 ⇒新収日本地震史料
	雫石町 (5月3日)四ツ時大地震小半時計り揺り申候、人馬ノ歩行成兼動転致候、……岩鷲山の 金剛ハネ(岩手山山頂付近)と申岩揺り崩れ申候	雫石歳代日記	⇒新収日本地震史料
	沢内村 (5月3日)朝四ツ時大地震、大地夥しく動いて山々崩、……大地震夥しく破けて所々大き 損す、暮迄六七度ゆる (5月13日)四時地震、暮迄四五度ゆる (5月14日)四ツ時大地震 (6月9日・14日)地震	沢内年代記	⇒新収日本地震史料
	湯田村 (5月3日)……湯田専駄と云ふ者の親父おろせ倉(現在有)にて岩にぶたれて死す、	沢内年代記	⇒新収日本地震史料
	花巻市 (5月3日)……ひる之四ツ半ニ大地心成亥方ゆる也、土地さける也、…… (5月4日)大地震 (5月4日)昨日之地震ニ而花巻御城所々御破損之旨……	花巻市史(暦の中に記されている記録) ⇒新収日本地震史料 花巻市史(花巻年契)④ 御用人雑書「別本」	⇒新収日本地震史料
	平泉町 (5月3日)この日大地震す、中尊寺途中にて各歩をさまたげ顛覆せんとす、帰途に見れ ば、農家処々屋を倒し壁を壊る多し、申刻迄の内に又再度少く震せり	奥游日録	⇒新収日本地震史料
	田老町 (5月10日)……、田老村百姓金之助春松廿六歳罷成働ニ罷在候処、……石部崎(不明) と申所ニ而大岩被打相果候由	御用人雑書「別本」	⇒新収日本地震史料
	新里村 (5月10日)去る三日ノ地震之節、……茂市村与作女房四十一歳罷成山働ニ罷在候処、服 帯淵(現腹帯)と申所ニ而山崩候而、相果候由	御用人雑書「別本」	⇒新収日本地震史料
	宮古市 (5月10日)……、長沢村齊藤子寅松十四歳罷成、藤割沢(現花輪〜田鎖地域)と申所江 馬野放ニ罷越在候処、地震ニ而石被打、……、同七日死候由 (8月28日)当五月三日地震ニ付……(従城下)同式拾六里余東同郡宮古……土屋敷、町 屋、百姓家所々破損……	御用人雑書「別本」	⇒新収日本地震史料
	川井村 (5月13日)……、川井村水呑百姓伊之助十五歳・箱石村(現箱石地区)御百姓権之助子 加す十六歳罷成去ル三日山働ニ罷在候処地震ニ而岩被打相果候由、……	御用人雑書「別本」	⇒新収日本地震史料
山田町 ……大地震、四ツ比ヨリ大ニゆり出し九つ比までゆり申候、然ニ□□蔵山(御蔵山?) 初九郎後より地長三郎後迄山切落申候、当町店々瀬戸大ニ痛み、酒屋は酒ゆりこほし騒走 事言語同断、可申様無之、□第□大槌宮古山々切ル事云斗りなし、戸川通(不明)ニテ五 十□人馬石ニ而打レ死者アリ	武藤六衛門所蔵記録⇒増訂大日本地震史料		
大槌町 (8月28日)当五月三日地震ニ付き……(従城下)同式拾五里余南同郡大槌、……土屋敷 町屋、百姓家所々破損……	御用人雑書「別本」	⇒新収日本地震史料	

釜石市	(5月21日)……三日地震ニ而死人牛馬并怪我馬左の通 栗林村庄八子 箱崎助左衛門知行箱崎村小八 一、三太郎 女房 八歳 四十歳 箱崎村作十郎 小玉村源助 一、女房 女房 三十六歳 四十歳 右は作働并海草取りニ罷越候処岩崩ニ当相果候由、馬九疋牛老疋野放仕置候処岩崩ニ而死 或は怪我仕候……	御用人雑書「別本」⇒新収日本地震史料	
	……午刻過大地震、栗林村庄八子由松八才、山畑へ越候所石嶺即死、箱崎村作十郎女房二 十六才、小八女房四十才、海草取りニ出候所石嶺即死、三貫嶋四方所々崩れ、野放馬九疋 支配にて石嶺即死、村浦々岩嶺山嶺等有之、…… ……午ノ刻過大地震ニ而栗林村庄八子共由松八才山畑罷越候所石崩有死、箱崎村作十郎女 房廿六才、小八女房四十歳海草取りニ出候所石嶺即死三貫嶋四方所々崩其外野放馬九疋支 配所にて石崩死有村々浦々ニテ岩崩山崩等有之…… ……大地震に本村に属する三貫島四方所々崩れしとの事旧記に見ゆ ……大槌地方に地震あり、大槌通にも数人の被害者が出て、三貫島の四方崩れ、…… 安永三年五月三日に大地震、津浪無之候へ共、地は割れて地中より泥を吹上、其節箱崎村 にては端午の市日に賣らん機もの貝類取り候為、女子供崎々に出候処、山崩岩崩速死のもの 有之候よしに云傳候、 五月三日大地震アリタレ共夏中ノ為敷津波之レナク古人ハ草木青葉ノ節ハ津浪之レナキコ トヲ言殘シ置キヌ然レ共地ハ割レテ泥ヲ吹キ揚ケタリト其節箱崎村ニテハ端午市日ニテ賣 買ノ機物貝類採リニ女子供崎々ニ出テ居リタルニ山崩レ岩落圧死スル者少ナカラズアリシ ト	大槌漁業史(大槌古今代伝記)㊤ 大槌支配録 ⇒新収日本地震史料 上閉伊郡志㊤ 大槌地方年表㊤ 大槌日事梅莊録 ⇒増訂大日本地震史料 梅莊見聞録㊤	
遠野市	(5月13日)去ル三日地震節、遠野八戸弥八郎(弥六郎?)知行所郭中其外地割所々震下 樹木倒、家居少破有之、震曲候間四疋疋死之由、其外、山川土石拔崩候段、…… (8月28日)当五月三日地震ニ付……從城下拾五里余南閉伊郡遠野、……土屋敷、町家、 百姓家所々破損……	御用人雑書「別本」⇒新収日本地震史料	
一関市	(5月3日)……午時大地震動記異也	一関市史(歴代年譜考)㊤	
大東町	(5月3日)地大ニ震フ (明和八年)五月三日四ツ時下刻膳、椀、鍋、釜の破損酒溢れ等最も多し	大原町誌(凶年表)⇒新収日本地震史料 大原町誌(時事見聞録の中より抜粋)㊤	
大船渡市	安永式年五月三日……此時日頃市之五葉山(現日頃市町)大船連白クなり介連ハ大舟渡浦 不漁四五年なり…… (安永3年5月3日)大地震津浪は無きも地は割れ山崩れ岩崩れありたり	世間風唱書之事㊤ 赤崎村史料、末崎村誌㊤	
陸前高田市	地志んハ安永式年之五月三日大地震志ん…今泉(現気仙町)之神崎山も崩連所々土蔵大壁落 介るなり	世間風唱書之事㊤	
三陸町	(安永3年5月3日)地割	綾里村誌㊤	
その他	(安永3年5月3日)大地震地割レ山や岩ノ崩レアリ (安永3年5月3日)大地震有之候得共夏中故敷津浪は無之候趣左候へ共地は割れて地中 より泥を吹上候事有之候趣	気仙年代表㊤ 岩手県史 ⇒新収日本地震史料	
宮城	気仙沼市	明和九年辰年五月三日大地震……五十七年来の大地震なり街道ならびに田割れ膿みあがり 泥になりたり	気仙沼かわら版(見聞帖)㊤
	河南町	明和九年五月三日、昼四ツ時に大地震塵又町屋敷十七軒ゆりつぶし明和四年の地震より大 きく御座候 大地震泥溜ありて御分領大被害に候	石巻市誌(鹿又斎藤文書)㊤
仙台	若柳町	(5月3日)四ツ下刻本町(若柳町)御蔵三棟倒る 膳鍋鍋釜の破損酒溢れ等最も多し	栗原郡誌(若柳年表)㊤
	迫町	屋四ツ時大地震 (5月4日)大地震	近世日誌(元和元年より歳之吉凶留帳) ⇒新収日本地震史料 近世日誌(年々出来事記)⇒ "
秋田	花山村	(5月3日)大地震	花山村誌 ⇒新収日本地震史料
	その他	(5月3日)大地震 (5月3日)封内地大ニ震ス墻屋壊敗多シ (5月3日)封内大地震	登米郡誌(凶荒年代表)㊤ 東藩史原 ⇒新収日本地震史料 米谷郷土史年表 ⇒新収日本地震史料
日光	角館町	(5月3日)巳ノ刻地震 (5月3日)……巳ノ刻地震有之候影敷事ニ候	角館火災地震年譜 ⇒増訂大日本地震史料 北家御日記 ⇒新収日本地震史料
	南外村	(5月3日)屋四ツ時大地震有、所々ニ而家もつぶれ申候、方々地われ申所御座候	南外村誌(相馬家文書)⇒ "
その他	日光	(5月3日)巳刻過地震、御宮中御安全、……	日光社家御落所日記⇒新収日本地震史料
	八王子	(5月3日)昼時大地しん	石川日記 ⇒新収日本地震史料
東京	(5月3日)……巳刻過地震余程強候…… (5月3日)……四ツ半過地震	御日記(江戸) ⇒新収日本地震史料 幕府書物方日記 ⇒新収日本地震史料	

㊤ 博物館収集資料  
被害内容記事( )内は佐藤が付した

表2. 岩手県中部沿岸地震(1987年1月29日)の被害

地域	被害内容
三八地区 八戸市	・八戸製錬所で精製炉3本のうち2本に亀裂、液体 再始流出 被害額7000万円 ・1630号発電機(高圧線の断線による) ・庁舎(旧館・昭和35年建設・3階建て)の窓ガラス210枚破 損 被害額395万円 ・水道企業団庁舎で窓ガラス48枚破損 ・市民病院で高梁水槽の給水バルブ2基破損、壁に亀裂、窓ガ ラス30枚破損など被害額280万円 ・体育館 窓ガラス10枚、水道管3か所破損 ・公会堂 スプリングクラム破損し漏水 ・美術館 壁の亀裂15か所、階段の壁には3mの亀裂 ・青少年ホームのガラス12枚破損 ・博物館 ガラス破損 ・宅地ブロック擁壁破損(5×3m) ・合同庁舎 ガラス破損(約100枚) 内壁に亀裂 ・上長農協 壁のタイル剥離 被害額300万円 ・中央卸売市場 暖房用ポンプに亀裂1か所、ガラス破損65枚 ・アイスクリーム店の氷2か所にひび ・小中学校被害 ガラス破損18枚(213枚)、内外壁の一部落 下16枚など被害額517万円 ・水道管破損等による漏水20か所 ・商店街 窓ガラス破損、外壁落下被害額9400万円
※五戸町	・石油ストーブ上のヤカンが落下し熱湯で一人火傷 ・学校被害(ガラス破損、外壁に亀裂)
※三戸町	・商店街 商品破損 ・学校被害(窓ガラス破損、外壁に亀裂)
※南郷町	・学校被害(窓ガラス破損、外壁に亀裂)
名川町	・農業用水堰(地下トンネル式)1か所破損 被害額6200万円 ・商店街 商品破損 ※学校被害(窓ガラス破損、外壁に亀裂)
下北・上北地区 ※三沢市	・庁舎のタイル落下 ・市民病院 新館の渡り廊下の壁に10数本の亀裂 ・学校被害(窓ガラス破損、外壁に亀裂)
※むつ市	・ショッピングセンターの配水管破損

① 青森県内の被害概要

地域	被害内容
※十和田市	・デパートの食料品落下、窓ガラス破損 ・学校被害(窓ガラス破損、外壁に亀裂)
※その他(野辺地町・七戸町・百石町・東北七戸町・下田町・天間林村)	・繁華街のデパート ショッピングセンター自動停止 ・エレベーター自動停止
東青地区 ※青森市	・被害なし ・弘前大学の観劇では震度 III
中弘南地区 弘前市	

② 岩手県内の被害概要

地域	被害内容
九戸・二戸地区 小湊市 久慈市	・橋梁(小袖橋)に亀裂 被害額800万円 ・小久慈陶芸苑での陶器落下による被害等、市内商店街の商品被害 38店舗 235万円 ・料理中の火傷2名
野田村	・浜小屋が土砂崩れで倒壊被害額103万円 ・土蔵の壁に亀裂
大野村	・炭焼釜10基崩落、他に炭焼釜、炭焼小屋の破損 被害額638万円 ・庁舎、学校等の施設に被害 被害額100万円
軽米町	※290 世帯停電(送電線の電線切断のため) ・炭焼釜22基崩落 被害額376万円
上・下閉伊地区 普代村	・崖崩れ、落石等6か所(落石により非住家2棟倒壊)、橋梁被害1か所 被害額2億9400万円 ・海岸沿いの『自然遊歩道』に落石1か所
田野畑村	・地割れ 長さ約25m、2か所陥没し大きいものは幅2.2m×深さ2.75m ・土砂崩れ1か所 被害額500万円 ・水道配水施設破損 被害額800万円
岩泉町	・庁舎の窓ガラス18枚破損、スチール製書棚5~10cmずれる ・本田川 土砂崩れで河川にかぶり 2か所 ・[県道宮古一岩泉線] 落石 ・[県道姫松一岩泉線] 落石 ・[県道岩泉一久慈線] 落石 ・[県道岩泉一久慈線] 橋梁に亀裂 ・小本川 護岸に亀裂(盛土部分10m) 町内土木被害額1億円

川井村	村内各地区	※770 世帯停電（避電器の電線切断のため） ・その他被害なし
新里村	押角 ――	・【国道 340号線】土砂崩れ 被害額 900万円 ※【JR山田線】腹帯一茂市間で土砂崩れ
宮古市	津軽石 角上ヶ岳 市内各地区	・市役所津軽石支所の窓ガラス36枚破損 ・【市道争土ヶ岳岩線】2か所土砂崩れ ・【市道老木一田線】2か所土砂崩れ ・庁舎、学校等施設被害額 220万円、道路被害額6000万円
大鵬町	桜木 磐岩 吉里吉里	・【町道小総線】地滑り（延長 59.8 m）被害額 500万円 ・【主要地方道大組一川井線】落石（約10 t） ・一般家屋の屋根瓦落下 2棟、教員住宅の壁にひび 1棟 ・大鵬中学校 壁にひび、シャッター故障 ・庁舎の壁にひび ・水道事業所の水源井戸が砂混じりのにごり水になった
金石市	樺野 新町 箱越、平田 室浜、佐須 ・天神	・屋根瓦落下 一人負傷（68歳女性） ・炭焼釜 3基損壊、サイロ 1基破損 ・合同庁舎 ガラス 1枚破損、天井板一部破損 ・法華尺 水道管破裂により50世帯断水 ・石垣崩壊 5か所 ・道路に落石
遠野市	遠野町	・遠野小学校で25か所窓ガラス破損 ・庁舎の壁40か所に亀裂 ・市民センター大型ガラス 7枚破損、廊下のガラス20枚破損 ・地下プールの天井板一部破損 ・ストロークのヤカンの熱湯をかぶり火傷 1人 ・ロッカーから落下した鉄パイプで負傷 1人 ・【国道 288号線】道路に亀裂 7.1m 被害額 101万円 ・【国道 340号線】上郷橋で橋脚下部（中座）40基中32基に亀裂 被害額 140万円
岩手・紫波地区 盛岡市	内丸 厨川 みたけ 松屋敷 市内各地区	・県公舎センター 窓ガラス破損、ガラス器具棚から落下 ・菜だんす倒れ、割れたガラスで負傷 1人 ・ストーブのヤカンの熱湯をかぶり火傷 1人 ・県立博物館で展示室のガラス破損 ・建物の壁、床の亀裂 41件、ガラス破損 24件、商品落下 41件、配管破損 4件 計99棟 被害額 1898 万円 ※【JR山田線】上米内一太志田間で土砂崩れ
滝沢村	鶴飼 村内各地区	・滝沢村公民館 ガラス 3枚破損 ・建物の壁にひび、ガラス破損 4件
葛巻町	町内各地区	・建物の床・壁にひび 4件 被害額 211万円
岩手町	町内各地区	・建物の壁にひび、ガラス破損 4件
矢巾町	町内各地区	・建物の床・壁にひび 2件

### ③ 宮城県内の被害概要

地域	被害内容	概要
気仙沼・本吉地区 気仙沼市 松岩 ――	・鹿折中学校の壁に亀裂（以前からの亀裂拡大） ・松岩公民館で窓ガラス 2枚破損 ※繁華街のスーパーで床のタイルにひび、棚のものの落下 ※【JR気仙沼線】地震直後から全線で運転中止	
石巻地区 ※石巻市 ――	・測候所（大正10年開設）の観測史上最大の揺れを記録	
登米地区 登米町 迫町	・被害なし ・被害なし	
栗原地区 若柳町 花山村	・被害なし ・被害なし	
大崎地区 ※古川市	・東北新幹線では古川市以北で沿線地震計が 120ガル以上を記録	
仙台地区 ※仙台市 清水子路	・市立病院 エレベーター 6基中 2基停止	

### ④ 秋田県内の被害概要

地域	被害内容	概要
※鹿角市 ――	・鹿角総合庁舎 二階トイレ部分のコンクリート壁など5か所に亀裂	

注 ※の付されている市町村の被害内容は、東奥日報・青森版、青森版、デーリー東北・青森版、若手日報・青森版、秋田版、河北新報・青森版、若手版・宮城版のほか、大船渡地域のローカル紙東海新報に掲載された報道記事によった。

都南村	村内各地区	建物の床・壁にひび 6件、ガラス破損 4件
神和・胆江地区 ※石巻谷町 ――	花巻空港 花城町 市内各地区	・パチンコ店で窓ガラス落下し 1人負傷 ・空港ターミナルビルでガラス 3枚破損 ・合同庁舎 窓ガラス 3枚破損 ・学校、庁舎等施設被害額 139万円
※北上市	本石町 新穀町 市内各地区	・黒沢尻西小学校 ガラス56枚破損 ・庁舎ガラス29枚破損 ・市民会館 外壁に亀裂 ・小学校 4、中学校 2でガラス76枚破損 ・学校、庁舎等施設被害額1136万円
※東和町 湯田町	町内各地区 仙人峠	・学校、庁舎等施設被害額 160万円 ・【国道 107号線】スノーシューの支柱に亀裂やずれ（老朽化していた？） 被害額1500万円
※江釣子村 市内各地区	岩谷堂 米里 市内各地区	・学校、庁舎等施設被害額 27 万円 ・福祉事務所窓ガラス23枚破損 ・市民会館の窓ガラス 2枚破損 ・水道配水管破裂で20世帯断水 ・玉里、藤里、太田代、広瀬、稲瀬各小学校と江刺中学校で校舎や体育館の窓ガラス破損、壁に亀裂、藤里小など 3校ではコンクリート床に亀裂
水沢市	藤橋	・【国道 343号線】藤橋下部橋脚に被害？ ※東北新幹線の沿線地震計が最高 350ガルを記録
面撃・気仙地区 一関市	平泉町	・被害なし
藤沢町	七日町	・被害なし
大東町	笹ノ田峠	・【県道東和一薄衣線】道路下の石積み崩らむ
※住田町	小股 上有住	・【国道 343号線】トンネル内の壁面に亀裂 ・【国道 107号線】落石（小規模、通行に支障なし） ・【JR金石線】上有住構内 落石 3か所（3～4 t）の岩石 12個、高さ 100m の崖の上から
大船渡市	笹 崎 前田 田ノ上 平 林	・大船渡小学校のトイレの壁一部落下 ・猪川小学校 ゴミ焼却所の煙突折損 ・大船渡第一中学校 体育館の天井板 2枚落下 ・末崎中学校 水道管破損
※三陸町	後山 平館 白木沢橋	・身体障害者施設「吉浜荘」の飲料タンクに亀裂 ・綾里小学校の体育館の消火栓がひび割れ、漏水 ・【国道45号線】白木沢橋付近で土砂崩れ（小規模）

図1. 安永元年5月3日の地震の推定震度分布

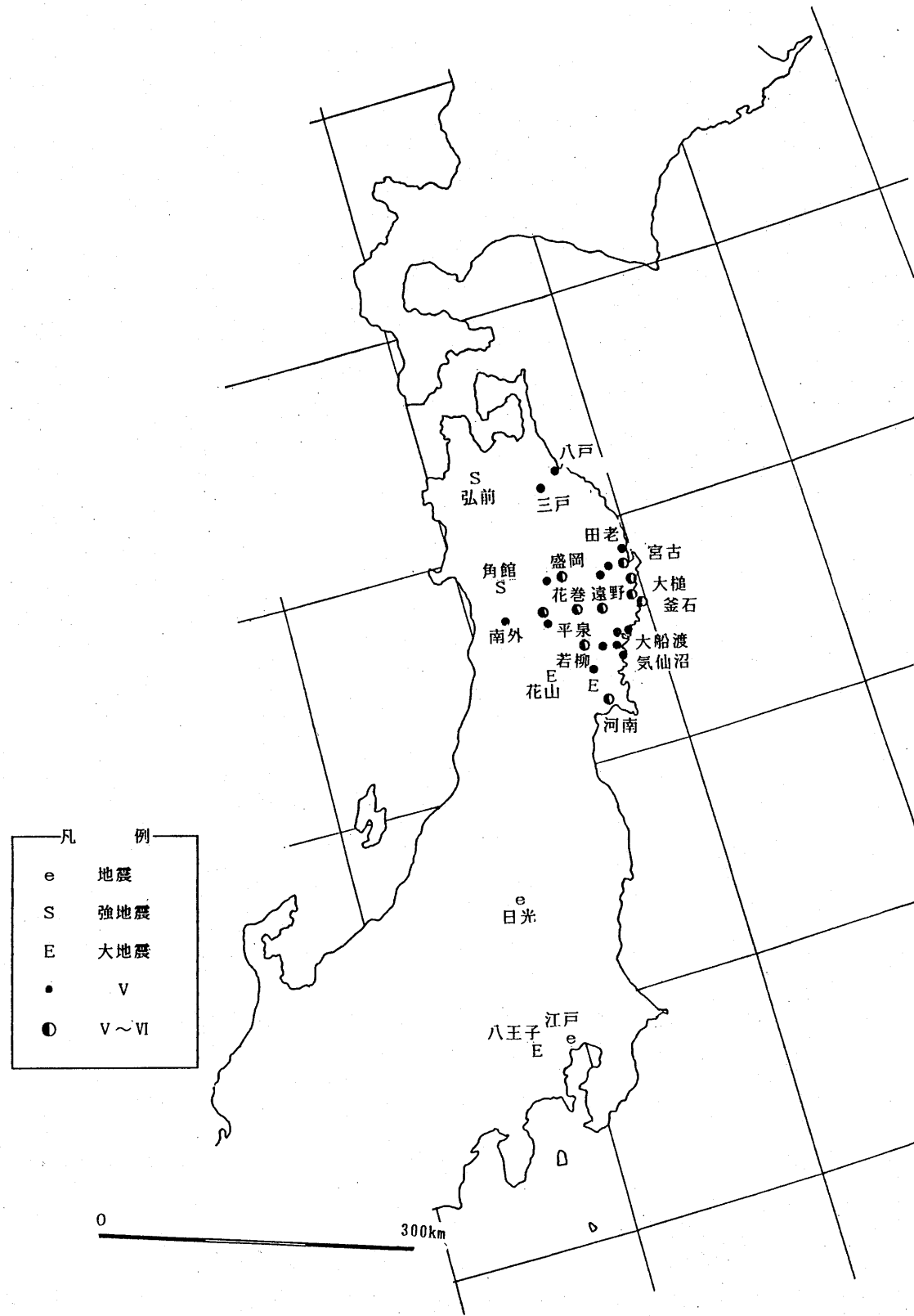


図2. 岩手県中部沿岸地震の震度分布

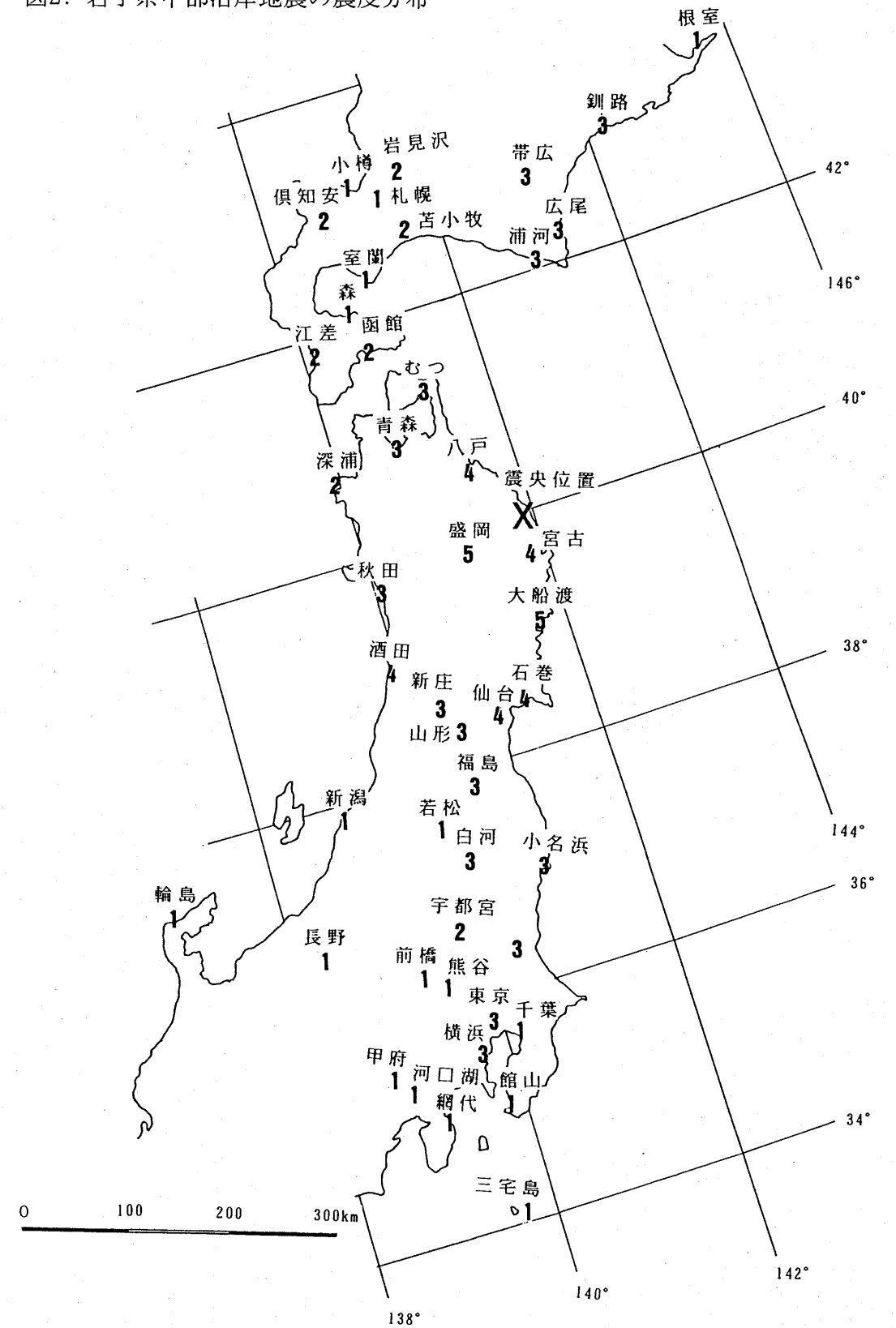




図3. 安永元年5月3日の地震による被害

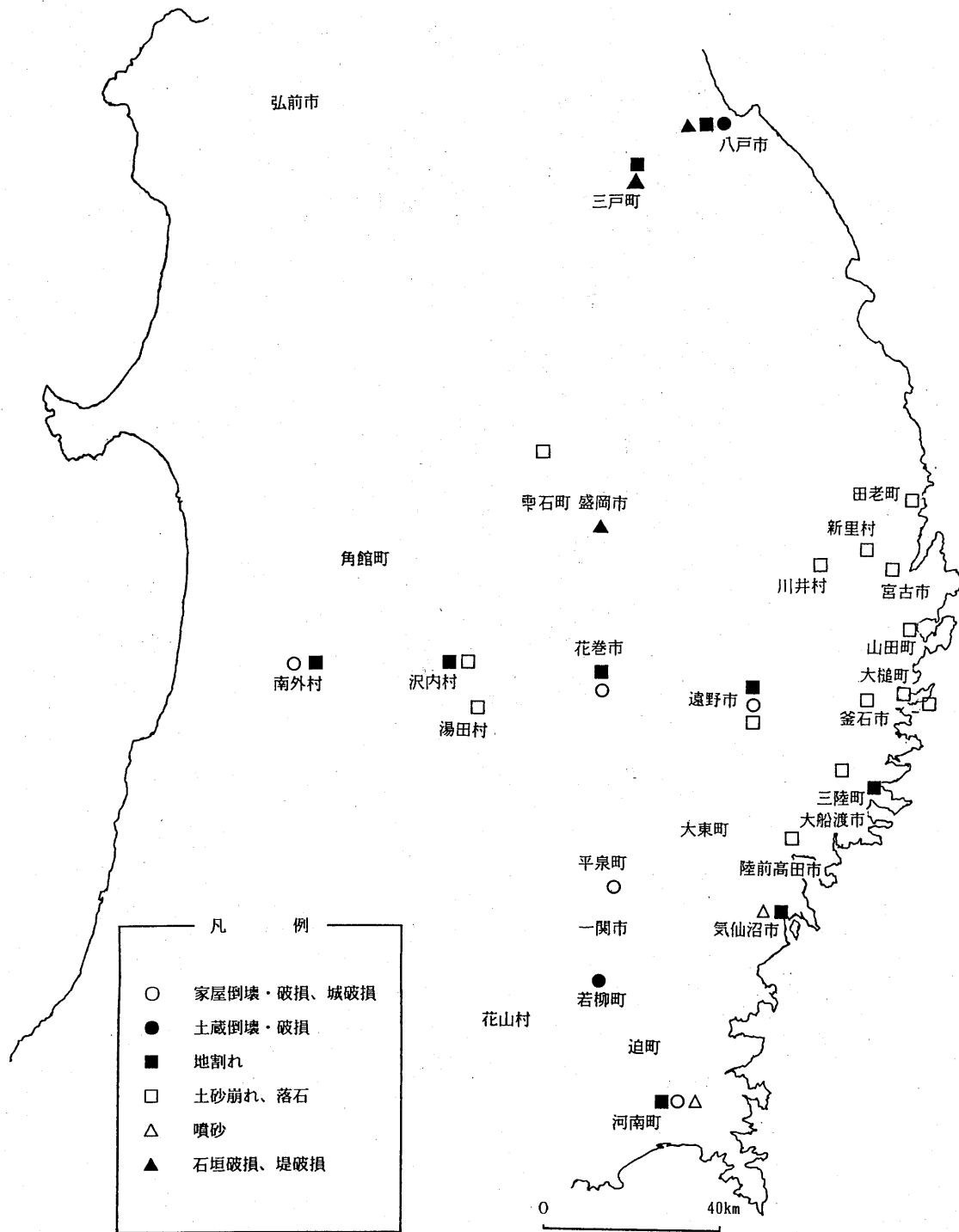
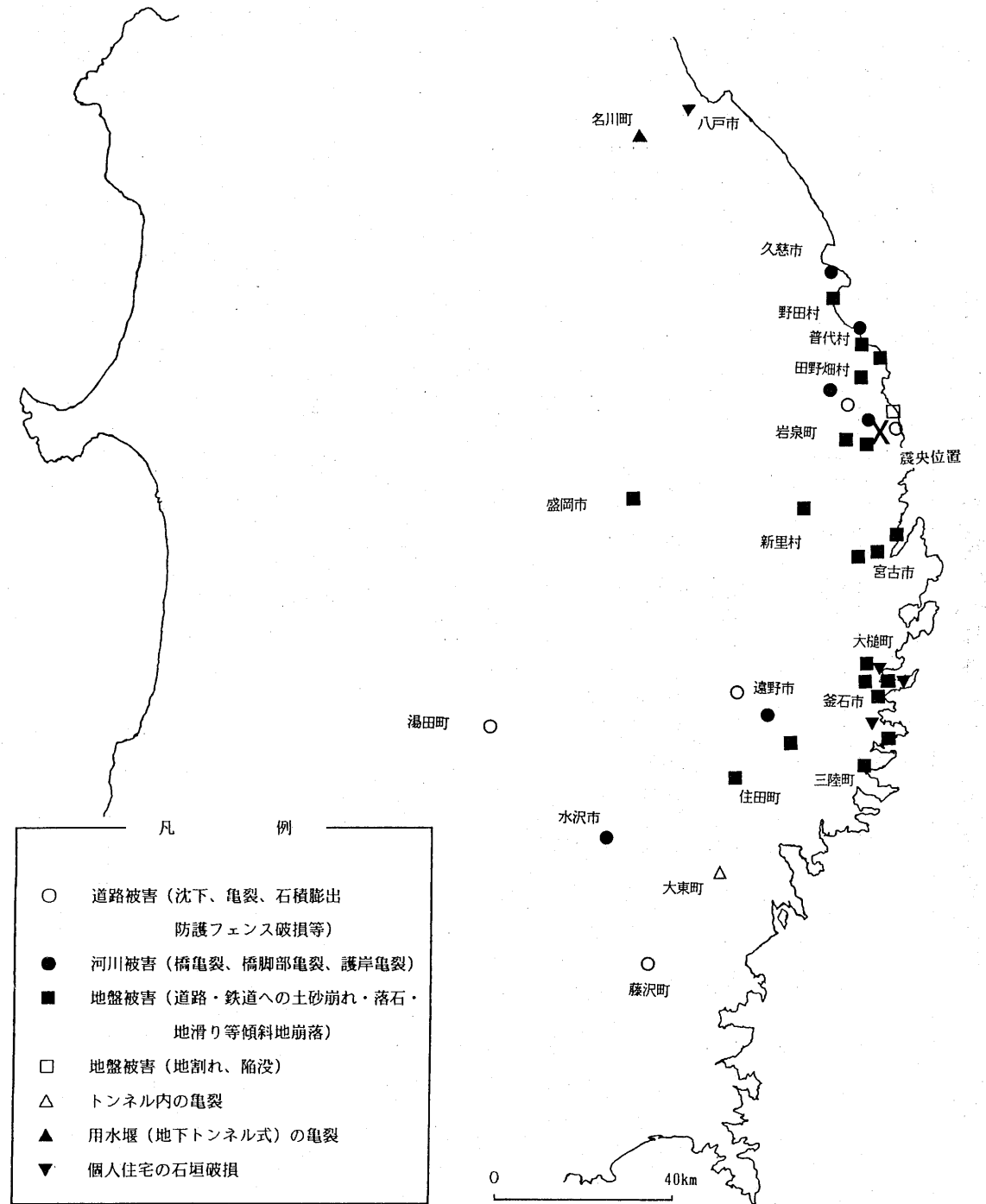


図4. 岩手県中部沿岸地震の土木被害

(岩手県庁：1987、大船渡市立博物館：1987より作成)



3. 『安政地震津波』の各地被害等概要（「三陸町史」第四卷・津波編より）

地域	地震、津波発生状況及び被害状況		史料	
	地震	津波		
北	函館	23日13h 地震強。その後昼夜地震。潰家、けが人なし。 20日頃より日々地震面3度。 23日 家屋の倒壊、壁に被害。 23日13h 地震。19日頃より地震数回。 23日13h 地震。土蔵壁破壊、屋根石転落。 7月19日余程の地震、程なく揺り返し。 24日より8月1日まで度々地震。 20日24h 地震、津波。13h 大地震。 23日11h より地震、13h 大地震。 14h 津波。 24日14h 地震3度。 25日 地震。 26日08h 地震。 27日 度々地震。 28日08h 地震。 8月1日12h 小地震2度。 10日 地震。 24日 地震。 26日14h 中地震。 9月8・9・12・22・25日も地震あり。 - 地震被害なし。	15h 高浪平水より一丈余横す。 地蔵町、楯形内外建家床上水冠四五尺。 - 潮岸に上がる。8波、夜まで続く。 - 平地より五尺許上がる。小屋流出。 - 波高丈余。8～9波。五百石積の船街路に上がる。夜に収まる。 14h 津波。平水より7～8尺高い、16h 1丈2～3尺の高潮。低地は浸水する。約20波。 津波。 津波。	時風録 北遊乗 維新前北海道変災年表 北海道史 西川脩翠先生手録日記 ／長万部村平水蠟作日記
	海	23日10h 過ぎ小地震、12h 頃前後2回地震、22h 頃小地震。 - 余震 - 7月25日10h 1度、24h 2度地震。 26日04h、06h 地震。 27日04h、06h、08h 2度、10h、14h、20h 地震。 28日04h 地震。 8月1日10h 地震。 10日20h 地震。 11日02h 地震。 24日02h 地震。 25日02h 地震。 9月12、13、21、22、23、28日も地震。 23日13h 所々噴煙はなれ、液状化現象。 23日12h 3度地震。土蔵3潰れ、御役所格子一間破損、白壁一間倒壊。 20日24h 2度地震。 - 余震 - 7月24日地震度々夜中六七度地震。 26日08h 余程強き地震。夜中も折々地震。 27日昼過ぎ大分強き地震。昼夜度々。 28日02h 強地震。少々ばかり面度の地震。 8月24日18h～02h 三度地震。 26日14h 大分強き地震。 27日昼過ぎ少々地震。 9月8日、9日、29日も地震。 地震強く、被害あり。 23日12h 城内殿中所々破損、朱印車他大破、門倒壊。	14h 津波は引き波で始まった。流家径我無く、橋流出位。 津波町家軒をひたす。 14h 前より高汐、夕方迄度々。被害なし。 サル領会所前は高汐擁エトモ辺も余程の高汐 - 夜海水増強し、平水より4尺余増す。 - 浪打ちわより10町余汐引く。村民挙げて山に引き揚げる。 - 海水平常よりも45間位陸を浸す。 14h 突然沖合に異常、街路に打ち上げた波は、約6尺。前後1時余で平海にもどる。 - 五百石積以上の船2艘転覆。（口碑） - 津波 - 津波 海底鳴動、津波九度。暮まで。 - 流死あり。	函館区史 村垣淡路守範正公務日記 時風録 鶴田郡上磯村戸長役場報告 鶴田郡磯法華村戸長役場報告 山越郡八雲村戸長役場報告 茅部郡白尻村戸長役場報告 浦河郡役所報告 北海道史 国泰寺日鑑記 見聞随筆
道	勇払 沙流 絵柄 上磯 磯法華 八雲 白尻 浦河 舞 十勝 渡島 高より厚岸 厚岸 砂原 室蘭	23日12h 頃地震余程強 サル境は余程前所出来 - 8月初旬まで時々地震。 23日12h 強震。 - 海底隆起? (口碑) 海岸では岩石崩壊。 23日12h 地震。落石。地裂ける。		

弘前	23日10h 過ぎ小地震、12h 頃前後2回地震、22h 頃小地震。 - 余震 - 7月25日10h 1度、24h 2度地震。 26日04h、06h 地震。 27日04h、06h、08h 2度、10h、14h、20h 地震。 28日04h 地震。 8月1日10h 地震。 10日20h 地震。 11日02h 地震。 24日02h 地震。 25日02h 地震。 9月12、13、21、22、23、28日も地震。 23日13h 所々噴煙はなれ、液状化現象。 23日12h 3度地震。土蔵3潰れ、御役所格子一間破損、白壁一間倒壊。 20日24h 2度地震。 - 余震 - 7月24日地震度々夜中六七度地震。 26日08h 余程強き地震。夜中も折々地震。 27日昼過ぎ大分強き地震。昼夜度々。 28日02h 強地震。少々ばかり面度の地震。 8月24日18h～02h 三度地震。 26日14h 大分強き地震。 27日昼過ぎ少々地震。 9月8日、9日、29日も地震。 地震強く、被害あり。 23日12h 城内殿中所々破損、朱印車他大破、門倒壊。	津軽藩日記 御日記 津軽藩日記 柗崎日記 奥羽西部ノ地震帯 小山内日記 八戸藩史稿 青森紀聞 内史略 内史略 多志南美草 新渡戸伝一生記
青	23日10h 過ぎ小地震、12h 頃前後2回地震、22h 頃小地震。 - 余震 - 7月25日10h 1度、24h 2度地震。 26日04h、06h 地震。 27日04h、06h、08h 2度、10h、14h、20h 地震。 28日04h 地震。 8月1日10h 地震。 10日20h 地震。 11日02h 地震。 24日02h 地震。 25日02h 地震。 9月12、13、21、22、23、28日も地震。 23日13h 所々噴煙はなれ、液状化現象。 23日12h 3度地震。土蔵3潰れ、御役所格子一間破損、白壁一間倒壊。 20日24h 2度地震。 - 余震 - 7月24日地震度々夜中六七度地震。 26日08h 余程強き地震。夜中も折々地震。 27日昼過ぎ大分強き地震。昼夜度々。 28日02h 強地震。少々ばかり面度の地震。 8月24日18h～02h 三度地震。 26日14h 大分強き地震。 27日昼過ぎ少々地震。 9月8日、9日、29日も地震。 地震強く、被害あり。 23日12h 城内殿中所々破損、朱印車他大破、門倒壊。	津軽藩日記 柗崎日記 奥羽西部ノ地震帯 小山内日記 八戸藩史稿 青森紀聞 内史略 内史略 多志南美草 新渡戸伝一生記
森	23日10h 過ぎ小地震、12h 頃前後2回地震、22h 頃小地震。 - 余震 - 7月25日10h 1度、24h 2度地震。 26日04h、06h 地震。 27日04h、06h、08h 2度、10h、14h、20h 地震。 28日04h 地震。 8月1日10h 地震。 10日20h 地震。 11日02h 地震。 24日02h 地震。 25日02h 地震。 9月12、13、21、22、23、28日も地震。 23日13h 所々噴煙はなれ、液状化現象。 23日12h 3度地震。土蔵3潰れ、御役所格子一間破損、白壁一間倒壊。 20日24h 2度地震。 - 余震 - 7月24日地震度々夜中六七度地震。 26日08h 余程強き地震。夜中も折々地震。 27日昼過ぎ大分強き地震。昼夜度々。 28日02h 強地震。少々ばかり面度の地震。 8月24日18h～02h 三度地震。 26日14h 大分強き地震。 27日昼過ぎ少々地震。 9月8日、9日、29日も地震。 地震強く、被害あり。 23日12h 城内殿中所々破損、朱印車他大破、門倒壊。	津軽藩日記 柗崎日記 奥羽西部ノ地震帯 小山内日記 八戸藩史稿 青森紀聞 内史略 内史略 多志南美草 新渡戸伝一生記
三沢	23日10h 過ぎ小地震、12h 頃前後2回地震、22h 頃小地震。 - 余震 - 7月25日10h 1度、24h 2度地震。 26日04h、06h 地震。 27日04h、06h、08h 2度、10h、14h、20h 地震。 28日04h 地震。 8月1日10h 地震。 10日20h 地震。 11日02h 地震。 24日02h 地震。 25日02h 地震。 9月12、13、21、22、23、28日も地震。 23日13h 所々噴煙はなれ、液状化現象。 23日12h 3度地震。土蔵3潰れ、御役所格子一間破損、白壁一間倒壊。 20日24h 2度地震。 - 余震 - 7月24日地震度々夜中六七度地震。 26日08h 余程強き地震。夜中も折々地震。 27日昼過ぎ大分強き地震。昼夜度々。 28日02h 強地震。少々ばかり面度の地震。 8月24日18h～02h 三度地震。 26日14h 大分強き地震。 27日昼過ぎ少々地震。 9月8日、9日、29日も地震。 地震強く、被害あり。 23日12h 城内殿中所々破損、朱印車他大破、門倒壊。	津軽藩日記 柗崎日記 奥羽西部ノ地震帯 小山内日記 八戸藩史稿 青森紀聞 内史略 内史略 多志南美草 新渡戸伝一生記



野田	23日11h ~ 暫時の内地震。		
宮古			
岩			
釜石			
手	23日12h 初め地ゆっくりと相ゆり、中頃人々うごかされほどになり、甚時半ゆり		
藤沢	23日12h 地震。去年七月三日の地震より軽。 7月26日08h 地震。		
盛岡	23日12h 地震。八月初旬まで昼夜幾度も震。九月中旬まで昼夜面3度つつ。 居宅破1、小家潰1、田の破状況、土蔵破損・壁崩落。 7月26日08h 地震。 23日13h 地震、所々の土蔵さけ。 25日朝大震。 28日夜、04h大震。その間日々7、8度震、小震は7月15、16日より9月10日まで。		

内史略 岩手懸沿岸大海嘯取調書 内史略	23日12h 引込に取られ2死亡。打上浪二十尺。被害無。逆浪走込ミ二人死亡。久喜 被害は 家屋潰 23 土蔵大破1 家屋流失22 家屋大破48 家屋小破20	内流失家屋9、大破9、浦家9、小破1 被喜家屋36 内流失家屋5、大破16、潰家1、小破14	内史略 岩手懸沿岸大海嘯取調書 内史略
金兵 高浜	金兵 高浜	内流失家屋9、大破9、浦家9、小破1 被喜家屋36 内流失家屋5、大破16、潰家1、小破14	安政三辰年七月廿三日地震二而大汐押上ケ吉里々々々浦破損并諸浦破損留書 安政三年津波聞書
赤前・金浜・高浜	赤前・金浜・高浜 家はとられ、場所長屋一平打ちとられ、小舟ハ所々江打上られ、人は死に申さず	家はとられ、場所長屋一平打ちとられ、小舟ハ所々江打上られ、人は死に申さず	雑書索引 近勳文書
赤前 津軽石 赤前・金浜・高浜 金浜	赤前 津軽石 被害無。 赤前・金浜・高浜 三、四十軒ツツ潰れ。	被害無、高浜 残らず流、金浜 残らず流、	中村文書 安政三辰年七月廿三日地震二而大汐押上ケ吉里々々々浦破損并諸浦破損留書 永出水壽坊徳歡手記
片岸 面石 釜石 平田 流家 片岸 面石 釜石 箱崎 片岸 釜石 箱崎 至ノ浜 白浜	給所人家へ汐八九尺押入。海岸人家汐一丈押上。海岸人家汐七八尺押上。海岸人家汐三四尺押上。流家 54、潰家 11、納屋流 37、納屋破 36。いたみ 人家17軒流失、小船4、5隻流。 2 3軒破損。 納屋馬屋7軒流失、御蔵残らず流失。 片岸人家7、87軒流失。 只越 14、15 軒流失。 舟12流失。 家屋二三軒戸数廿四戸流失。打上浪十尺、走浪三十五間。 面石 打上浪拾尺。 桑ノ浜 宅地七尺上水。 箱崎 打上浪三間余。 至ノ浜 九尺上水。 白浜 海岸宅板間潮浪打上。	家はとられ、場所長屋一平打ちとられ、小舟ハ所々江打上られ、人は死に申さず	雑書索引 安政三年津波聞書 安政三辰年七月廿三日地震二而大汐押上ケ吉里々々々浦破損并諸浦破損留書 内史略
釜石			岩手懸沿岸大海嘯取調書
手			皆川家日記
藤沢			内史略
盛岡			雑書索引 近勳文書

釜石	田の液状化。地震。一つ時計りも揺。度々地震。8、9月頃度々地震。古小家潰1。土蔵残らず壁落ち。大震。		内史略 零石歳代日記
福岡	23日12h 大地震。段々度々日時十日ばかり地震。地震はそれより大小となく昼夜十度以上。二十日以上止まず。津波前并の水五六尺程減す。		内史略 近勳文書 近勳文書 大原町誌 岩手懸沿岸大海嘯取調書
西山根			留書
花巻			
大原			
陸前高田			
岩	23日12h 頃より夜中まで拾ヶ度以上地震。28日 23日以來今朝まで昼夜地震。昨今而度大地震。	住居低い所一丈、高い所五、六尺潮押込。馬屋、納屋等まで数十軒流失。田畑に被害。 沼田の土蔵に六尺逆浪。 津浪夜中まで拾四、五ヶ度押上。 海辺へ巻々余海ふくれる。 14hより24日朝まで十度以上あり、内3度大津波。田畑冠水。 長部 隣家の居家津浪押上。低地の家は巻々余、外は敷板より五、六尺押上。馬家納屋七、八軒流失。 今泉 27、28 軒敷板より4、5尺〜1尺押上押上、壁戸障子破損。 高田 河口水路、堤等破損。足軽屋敷通前庭まで押上。 可真ま潮水押し入。 浜田・勝木田 田畑に被害。 浜田 5、6軒敷板より4、5尺〜1尺押上押上、壁戸障子破損。 勝木田 10軒敷板より4、5尺〜1尺押上押上、壁戸障子破損。 小友 潮除土手大破。田畑に被害。 6、7軒敷板より4、5尺〜1尺押上押上、壁戸障子破損。 津波。川上は神崎前まで、陸上は八日町裏通、鉄砲町は道路皆押上。追々引く事十五、六度、日暮に治る。 八、九度目が大波。 大船渡、赤崎 大痛。	古新書鑑 岩手懸沿岸大海嘯取調書 留書
大船渡			
手			
三陸			
久慈	侍兵 土蔵の壁少々落。		御会所御敷地替額 岩手懸沿岸大海嘯取調書 留書 岩手懸沿岸大海嘯取調書 岩手懸沿岸大海嘯取調書 岩手懸沿岸大海嘯取調書 大図日記
種市			
田老			
江刺	23日 大地震。この日より度々うごく。		
唐桑			
気仙沼市	津波。少々位之事。沿海の田二町歩余流亡。気仙沼市より大島二渡ラントセシ女三人死亡。12h頃津波。他1死亡。女1死亡。他1死亡。15h頃10分以上の地震続き、津波。夜まで15回。潮浪徐々ニ来リ唯々家屋二浸水。		先祖代々記 先祖代々記
宮			
城			
志津川			先祖代々記

野田	23日11h ~ 暫時の内地震。		内史略 岩手懸沿岸大海嘯取調書 内史略
宮古			安政三辰年七月廿三日地震二而大汐押上ケ吉里々々々浦破損并諸浦破損留書 安政三年津波聞書
岩			雑書索引 近勳文書
釜石			中村文書 安政三辰年七月廿三日地震二而大汐押上ケ吉里々々々浦破損并諸浦破損留書 永出水壽坊徳歡手記
手	23日12h 初め地ゆっくりと相ゆり、中頃人々うごかされほどになり、甚時半ゆり		岩手懸沿岸大海嘯取調書
藤沢	23日12h 地震。去年七月三日の地震より軽。 7月26日08h 地震。		皆川家日記
盛岡	23日12h 地震。八月初旬まで昼夜幾度も震。九月中旬まで昼夜面3度つつ。 居宅破1、小家潰1、田の破状況、土蔵破損・壁崩落。 7月26日08h 地震。 23日13h 地震、所々の土蔵さけ。 25日朝大震。 28日夜、04h大震。その間日々7、8度震、小震は7月15、16日より9月10日まで。		内史略 雑書索引 近勳文書

宮城	北上 雄勝	十三浜 地震三回。 23日12h 地震。大地震と言うほどでもない。	津波。勢弱クシテ浸水スルニ至ラス。大指。津波後居ヲ山際ニ移セリ。頃津波。寛政5年津波より一尺位高い。	宮城県海嘯誌 先祖代々記
城	迫 佐沼 大郷 花山 若柳 中新田 築館 *大島(須 仙沼) 歌津	7月3日朝大地震。廿九日迄五、六度位づつ揺る。 23日 大地震。その後毎日震い、八月になって止んだ。 23日 ~8月1日 地震1日3、5度。 23日 ~8月1日 連続地震。 23日 地震。のち日々震す。八月一日にいたり止む。 23日 より大ざしんあり、まへばん十七続。物々大いたミ。 23日 地震。 23日 地震。29日まで日々夜々一昼夜二七、八度位地震。	一 塙前ニア破奇溺死三人。円ノ丞妻とその妹溺死。大水十左工門殿溺死。三軒に五、六の潮神上、田畑冠水。 一 定留	年々出来事記 佐沼郷土史年表 大郷町史 花山村史 若柳町史 登米郡新田町史 築館町史 外畑家文書
秋田	鹿角 花輪 湯沢	23日12h 地震。御官所御用物入御蔵・御年貢米御蔵・御田町御蔵・御買米御蔵 所々壁突落大破。町土蔵研々大破。 23日 地震。御米蔵壁の被害大。御蔵役所少し曲がり壁所々、雨庇破損。 24日 昼夜七日大地震。		内史略 内史略 湯沢郷土史資料
山形	余目 鶴岡	23日 地震。 25、26、27、28日、8月1日まで少し地震度々限なし。 23日12h 少過地震、至て長し。21日22日もあり。 26日08h、27日06h、08h、13h、28日04h、22h、8月1日04h 地震。		余目町史資料 編年私記
福島	相馬	23日10h 地震。 12h 地震強し度々。		吉田屋賞日記
栃木	南河内 今市 黒羽	23日 屋頂地震。 26日08h or 20h 地震。 23日 屋 地震。 23日12h 前後余程の地震。		日記帳 二宮金次郎日記 益子家文書
新潟	柏崎 分水	23日12h 地震。 23日12h 地震。		町会所御用留 竹山亭日記
江戸		23日 屋過地震、柔けれど間長し。 23日12h 余程の地震。 13h 余程の地震。 23日11h 25日08h、27日08h、28日04h、10h も地震。 過地震少。 26日08h 地震少。 23日12h 地震。 26日08h、27日08h、28日06h、22h も地震。 26日07h 地震。 27日05h 地震。夕刻度々地震。 23日14h 余程の地震。		斉藤月岑日記 御日記(江戸) 榊原著日記 汲深齋晴陰記 今中相愛日記 柏村日記
その他	銚子 秩父 甲府	23日12h 地震。 23日14h 地震。 23日12h 地震。		女蕃日記 三誓神社日繼 坂田家御用日記

年表参考文献

1. 増訂大日本地震史料
2. 新収日本地震史料
3. 当館収集文献

## 1. 増訂大日本地震史料収録文献一覧

會津舊事雜考  
青森市史  
維新前北海道災年表  
一茶七番日記  
岩手縣沿岸大海嘯取調書  
岩手縣誌資料  
羽陰史略  
浦河郡役所報告  
永祿日記  
蝦名日記  
延寶日記  
奥羽觀蹟聞老志補修篇  
奥羽西部ノ地震帯  
逢田村記録  
大館旧記  
大槌海嘯略史  
大槌記録抄  
大槌旧記  
大槌旧事梅莊録  
大宮神社古記録抄  
御徒方萬年記  
小山内氏史料  
小山内某手記  
御仮殿御審所日記  
温故年表  
開成丸航海日誌  
花印  
柿崎日記  
角館火災地震年譜  
葛西日記  
刈田郡誌  
龜田郡上磯村戸長役場報告  
龜田郡綴法華村戸長役場報告  
龜田郡役所報告  
茅部郡白尻村戸長役場報告  
寒暖晴雨升降記  
甘露叢  
聞のまにまに續篇  
義山公治家記録  
堯怨法親王記  
玉露叢  
釧路郡役所報告  
工藤家記  
熊谷家年代記  
慶延略記  
慶弘紀聞  
月堂見聞集  
巖有院殿御實紀  
肯山公治家記録  
肯山公綱村治家記録及目録  
荒氏記録  
江城年録  
校正王代一覽  
綱要石城郡町村史  
国史館日録  
国泰寺日鑑  
コックス日記  
古廟山主翁記録  
御審所日記  
斉藤月岑日記  
佐藤家記  
佐渡年代記  
三代夷録  
三陸沿岸海嘯史  
三陸海嘯史年表

三陸地方津浪實況報告  
寺實矩格  
自然未聞記  
時風録  
十三朝紀聞（慶弘紀聞）  
承寛棟録  
貞享日記  
常憲院實紀  
正保録  
續日本後紀  
春水日記  
神明鏡  
新宮雜葉記  
新撰和漢合圖  
菅江真澄遊覽記  
駿府記（駿府政治録）  
盛藩年表  
青樓年曆考  
先祖代々記（山下一郎家文書）  
仙台市史  
續史愚抄  
俗事日記  
續日本王代一覽  
續日本王代一覽後記  
續本朝通鑑  
泰平年表  
大猷院殿御實紀  
高橋氏記録  
伊達政宗記録事蹟考記  
伊達貞山治家記録  
伊達便覽志  
田辺町大帳  
朝野舊聞叢書  
津輕震災史料  
津輕年表  
津輕藩日記  
殿中日記  
天保雜記  
天保年中巳荒子孫傳  
天保四年辛巳凶歲  
動転愁記  
東藩史稿  
東藩日記  
東武編年要録  
東北地方古今凶饑誌  
篤焉家訓

利剛公御在府御留守留  
内史畧  
南部沢内年代記  
南部史要  
南部二戸郡淺澤郷土史料  
新渡辺傳一生記  
日本後紀  
日本地震史料年表  
糠部五郡小史  
根室一等測候所報告  
函館一等測候所報告  
八丈島及青ヶ島地災記録  
八戸藩史稿  
八戸藩史料  
ビスカイノ金銀島探検報告  
平山日記  
弘前市史  
封内事實秘苑  
武江年表  
譜牒餘録  
船越小學校調査  
某舊記  
某日記  
宝曆年中八戸御領大地震  
井洪水略記  
北游乘  
北海道史  
本朝天文誌  
本藩歷年龜鑑圖  
松前家譜  
萬天日録  
萬年記  
南閉伊郡海嘯記事  
宮城縣昭和震嘯誌  
宮城縣昭和震嘯誌  
宮古由来記  
宮地日記  
武藤六右衛門所蔵記録  
武藤六右衛門所蔵古文書  
村井舊記  
文恭院殿御實紀  
聞老遺事  
野史  
山鹿素行日記  
山越郡八雲村戸長役場報告  
有徳院殿御實紀  
祐清私記  
擁書樓日記  
慶喜公實記  
萬覽書  
陸前地方ノ強震ニ就テ  
靈憲候簿  
老翁聞書

## 2. 新収日本地震史料収録文献一覧

( )内は文献を収録している図書

会津若松史  
会津若松年表  
青森市沿革史  
赤城神社年代記 (宮城村誌)  
秋山家日記帳  
鯨ヶ沢町史  
鯨ヶ沢町史年表  
温海町史年表  
油川沿革誌  
阿部隆家文書 (釜石市誌)  
鮎瀬家日記  
新井白石日記 (大日本古記録)

安政三辰年七月廿三日地震にて  
汐押上ヶ吉里吉里浦破損並ニ諸浦  
破損留書  
安政三辰年七月松前辺大地震并八月  
大風雨附録  
井伊家文書 (大日本維新史料)  
石井忠運日記 (新秋田叢書)  
石川日記 (登米郡史)  
石越村史  
石巻市史 二  
一川日郷土誌 (百石町郷土誌)  
市田家日記

伊頭園茶話 (新秋田叢書)  
伊藤家大難録 (青森市史)  
伊藤家日記抜書 (津市史)  
伊東家文書 (青森市史)  
稲井町史  
稲生家日記  
稲葉氏永代日記  
稲葉家日記  
稲束家日記 (池田市史)  
井原日記  
今中相愛日記  
岩城御領内大風雨大波洪水之節覚書  
磐田郡誌  
岩手県史  
岩手縣津浪史  
因託寺相統年歴等之記 (七塚町史)  
上杉家御年譜  
上田村郷土誌  
内瀧村誌  
永出永壽坊徳歎手記 (釜石市誌)  
永徳寺古文書 (地震災害年代表)  
永書  
永代記録帳  
永宝日記 (みちのく双書)  
永祿日記 (みちのく双書)  
江木鱒水日記  
江沢家日記  
越後年代記 (北蒲原郡史)  
越後野誌上、下  
江戸状案詞  
江戸日記  
江戸幕府日記 (西丸)  
蝦名日記 (弘前市史材料)  
宴遊日記  
大洗地方史  
王代記 (戦国史料叢書)  
奥南温古集  
奥南温故録  
奥南見聞録  
鸚鵡籠中記 (名古屋叢書続編)  
奥游日記 (日本庶民生活史料集)  
大石組「年代覚書」(昭和村の歴史)  
大泉百談  
大内家日記 (宮城町誌)  
大内村郷土誌  
大島家日記  
太田伸寿家文書 (秋保町史)  
大館旧記 (大館叢書)  
大槌支配録  
大槌諸記録集  
大槌古今代伝記  
大槌町史  
大殿様御用人所日記  
大控  
雄勝町史  
小栗上野介日記 (群馬県史料集)  
小崎家日記  
小山内日記 (弘前市史材料)  
長万部村平沢豊作日記  
乍恐御訴奉申上候事  
女川町誌  
小名浜変災記 (福島県史)  
小野田孝徴日記  
覚書  
表日記  
御三代御書上 (階上村誌)  
御留方日記  
御日記  
御入国以後大地震考  
御年表並月表  
花印  
柿崎日記 (青森市沿革史)

書留帳抜粋  
角館火災地震年譜  
角館誌  
柏村日記  
柏川村誌  
家政実紀 (会津藩家政実紀)  
片倉代々記 (白石市史)  
香取郡誌 (千葉県気象災害史)  
家内年表  
金川日記 (郷土よこはま)  
金沢三右衛門日記 (金沢丹後文書)  
河南町誌  
金ヶ崎町町史 (地震災害年代表)  
河北町誌  
釜石市誌  
鎌田武左衛門ノ歳款記要 (志田郡沿革史)  
上郷郷土史  
上山半右衛門日記 (上山市史編集史料)  
龜崎在番御用留  
唐桑町史  
川崎町郷土史年表  
勘定所日記  
寛政拾年以降覚書 (稲川町史)  
寛政文政間盛藩重要事項  
寛文以降万覚書 (只見町郷土史資料集)  
象瀧町史  
北河継日記  
北家御日記  
北家御日記 (角館史料)  
北家日記 (角館誌)  
君津郡誌 (千葉県地震対策基礎調査報告書)  
木村家日記  
汲深斎晴陰記  
郷土史年表  
凶年表 (大原町誌)  
近勘文書 (九戸地方史)  
近世観聞録  
近世日誌 (迫町史資料集)  
近代家譜録 (西川町史)  
九戸地方史  
栗生庄子林右衛門氏筆記 (宮城郡誌)  
黒田家に伝わる玉台帳 (皆沢部落史)  
慶天拜書 (内藤侯藩史料)  
警備日誌  
気仙沼町誌  
元徳公済美録  
懐堂日曆  
元和元年ヨリ歳之吉凶留帳 (迫町史資料集)  
玄蕃先代集  
玄蕃日記  
顕妙公済美録  
見聞隨筆  
光陰自他録 (西川町史)  
公私日記  
國泰寺日鑑記  
小牛田町史  
御在府日記  
古実伝書記  
小島日記  
御自分日記  
古城記 (牡鹿郡誌)  
滑津桜井家文書・滑津「御用留」  
安藤家文書 (七ヶ宿町史)  
御用御触状類  
御用格  
御用諸書物留白糠町史御用留  
御用日記 (日光社家御番所日記)  
御用人(所)雑書  
御用人日記  
曆 (花巻市史)  
金浦町郷土史年表

在国日記  
歳々風雨物直咄集 (長井市史)  
酒井家編年史料稿本  
榊原藩日記  
坂田家御用日記  
酒田港誌  
佐竹南家御日記  
撮要佐渡年代記 (佐渡叢書)  
雑事日記 (陽明文庫)  
雑書  
雑書索引  
佐藤甚四郎記録 (湯沢郷土史資料)  
佐渡災異誌  
佐沼郷土史年表  
四井屋久兵衛覚之事 (西宮市史)  
塩釜市史  
塩釜町方留書 (日本都市生活史料集成)  
塩原温泉誌  
塩原風土記  
獅山公治家記録 (仙台市史)  
雫石歳代日記 (雫石町誌史料)  
私説勝浦史  
志田郡沿革史  
信濃・越後地震書留  
波江和光日記  
島川鎌満自筆見聞録  
島役所日記 [新島]  
島役所日記 [三宅島]  
下永良陣屋日記  
出火洪水大風地震  
庄田日記  
荘内史年表  
葛蒲氏年代記 (余目町史年表)  
正法寺文書 (水沢市史)  
紫波町凶災年代記 (地震災害年代表)  
新御殿御用人所日記  
新統跡覽  
地震記  
時事見聞録 (大原町誌)  
耳目凶歳録 (新編青森県叢書)  
水書雑記 [利剛公御在府御留守留]  
鈴木兵九郎公私日記  
静寛院宮御側日記  
青窓紀聞  
関文書 (大郷町誌)  
瀬峰町史  
相馬家文書 (南外村誌)  
続岩沼物語  
袖日記  
泰款雑秘抄  
大郷町史  
大地震風雨洪水水飢饉或病難等記録  
大日本史 (秋田県史)  
泰平年表  
大宝恵 (函館市史)  
高清水町史  
高杉晋作日記 (高杉晋作全集)  
高橋儀助年代記 (川俣町資料)  
瀧沢八郎兵衛日記  
竹山亨日記  
多志南美草 (みちのく叢書)  
伊達治家記録  
伊達家文書 江戸書状  
谷合氏見聞録  
谷柏村御用留帳  
垂石家日記  
探史月表 (米沢市史)  
淡輪四郎兵衛記録  
千葉県野田地方庶民災害年表  
忠籌公当御代泉藩家譜  
銚子郷土史年表 (千葉県地震対策基礎調査報告書)

鳥府叢秘録 (鳥取県史)  
著聞集雜記  
津軽家紀・江都見聞記  
津軽家紀・弘前御城日譜  
津軽史 (みちのく叢書)  
津軽俗説後々拾遺 (新編青森県叢書)  
築館町史  
都田村年代手鑑  
津波と防災  
天気萬日記  
天保以後年代記 (宮城町誌)  
天保飢饉の際の気仙沼記録 (新月村誌)  
天保飢年自家記録 (河南町誌)  
天保耕歳鑑 (地震第一輯)  
天保日記抜書 (塩釜市史)  
天明凶歳録 (新編青森県叢書)  
東護院様御日記  
東照宮修葺年録 (日光社家御番所日記)  
遠田郡誌  
東藩史稿  
当用記 (岩槻市史料)  
遠山家日記  
利剛公御在府御留守留  
栃木県温泉誌  
宿直所日記 (日光社家御番所日記)  
登米郡史  
登米町史編纂史料集  
西戌亥春秋日録 (西川町史)  
内史略 (岩手県史叢)  
中井源左衛門光熙旅日記 (日本庶民生活史料集)  
長沢村災異記  
中島市郎兵衛日記  
中津山村誌  
名取御湯碑 (秋保町史)  
中新田町史  
中野友水自家記録 (湧谷町史)  
中村藩新妻陰常手記  
名主日記 (御殿場市史史料叢書)  
成田村横田家稲苅覚帳 (山形県史料資料篇)  
南部沢内年代記  
南部二戸郡浅沢郷土史料 (日本常民生活資料叢書)  
新穂村史  
西川晩翠先生手録日記  
錦織村史  
西谷日記  
西野伊藤氏記録 (余目町史資料)  
日記 (秋田)  
日記 (宇和島)  
日記 (益子家) 日記  
日記帳  
日記附控帳  
日光社家御番所日記  
二宮金次郎日記 (二宮尊徳全集)  
日本震災凶飢放  
年吉凶帳 (中仙町郷土史資料)  
年中日記  
年々出来事記 (迫町史資料)  
農業耕作帳  
野上陳令日記  
信寧公御代日記  
信牧公御代日記  
野辺地町郷土史資料 (岩手県史)  
梅荘見聞録  
幕府書物方日記  
函館区史  
八拾年余之間出羽国上山城日記 (上山市史編集史料)  
八丈実記  
八丈島小島青ヶ島年代記 (日本庶民生活史料集)

八戸藩日記  
八戸藩勘定所日記  
花巻城代日記  
花山村史  
藩祖成蹟 (多賀城町誌)  
東浦賀千鶴問屋史料・橋本家 (湯浅屋) 日記  
東置賜郡史  
東田川郡郷土教育資料  
引佐郡誌  
日次記  
日々晴 記  
平山日記 (みちのく叢書)  
備忘録静軒君日記  
福島県災害誌  
福島県史  
武江年表  
藤里村誌  
藤沢町黄海岸村史 (地震災害年代表)  
藤澤町及川肝入日記 (九戸地方史)  
藤林年表 (鶴城叢書)  
藤原家記 (本宮地方史)  
古川市史  
文化四年御山御用留  
編年私記  
豊凶年表 (大原町誌)  
封内事実秘苑  
北游乘  
保坂家日記  
星東右衛門家曆面裡書 (新田町史)  
星彦右家曆面裡書 (新田町史)  
北海晴雨考  
掘敦斎日記  
謀氏日記 (尾花沢市史の研究)  
毎日記  
米谷郷土史年表  
前沢町白山佐藤家古記録 (地震災害年表)  
前田家日記  
牧野家御家譜  
升屋平右衛門山台南向日記 (日本都市生活史料集)  
活史料集)  
栲崎市史資料近世篇)  
町会所御用留  
松平藩史料  
松平慶永書簡  
松鶴日記  
松前蝦夷記 (松前町史)  
松前家記 (松前町史)  
松山町史年表  
松山領左沢代官所文書 (大江町史)  
間部日記  
三浦家家乘  
三浦益徳日記  
三重年表 (鶴城叢書)  
水野家日記  
三峯神社  
三戸紀年 (茨城県史料)  
皆川家日記  
宮城県史  
宮城県通史  
明光寺過去帳 (東湯沢郷史)  
村垣淡路守範正公務日記 (大日本古文書・幕末外国関係文書附録)  
村田正兵衛覚書 (登米郡史)  
明治四十五年米沢重要年表  
明治百年記念野上町郷土史年表  
本吉郡誌  
桃生村史  
文書  
役用向日記  
矢島の古文書散歩

耶麻郡誌  
山下先祖代々記 (雄勝町史)  
矢本町史  
要記秘鑑  
横越島旧事記 (新津中蒲原郡郷土資料集)  
吉田家日記  
吉田日記  
吉田屋覚日記  
米沢雑事記  
米沢里人談  
米沢大年表  
万覚書  
万覚書写  
万覚帳 (矢祭町史研究)  
万雄控  
万日記・三戸給人日記  
萬日記  
万歳中日帳  
(遠山家) 領主日記  
曆史  
曆面裡書 (宮城町誌)  
六代治家記録徹山公 (仙台市史)  
六代治家記録龍山公 (仙台市史)  
若柳町史  
涌谷町史  
渡辺家日記  
和田家諸用記録

3. 当館収集文献一覧

記録名/文献名	記者/編・著者	成立年/刊行年	原本所蔵先/刊行先	その他・収録文献名(編著者・発行年・発行所など)
青森県の地震津波	青森地方気象台	昭和35	青森地方気象台	
赤崎村史料	岩崎浅之助	大正8	赤崎村	現岩手県大船渡市
安政三年津波聞書				豊間根家安部隆家文書/九戸地方史下巻・森嘉兵衛・昭60
石垣家磨面裡書				仙台年表・矢島玄亮・昭60
石巻市史 第二巻	石巻市史編纂委員会	昭和31	石巻市	宮城県
岩手県郷土史年表	田中喜多美編	昭和47	万葉堂書店	
岩手県漁業史年表				岩手県漁業史・岩手県・昭59
岩手県災異年表	中央気象台盛岡支台	昭和13	岩手郡浅岸村	
岩手県災異年表	盛岡測候所	昭和29	日本積雪連合岩手県本部	
岩手県災異年表	盛岡地方気象台	昭和54	盛岡地方気象台・岩手県	
岩手県災害関係行政資料I・II	災害関係資料等整備調査委員会	昭和59	岩手県	
岩手県史 第4・5・8・10・12巻	岩手県	昭和38~41		
岩手縣昭和震災誌	岩手県知事官房	昭和8	岩手県	岩手教育11巻6・7・9号収録
岩手県津浪史	森嘉兵衛	昭和8		岩手県史第4巻近世編・岩手県・昭和38
岩手県南災害表				
構住居小史資料編	釜石市誌編纂委員会	昭和41	釜石市誌編纂委員会	藤沢町及川肝入文書 /九戸地方史下巻・森嘉兵衛・昭60
及川肝入日記				現宮城県気仙沼市
大島誌	大島郷土誌刊行委員会	昭和57		
大図日記			多田スエ所蔵	江刺市多田家文書/江刺市史第5巻 岩手県江刺市・昭51
大槌官職記				道又家文書/大槌町漁業史・大槌町漁業共同組合・昭55
大槌古今伝記	小川孫兵衛	寛政9 成立	県立図書館蔵	九戸地方史下巻・森嘉兵衛・昭60 岩手県大槌町
大槌古城物語		明治初期	小槌神社蔵	岩手県大槌町
大槌古館由来記	伝小川孫兵衛著の写本		越田義一所蔵	大槌町漁業史・大槌町漁業共同組合・昭55 岩手県大槌町
大槌古館城内記			飛田実所蔵	大槌町漁業史・大槌町漁業共同組合・昭55 岩手県大槌町
大槌支配録 上・中・下	関谷嘉兵衛編	弘化3年自序	県立図書館蔵	大槌町漁業史・大槌町漁業共同組合・昭55 岩手県大槌町
大槌代官支配録			県立図書館蔵	岩手県大槌町
大槌地方年表	沢館栄吉・黒沢千穂子	昭和60	岩手県大槌町	九戸地方史下巻・森嘉兵衛・昭60 岩手県大槌町

大槌町漁業史	大槌町漁業史編纂委員会	昭和55	大槌町漁業協同組合	岩手県大槌町
大槌町史 上・下	大槌町史編纂委員会	昭和41・60	大槌町	
小友村史	山田三義	大正13	小友村	現岩手県陸前高田市
小本家日記録		寛政10 書写		小笠原家文書/宮古市史 資料集(近世一)・昭和59
海蔵寺縁起				山田町郷土史料集第二集・山田町教育委員会・昭和52
嘉永明治年間録	吉野真保			日本災異志
書留寛書				二戸町史・岩手県
鹿又斎藤家文書				石巻市史第2巻・石巻市史編纂委員会・昭31
釜石市誌 史料編一・二・三・四・年表・通史	釜石市誌編纂委員会	昭和35・36・37・38・40・52	釜石市役所	
上閉伊郡誌	岩手県教育会上閉伊郡部会	大正2		
義山公年譜	内藤就篤			仙台叢書 二・仙台叢書刊行会・大正11~15
北太平洋に於ける近世海難史料	田村忠博編	昭和61	宮古地方史研究会	
救荒新策	田中芳男			加美郡誌・加美郡教育会・大14・宮城県
凶荒誌				杜鹿郡誌・杜鹿郡役所・大12・宮城県
近働文書				九戸地方史下巻・森嘉兵衛・九戸地方史刊行会・昭60
倉決村肝入義右衛門留牒			及川量進所蔵	江刺市史・第5巻 岩手県江刺市
気仙郡海嶺誌	岩手県立盛豊学校	昭和8		
気仙郡郷土史年表	米谷定一			東海新報収載/掲載時期不明 写博物館蔵
気仙境目並浜方巡検記				大船渡市史第3巻I・昭和54
気仙沼記録				本吉郡誌・本吉郡誌編纂委員会・昭和24
気仙沼市史	気仙沼市史編纂室	昭和61	気仙沼市	
気仙沼町誌	気仙沼町	昭和28	気仙沼町	現気仙沼市
気仙沼本郷記				気仙沼の旧事記・小山利右衛門・昭58
気仙年代表	岩崎浅之助	昭和47	陸前高田市郷土史研究会	昭和13年8月の復刻版
元亀以来岩手県沿岸漁民溺死集	山奈宗真	明治30		釜石市誌史料編第4巻・昭和38
元和元年ヨリ歳之吉凶留帳				元和元~文政5 宮城県追町
見聞帳				気仙沼かわら版・西田耕三・昭和58
青山公治家記録目録				宮城県海嶺誌・宮城県・明治29
御会所御敷地替願写			新沼通所蔵	大船渡市
古楽伝書記	伊香弥七	安政4	岩手県立図書館所蔵	伊香文書・岩手県宮古市



古新手段	吉田豊助(東岬)					吉田雅英所蔵	岩手県陸前高田市
御用留帳						小嶋神社所蔵	岩手県大槌町
曆						歡喜寺所蔵	花巻市史資料編一・昭和50
曆						八重樫仁孝所蔵	花巻市史資料編一・昭和50
古米問書覚之書						湊シモ家所蔵	岩手県、山田町郷土史資料集第2集・山田町教委・昭和52
古米之覚書事(日記書留帳、盛合日記)				元禄12~14		盛合光蔵家文書	宮古市史資料集(近世一)・昭和59
定帳							
雑書(南部藩雑書)						盛岡市中央公民館所蔵	岩手県
佐藤家系譜							宮城県史8土木編
佐藤家所蔵記録							岩手県前沢町郷土史資料・阿曾沼磨・昭和47
佐藤留書						佐藤光作所蔵	岩手県、山田町郷土史資料集第3集・山田町教委・昭和54
三陸沿岸津波梳本	仙台管区気象台			昭和39		気象協会東北本部	
三陸大震災史	三陸大震災史刊行会			昭和8			
三陸地方防潮林造成調査報告	農林省山林局			昭和9			
三陸津波及陸羽地震二関スル報告	岩手県教育会下閉伊郡部会			明治29			震災予防調査会報告 第11号
下閉伊郡志				大正11			
時事見聞録							大原町誌上巻・岩手県東磐井郡大原町役場・昭和6
地震二而大汐上ヶ梅辺筋及難儀候留書							大槌町漁業史
重訂宮城県郷土史年表	菊池勝之助			昭和47			
循海日誌	斉藤竹堂			弘化頃?			
十三朝紀聞(慶弘紀聞)	安田照矩			文久元			大船渡市史第3巻資料編I・市史編集委員会・昭和54
昭和35年5月24日チリ一地震津波調査概報	礼殿管区気象台			昭和35			宮城県海嘯誌、宮城県・明治36
昭和35年5月24日チリ地震津波調査報告	仙台管区気象台			昭和35			
諸事手控帳							二戸町史
諸上納留帳						瀬川忠祐所蔵	岩手県、山田町郷土史資料集第3集・山田町教委・昭和54
資料日本被害地震総覧	宇佐美龍夫			昭和50		東京大学出版会	
神皇年代記							登米郡誌・登米郡役所・大正12
新編日本被害地震総覧	宇佐美龍夫			昭和63		東京大学出版会	
震災災害土木誌	岩手県土木課			昭和11			
瑞雲院殿御日記	田村宗良					田村家文書秘文庫	一関市史第6巻資料編・市史編集委員会・昭和51
諏訪神社簡務記							仙台年表・矢島玄亮・昭和60

世間風聞書乃事	検断久助			天保6		小島家文書	気仙町今泉(現岩手県陸前高田市)
善悪和歌集用記	検断久助			文政9		小島家文書	気仙町今泉(現岩手県陸前高田市)
仙台志料	岡千因			明治30			登米郡誌・登米郡役所・大正12/仙台年表
仙台武鑑	佐藤信直			天明2序			仙台叢書・仙台叢書刊行会・大正11~15/仙台年表
先代より神社仏格奇附及び当代迄相統御賞書物等写帳				明治頃		水野家文書	岩手県大船渡市
外畑文書						水産庁資料館蔵	大島誌・大島郷土誌刊行委員会・昭和57/宮城県気仙沼市
大嶽山興福寺代々往寺覚書							登米郡誌・登米郡役所・大正12
大地震大汐入控(永出水壽坊徳観日記)							釜石市誌
台徳院殿御日記							古地震・萩原尊禮ほか・昭和57
大日本寺院総覧	堀由蔵			大正5			仙台年表・矢島玄亮・昭和60
泰平年表	大野廣城			天保2			
伊達政宗御伝記史料				昭和3		藩祖伊達政宗公顕彰会	仙台年表・矢島玄亮・昭和60
伊達政宗記録事蹟考記							九戸地方史下・森嘉兵衛・昭和45
玉造郡魂首村高橋卯平氏所蔵日記							遠田郡誌・遠田郡教育会・大正15
千田家文書	千田仁兵衛			安政3		千田基久兵衛所蔵	岩手県三陸町線里
チリ地震津波速報	気象庁			昭和35			
チリ地震津波調査報告	仙台管区気象台			昭和36			
津波概報異常気象報告6002	青森地方気象台八戸測候所			昭和36			
津波と防災	田老町役場総務課			昭和46			
天保七丙申年風唱記	検断久助			天保7		小島家文書	気仙町今泉(現岩手県陸前高田市)
天保凶歳記							加美郡誌 宮城県旧高倉村・現三木木町の旧記
天明凶年記集							牡鹿郡誌・牡鹿郡役所・大正12
東藩史稿	作並清亮編			大正4			
東北地方凶作に関する史的調査							宮城県気象災異年表・仙台管区気象台・昭和38
東北地方とその近海における地震活動	仙台管区気象台			昭和58		気象庁	気象庁技術報告第104号
東北地方に襲来した外国地震津波	仙台管区気象台			昭和54		仙台管区気象台	東北技術だより第100号
東北地方の気候	遠田郡教育会			昭和26			宮城県気象災異年表・仙台管区気象台・昭和38
遠田郡誌				大正15			宮城県気象災異年表・仙台管区気象台・昭和38
遠田郡南郷村高橋氏曆面覚書							宮城県気象災異年表・仙台管区気象台・昭和38
登米郡誌	登米郡誌役所			大正12			
豊間根家年中行事(豊間根系譜、豊間根家記録)						豊間根阿部隆家文書	宮古市、九戸地方史下・森嘉兵衛・昭和45

内史略	横川良助				岩手県立図書館蔵	岩手史叢
中村文書	徳島屋定右衛門	安政 3				九戸地方史下・森嘉兵衛・昭和45 定右衛門の書簡
南部沢内年代記	大田祖電	昭和 4 2		沢内村教育委員会		岩手県西和賀の「沢内年代記」のうち集郷本を底本とする
南部史要	菊池梧郎	明治 4 4				
日本気象資料						岩手県震災年表・盛岡測候所・昭和29 岩手県震災年表・盛岡測候所・昭和29
日本近世飢饉史						
日本災異志	小嶋島集編	昭和42		地人書館		
日本地震史料 [年表]	武者金吾	昭和26		毎日新聞		
日本被害津波総覧	渡辺傳夫	昭和 6 0		東京出版会		
日本付近の地域別海域別の被害地震津波の表及び震度の分布図	気象庁	昭和 5 8				
年代風習物語	検断久助	天明年中		小島家文書		現陸前高田市気仙町今泉
年々出来事記						追町史資料集 1・昭和53、宮城県
梅莊見聞録	菊池五六 (児島梅莊)	文久 3		岩手県立図書館所蔵		現岩手県大槌町
花巻古事記						花巻市史資料編一・花巻市教育委員会・昭和50
花巻年契		寛永元~天明 3		岩手県立図書館所蔵		花巻市史資料編一・花巻市教育委員会・昭和50
早池瀧神社棟札						岩手県史・岩手県
藩日誌						岩手県郷土史年表・田中善多美・昭和47
廣瀬村愛子普井甚兵衛氏所蔵曆						宮城県気象災異年表・仙台管区気象台・昭和38
広田漁業史	広田漁業史編集委員会	昭和 5 1		広田漁業協同組合		現岩手県陸前高田市広田町
広田村郷土教育資料	広田尋常高等小学校ほか	昭和 7				復刻昭和56 現岩手県陸前高田市広田町
増訂武江年表 1. 2	齊藤月岑	嘉永 2 ~ 3				東洋文庫 116、118
防災の町 田老町誌第1集	田老町誌編集委員会	昭和46		田老町教育委員会		
封内風土記	田辺希文	明和 9				仙台年表・矢島玄亮・昭和60
北郡紀行						登米郡誌
本朝地震記	豊 時成	文禄 1 3				
末崎村誌	岩崎浅之助	昭和 2		末崎村		現岩手県大船渡市末崎町
源貞氏耳袋						仙台年表・矢島玄亮・昭和60
宮城郡誌	宮城郡教育会	昭和 3				復刻 名著出版、昭和47
宮城県海嘯誌	宮城県	明治 3 6				
宮城県気象災異年表	仙台管区気象台	昭和 3 8				
宮城県史 2 2	宮城県史編纂委員会	昭和 3 7		宮城県史刊行会		災害・災害史・災害金石志・疫病志

宮城県昭和震禍誌	宮城県	昭和 1 0				
宮古のあゆみ	宮古郷土誌編集委員会	昭和 4 7		宮古市役所		
宮古風土記	三浦宗喜			岩手県立図書館所蔵		
本吉郡誌	本吉郡誌編纂委員会	昭和 2 4		本吉郡町村会		
盛合文書						九戸地方史下・森嘉兵衛・昭和45 岩手県宮古市津整石
山田町津波誌	山田町津波誌編纂委員会	昭和 5 7		山田町教育委員会		岩手県山田町
雄保記録						本吉郡誌
世乃中吉凶之事	検断久助	文化 1 0		小島家文書		現陸前高田市気仙町今泉
阿石浦大悪汐之事				野田又四郎家文書		釜石市誌
綾里村誌	三上陽三	大正12年		綾里尋常高等小学校		復刻 昭和 4 8、現岩手県三陸町綾里
歴代年譜考				達古袋八幡神社所蔵		一関市史・
若柳年代表						宮城県気象災異年表・仙台管区気象台・昭和58

## 付. 三陸地方地震・津波関係図書及び資料

(明治29年三陸地震津波・昭和8年三陸地震津波・昭和35年チリ地震津波を中心に)

1. 1985年までに出版された図書及び資料で、地域の図書館等で閲覧・入手可能なものを収録した。

2. 次の図書目録を参考とした。

- 1) 三陸津波関係図書展 岩手県立図書館 S. 58. 3
- 2) 岩手県立図書館郷土資料目録(和本の部) 岩手県立図書館 S. 56. 10
- 3) 防災専門図書館蔵地震関係図書目録 防災専門図書館 S. 53. 8
- 4) 防災専門図書館蔵災害一般関係図書目録 防災専門図書館 S. 59. 3
- 5) 参考図書 日本科学技術振興財団 科学技術館  
S. 51. 3 『日本の科学と技術』75/地球 Vol.16 No.172
- 6) 参考図書 日本科学技術振興財団 科学技術館  
S. 52. 『日本の科学と技術』76/地震 Vol.17 No.181
- 7) 三陸津波関係の文献と研究系譜 菊池万雄 『日本の歴史災害』-明治編-  
S. 61. 7
- 8) 岩手県永年保存文書目録第1集・第2集 岩手県 S. 59. 2

3. 図書の多様性を考慮して、めやすとして次の3つに大分類した。

- 1) 震災史・津波史 明治29年三陸地震津波・昭和8年三陸地震津波・昭和35年チリ地震津波  
の関係資料、震災史を含む地方史(誌)、災害年表
- 2) 防災 地震及び津波対策に関する図書
- 3) 一般 地震(学)・津波に関する一般図書

## 1. 震災史・津波史

### 明治29年三陸地震津波

三陸地方津浪実況取調報告	伊木常誠	1896	震災予防調査会報告第11号
三陸津浪地方踏査	〃	1897	東京地学協会報告Vol.18 No.4
明治廿九年六月十五日海嘯概況報告	宮古観測所	1896	
明治廿九年六月十五日海嘯記事	浅利和二郎	1896	岩手県山田町立図書館蔵
山田分署所轄海嘯被害明細図	〃	1896	〃
海嘯記念碑	内海安雄	1979	日曜隨筆24-11
三陸地方地震津浪ニ附キ地質学上ノ考説	巨智部忠承	1896	地学雜誌第8集第91卷附録
岩手県沿岸大海嘯取調書	山奈宗真	1896	国会図書館蔵
三陸大海嘯岩手県沿岸見聞誌一斑	〃	1896	〃
岩手県沿岸大海嘯取調絵図	〃	1896	〃
三陸大海嘯岩手県沿岸被害調査表	〃	1896	〃
水害雑抄明治廿九年の洪水と津波			岩手県誌資料第17類災害(4)
明治廿九年の大地震			〃(5)
広田村役場文書(のうち明治29年津波に関するもの)		1896	岩手県陸前高田市役所蔵
末崎村役場文書(のうち明治29年津波に関するもの)		1896~1897	岩手県大船渡市役所蔵
赤崎村役場文書(のうち明治29年津波に関するもの)		1896~1897	岩手県大船渡市役所蔵
大槌村役場文書(のうち明治29年津波に関するもの)		1896	岩手県大槌町、沢館栄吉氏所蔵
村会議事録	東閉伊郡織笠村役場	1897	岩手県山田町
明治廿九年気仙本吉大海嘯人畜死亡控		1896	気仙沼市立図書館蔵
救護始末報告書	飯野川警察山中雷之助		宮城県雄勝町
食料等救助願出書	桃生郡十五浜村村長		〃
岩手県陸中国南閉伊郡海嘯記事		1897	岩手県釜石市
山田の津波	山田の津波編集委員会	1973	岩手県山田町ユネスコ協会 東陽堂
宮城県海嘯誌	宮城県	1903	
明治二十九年宮城県下海嘯災害に於ける工兵軍艦人夫の操作について		1896	宮城県 1896
明治二十九年宮城県下海嘯災害調査及救済處分書	宮城県	1896	
日本赤十字社宮城支部海嘯救護記事	日本赤十字社宮城支部	1898	
海嘯の顛末			小川家文書 岩手県山田町立図書館 織笠郷土史料集 織笠郷土史研究会 岩手県山田町教育委員会に写 阿部直吉氏蔵 岩手県釜石市
三陸大海嘯記録	鈴木忠三郎	1928	
明治廿九年九月岩手県下海嘯被害地巡回記	相沢厩次		
大海嘯罹災民救助巡回記	相沢厩次		
津波覚書			湊家文書 岩手県山田町教委に写
三陸海嘯之田老	前川門蔵の「大水海」の書写		中嶋一造氏蔵 岩手県田老町
三陸海嘯記事	鈴木禎次		宮城県唐桑町
三陸大津波の幻灯版	小島一作	1979	「日曜隨筆」(24-11)
三陸大海嘯と宮城県(1)明治二十九年六月の被災	村上巖	1974	宮城県医師会報(341)
大海嘯記念碑			長源寺蔵(大船渡市末崎町) 津波死亡者名を記した掛け軸 麟祥寺(大船渡市末崎町) 明治29年津波死亡者の過去帳 洞雲寺(大船渡市盛町) 旧気仙郡(岩手県)津波死亡者を記入 大船渡市立赤崎小学校蔵
過去帳			
丙申大海嘯溺死者精霊等(大位牌)			
日誌	佐野尋常高等小学校	1896	
日誌	赤崎尋常高等小学校	1896	
御下賜金通知書	岩手県	1896	岩手県大船渡市 新沼通氏蔵 岩手県大船渡市 大西啓氏蔵
履歴書	大西平太郎		宮城県本吉町大谷公民館蔵
海嘯記念碑文原本	岩村章九郎	1897	岩手県宮古市 花坂蔵之助蔵
(明治29年三陸地震津波惨状写真)	末崎技師撮影	1896	
明治丙申三陸大海嘯之実況	小国政筆		錦絵
明治二十九年宮城若手青森県大海嘯画報	小国政筆		錦絵
新富町七月興行大海嘯	吟行筆		錦絵
三陸大津浪之実況			版画 大義堂発行
大船渡市末崎町泊里の浸水地域	大船渡市立博物館	1985	特別展展示パネル
赤崎村の犠牲者数	〃	1985	〃
大海嘯被害録上巻・中巻・下巻		1896	風俗画報臨時増刊号第118、119、120号 東京神田東陽堂支店
三陸大海嘯	博文館	1896	太陽第2巻第15号
海嘯義捐小説		1896	文藝倶楽部臨時増刊号第2巻第9編
法話の葉 海嘯惨話三陸海嘯	佛教頭場會	1896	
海嘯書類綴ほか(明治29年津波関係文書)	岩手県	1896	永年保存文書のうち明治29年の文書 岩手県総務部学事文書
水害者記録帳	島之越水害臨時取調事務所		岩手県田野畑村
部落別救助入夫日記帳	〃		〃
救助金の給与(授世話掛への手当金)	〃		〃
水害流出家屋死亡人数取調帳	島之越水害臨時取調事務所		岩手県田野畑村 熊谷家蔵
明治二十九年日誌	千田仁兵衛	1896	岩手県三陸町
越喜来浦浜海岸變動記	及川三治郎	1896	〃
海嘯ノ概略及び海嘯溺死者過去帳		1907	〃
気仙郡一町臺ヶ村海嘯被害左之通	吉田東岬		古新筆鑑抜粹 岩手県陸前高田市
岩手県海嘯地出張記事	佐々木豊嗣手記		釜石市誌唐丹小史
明治廿九年六月十五日海嘯罹取調表			岩手県釜石市立図書館蔵
釜石市誌史料編4	石応寺住職菊池智賢師手記、 萬朝報特派記者小林慶二郎手記 特派記者杉田藤太手記		

三陸大海嘯記念記録書	関口喜多路	岩泉地方史 下
三陸海嘯の被害高	内務省	1896 地学雑誌Vol.8 No.95
三陸津浪調査報告	今村明恒	1899 震災予防調査報告29
三陸津浪に就いて	〃	1899 地学雑誌Vol.11 No.132 Vol.12 No.135
明治29年6月15日三陸大津浪	大森房吉	1901 震災予防調査報告34
1896年の三陸津浪の波源域および1933年の津波との比較	羽島徳太郎	1967 地震 21

## 昭和8年三陸地震津波

昭和八年三月三日三陸地方津浪に関する論文及報告	東京帝国大学地震研究所	1934	東京帝国大学地震研究所彙報別冊第1号
三陸震災地復舊測量記事	陸地測量部	1934	
三陸津浪に因る被害町村の復興計画報告書	内務大臣官房都市計画課	1934	
三陸地方防潮林造成調査報告書	農林省山林局	1934	
三陸地方津浪災害予防調査報告書	農林省水産局	1934	
昭和八年三月三日三陸強震及津浪報告	中央气象台	1934	験震時報第7巻第2号別冊
三陸沖強震及津浪概報	中央气象台	1933	
岩手県昭和震災誌	岩手県知事官房	1933	
震災災害土木誌	岩手県土木課	1936	
昭和八年震災資料附学事関係救恤報告	岩手県教育会	1934	
昭和八年三月三日地震海嘯に関する概況	岩手県	1933	
昭和八年三月三日三陸津浪調査報告	岩手県盛岡測候所	1933	験震時報第7巻第2号別冊
三陸津浪襲来の動向	林 喬	1933	岩手県水産試験場
震嘯災害救護概況	宮城県	1933	
宮城県昭和震嘯誌	宮城県	1935	
昭和八年三陸震嘯誌	社都文化社	1933	
三陸大震災史	三陸大震災史刊行会	1933	
昭和八年三月三日大海嘯火災の被害並其の後の状況	釜石町役場	1934	
田老村津浪誌	田老尋常高等小学校	1934	岩手県田老町
昭和八年三月三日気仙郡海嘯誌	岩手県立盛農学校	1933	岩手県大船渡市
昭和八年三月三日大槌海嘯略史	鈴木兼三	1933	大槌尋常高等小学校ほか
昭和八年三月三日三陸大海嘯記録	釜石尋常高等小学校郷土研究部	1933	
昭和八年三月三日釜石を中心とした三陸大海嘯印象記	大垣春吉	1933	釜石実科高等学校
釜石を中心とした三陸沿岸大海嘯印象記	大垣春吉	1933	釜石実科高等女学校
三陸地方津浪慰問報告	東京市小学校長会・東京市小学校教員会	1933	
(昭和八年津浪関係文書)	本吉郡農会	1933	宮城県本吉町
赤崎村役場文書(のうち昭和8年三陸地震津波に関するもの)	赤崎村役場	1933~1960	岩手県大船渡市
末崎村役場文書(のうち昭和8年三陸地震津波に関するもの)	末崎村役場	1933~1934	岩手県大船渡市
末崎村議会文書(のうち昭和8年三陸地震津波に関するもの)	末崎村議会	1933~1934	岩手県大船渡市
昭和八年三月三日震災被害調	小友村	1933	陸前高田市小友町
大槌村役場文書(のうち昭和8年三陸地震津波に関するもの)	大槌村役場	1933	岩手県大槌町
船越村復興要覧	船越村	1936	
昭和八年三月三日本村ニ於ケル津波襲来状況	鈴木忠二郎	1933	岩手県山田町船越尋常高等小学校
昭和八年の三陸大津波大船渡町被害の状況	及川宏		岩手県大船渡市
昭和八年三月津波誌	藤岡悦郎	1934	岩手県山田町山田尋常高等小学校
防浪漁村計画	笠間一夫	1933	「建築雑誌」昭和8年6月号
三陸津波(昭和8年)	全国防災協会	1965	「わが国の災害誌」
「宮城教育」(407)		1933	
(408)		1933	
(410)		1933	
三陸沿岸津波踏査予報	江口元起・馬淵精一	1933	斉藤報恩会時報抜刷
昭和八年三月大津浪の地球物理学的観測	中村左衛門太郎	1934	斉藤報恩会時報(88)
岩手年鑑 1934	岩手日報社	1933	
気象要覧	中央气象台	1933	
国際写真情報	国際情報社	1933	第12巻第4号
画報近代百年史 13集	国際文化情報社	1953	
アサヒグラフ臨時増刊三陸震災画報	東京朝日新聞社	1933	
日誌(宿直記事)	大槌尋常高等小学校	1933	岩手県大槌町
只越海嘯前及災害当時ノ図	伊藤良治郎	1933	宮城県唐桑町
昭和8年津波写真	佐藤写真館	1933	岩手県大船渡市
昭和8年津波写真	田老町役場	1933	岩手県田老町
昭和8年津波写真	宮古測候所	1933	岩手県宮古市
つなみ(紙芝居)	田畑ヨシ	1982	岩手県田老町
昭和八年三月三日津波と被害			岩手県釜石市
三陸町崎浜の被害	大船渡市立博物館	1985	

三陸海嘯関係書ほか(昭和8年三陸地震津波に関するもの) 岩手県 1933 永年保存文書のうち昭和8年津波に関する文書 岩手県総務部学事文書

三陸地方海嘯罹災漁村復興調査	大日本水産会	1933	
昭和八年三月三日海嘯災害調書	気仙郡綾里村役場	1933	
津波災害予防ニ関スル注意書	震災予防評議会		
昭和八年三月三日三陸沿岸大海嘯	盛税務署	1933	岩手県大船渡市
岩手県気仙郡下惨害ノ概況			

昭和8年三陸地方災害二伴フ通信省事業関係記録	仙台通信局	1933	
宮古地震の験測	大森房吉	1933	東京帝国大学紀要 理科 11
三陸沿岸浪災復興並に予防施設現況	今村明恒	1936	地震Vol.8 No.5
昭和八年三月三日大海嘯火災の被害並其の後の状況	釜石町役場	1934	

## チリ地震津波

1960年5月24日チリ地震津波踏査速報	チリ津波合同調査班	1960	昭和35年度科学研究費交付金「遠地津波による災害に研究」総合研究
1960年5月24日チリ地震津波に関する論文及び報告	チリ津波合同調査班		
		1960	東京大学地震研究所
チリ地震津波調査報告書	海岸地形とチリ地震津波	建設省国土地理院	1961
チリ地震津波調査報告書付函	建設省国土地理院・建設省河川局海岸課		1960
チリ地震津波速報	気象庁		1960
昭和35年5月24日チリ地震津波調査報告	気象庁		1961 気象庁技術報告第8号
昭和35年5月24日チリ地震津波調査報告	仙台管区气象台		1961 気象協会東北本部
昭和35年5月24日チリ地震津波調査報告(別冊)	仙台管区气象台	1960	気象協会東北本部
昭和35年5月24日チリ地震による津波について	仙台管区气象台	1960	海難防止研究会
チリ地震津波に関する情報等の措置	仙台管区气象台		1960
昭和35年5月24日チリ地震津波続報	仙台管区气象台		1960
チリ地震津波調査報告	福岡管区气象台		1960
チリ地震津波概報	名古屋地方气象台		1960
千葉県チリ地震津波概報	銚子地方气象台		1960
チリ地震津波調査報告	函館海洋气象台		1960
津波概報異常気象報告6002	青森地方气象台、八戸測候所		1960
昭和35年5月24日チリ地震津波調査概報	札幌管区气象台		1960
チリ地震津波概報—北陸地方沿岸における—	富山・金沢・福井方气象台、伏木・輪島・敦賀測候所		1960
チリ地震津波災害に関する総合報告及び所見	第二管区海上保安本部		1960
八戸港を中心としたチリ地震津波資料集覧	運輸省第二港湾建設局八戸港工事事務所		1961
昭和36年度チリ津波水害経済調査報告書	建設省河川局		
チリ地震津波による三陸沿岸被災地の地質学的調査報告	東北大学	1961	東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告第32号

チリ地震	日本建築学会	1960	「建築雑誌」Vol.75 No.891 特集
特集チリ地震津波立法	法令普及会	1960	「時の法令」No.358 抜刷
チリ地震津波特集集号	東北開発研究会	1960	「東北研究」第10巻第5号
チリ地震津波災害に関する調査報告第2報	東北開発研究会	1960	「東北研究」第10巻第6号
チリ地震津波による侵食と堆積について	とくに岩手県三陸海岸高田松原付近を中心として		
	今野丹藏	1960	「東北研究」第12巻第4号
岩手、宮城両県下潮林のチリ地震津波における実態効果と今後のあり方	農林省林業試験場	1962	「林業試験場研究報告」第140号別刷
チリ地震津波災害復興誌	岩手県	1969	岩手県
チリ地震津波災害対策に関する陳情書	岩手県	1960	
チリ地震津波災害救助誌	宮城県	1961	
チリ地震津波	釜石市役所市民課	1961	
大船渡災害誌チリ地震津波	大船渡市	1962	
三陸津波誌チリ地震津波記念	チリ地震津波気仙地区調査委員会	1961	
チリ地震津波誌	大槌町教育委員会	1961	大槌町
チリ地震津波関係資料第1号~第4号	大船渡市	1960	
チリ地震津波災害警備活動の概況	岩手県警察本部	1960	
チリ地震災害記録書	東北電気通信局	1960	
チリ地震津波の実態	三好寿	1960	「自然」第15巻第8号抜刷

## 震災史

震災史			
大日本地震史料 上巻・下巻	震災予防調査会	1904	震災予防調査会報告第46号甲・乙
日本震災史	日本歴史地理学会	1924	日本学術普及会
増訂大日本地震史料第1巻	文部省震災予防評議会	1941	
第2巻・第3巻	〃	1943	
日本地震史料	武者金吉	1951	毎日新聞社
図説日本の地震	神沼克伊他共編	1973	東京大学地震研究所研究速報第9号
資料日本被害地震総覧	宇佐美龍夫	1975	東京大学出版会
日本地震史料 第1巻・第2巻	東京大学地震研究所	1981~1982	
古代地震史	喜田貞吉	1921	日本学術普及会『民族と歴史』特集号
日本地震史	日本学術普及会	1923	『社会研究』第10巻第4号
日本大震災史	古山省吾	1923	『天災の都』付録 南洋書房
叙情日本大震災史	田中貢太郎・高山辰三	1924	教文社
日本の震災	権藤成卿	1932	文芸春秋社
山田町津波誌	村松郁栄・藤井陽一郎	1970	三省堂新書75
岩手県津浪史	森森兵衛	1933	岩手教育11巻6・7・9号抜刷
岩手県沿岸大海嘯取調書	山奈宗真	1896	
本朝地震記	豊 時成	1805	
大地震暦年考	山崎美成	1856	
諸国地震年代記	無震		安成ころ
日本被害津波総覧	渡辺偉夫	1985	東京大学出版会
天変地異に関する調査	東京府学務部社会課	1938	社会調査資料第29号
天変地異 全	小幡篤次郎	1868	

### 地震・津波リスト

本邦ノ津浪ニ関スル調査第1回報告	震災予防調査会	1901	震災予防調査会報告第34号
本邦大地震概説	震災予防調査会	1913	〃 第68号(乙)
本邦大地震概表	大森房吉	1920	〃 第88号(乙)
本邦大地震概表	本邦大地震概表	1935	験震時報8
本邦津波年代表	今村明恒	1949	地震Vol.12 No.1

日本における大地震の記録	気象庁	1957	駿震時報22別冊
日本付近の主要地震の表(1926 ~1956)	気象庁	日本気象協会	1958 地震月報別冊 1
日本付近の主要地震の表(1957 ~1962)	気象庁	日本気象協会	1967 地震月報別冊 2
日本付近の地域別地震表	気象庁	日本気象協会	1972 地震月報別冊 4
最近の顕著な地震の表	勝又 護	1952	駿震時報16
最近の顕著な地震の表(1951 ~1960)	勝又 護	1962	駿震時報26
最近の顕著な地震の表(1961 ~1970)	勝又 護・徳永規一	1971	駿震時報36
日本付近における主な地震の規模表	中央気象台	1952	
1611~1960年の北海道における地震活動	気象庁・札幌管区気象台	1962	気象庁技術報告第20号
日本における震度観測の記録	気象庁地震課	1971	" 第76号
日本付近の地域・海域別の被害地震、津浪地震の表および震度分布図	気象庁	1983	
日本付近の地震活動分布図、特に無地震帯の分布について	気象研究所地震研究部	1972	気象庁技術報告第81号
日本付近のおもな被害地震の表	宇佐美龍夫	1966	地震研究所彙報44
日本付近の被害地震年代表	宇佐美龍夫	1983	理科年表(昭和59年度版)丸善
日本およびその周辺の津波の表	渡部偉夫	1968	地震 21
三陸沖地震津波調査概報	仙台管区気象台	1960	
特集東北地方に襲来した外国地震津波	仙台管区気象台	1979	東北技術だより第 100号
東北地方に襲来した日本付近の地震津波	仙台管区気象台	1980	
東北地方とその近海における地震活動	仙台管区気象台	1983	気象庁技術報告第104号
宮城県 60年間の異常気象	仙台管区気象台	1967	気象庁技術報告第56号
福島県 60年間の異常気象	福島地方気象台	1968	気象庁技術報告第65号
青森県 60年間の異常気象	青森地方気象台	1970	気象庁技術報告第73号
岩手県 60年間の異常気象	盛岡地方気象台・気象庁	1972	気象庁技術報告第78号
青森県の地震津波	青森地方気象台	1970	
1611~1960年の北海道における地震活動	札幌管区気象台	1962	気象庁技術報告第20号
本邦および房総の地震津波	千葉県銚子測候所	1920	
過去の地震記録	保険研究所	1965	インシュアランス 2月25日・3月4日・3月11日号
三陸地方津浪実況取調報告	伊木常誠	1897	震災予防調査会報告第11号
日本付近の主要地震の表	気象庁	1968	地震月報別冊 3
過去に於ける太平洋沿岸北部地区津波記録	八戸測候所		津波概報異常気象報告6002
東北地方の大地震	青森地方気象台		青森県の地震津波
三陸地方地震津波年表	盛農学校		気仙郡海嘯誌
Chile Peru 付近の大地震の表、南米における津波地震表	仙台管区気象台		チリ地震津波速報
津波一覧表	釜石市誌編集委員会		鶴住居小史資料編
津波年表	山田町津波誌編集委員会		山田町津波誌
三陸沿岸津波一覧	岩手県土木課		震災災害土木誌
太平洋地域(日本・琉球・千島を除く)における地震津波の表	宇津徳治	1966	駿震時報30
東京地震観測(明治5年9月~大正12年12月)	保田柱二ほか	1938	震災予防評議会

#### 災害年表

岩手県災異年表	中央気象台盛岡支台	1938	岩手県湯浅村
"	盛岡測候所日	1954	日本積雪連合岩手県本部19
"	盛岡地方気象台・岩手県	1979	
宮城県気象災異年表	仙台管区気象台	1963	
陸中の気象100年 宮古気象百年史	宮古測候所	1983	
岩手県気候誌	盛岡地方気象台	1966	気象協会盛岡支部
東北の気象業務	仙台管区気象台	1982	
東北地方古今凶謹誌	盛岡高等農林学校	1936	
岩手県災害関係行政資料Ⅰ・Ⅱ	災害関係資料等整備調査委員会	1984	
岩手県南災害表	岩手県	1963	岩手県史第4巻近世編
災害年表	宮城県史編集委員会		宮城県史第22巻 宮城県史刊行会
わが国の災害誌	全国防災協会	1965	
日本の災害	西川 泰	1973	岩手日報社
南三陸災害史	西田	1978	N S K地方出版
元龜以来岩手県沿岸漁民溺死集	山奈宗真	1896	釜石市誌
東北地方凶作に関する史的調査	積雪地方農村経済調査所	1935	
東北地方の気候	仙台管区気象台	1951	津波の部
日本災異誌			
宮城県涌谷町付近災異誌	高木健 蒐録	1943	
災害の歴史	荒川委俊	1965	
災害史年表	荒川委俊・宇佐美龍夫	1985	
日本高潮史料	気象研究所監修	1961	気象シリーズ1 吉川弘文館
宮城県涌谷町付近災異年表	中央気象台	1943	中央気象台彙報第20冊

#### 地方史(誌)

##### 地方史(誌)

岩手県史 第4・8・10・12巻	岩手県	1953、1964、1965、1966	杜陵印刷
岩手県郷土読本 下巻	岩手県教育会	1930	
岩手県郷土誌(田老)	岩手県教育会	1940	
岩手近代百年史	森 喜兵衛	1974	岩手県
岩手の歴史	森 喜兵衛	1954	山川出版社
岩手の変遷五十年	沢田勝郎	1951	新岩手社
わが郷土岩手県	佐々木久蔵	1949	
岩手県新誌	横田幸八	1950	
盛岡市史	盛岡市史編集委員会	1956	盛岡市
宮古市史 資料集近世一	宮古市教育委員会	1984	宮古市
宮古のあゆみ	宮古郷土誌編集委員会	1974	宮古市

江刺市史 第 巻			
一関市史 第 巻			
花巻市史 第 巻			
釜石市誌 鶴住居小史資料編	釜石市誌編集委員会	1966	釜石市役所
釜石市誌 史料編一・二・三、通史	釜石市誌編集委員会	1960~1977	釜石市
釜石郷土文化資料1~10	観音寺土曜会	1954~	
釜石郷土資料	釜石尋常高等小学校		
釜石小史資料(二)	釜石市誌編集委員会	1970	
市制記念釜石大観	加茂久一郎	1938	釜石大観編集部
郷土誌観浦史話	沢内勇三	1955	郷土史同好会
根岬の郷土史	白井源之進	1966	釜石市
大船渡市史 第2巻沿革編・3巻通史上	大船渡市史編集委員会	1979~1980	大船渡市
わたしたちの普代	普代村教育委員会	1977	岩手県普代村
小袖部落の近代史	大向直三	1978	宮古市
大槌町史 上・下巻	大槌町史編集委員会	1966~1985	岩手県大槌町
二戸町誌 第 巻			
九戸郡誌	岩手県教育会九戸郡部会	1936	
九戸地方史 下巻	森 喜兵衛	1970	九戸地方史刊行会
岩泉地方史 下巻	関口多喜路	1980	岩泉教育委員会
気仙郡誌	岩手県教育会気仙郡部会	1910	
上閉伊郡志	岩手県教育会上閉伊郡部会	1913	
岩手県下閉伊郡誌	岩手県教育会下閉伊郡部会	1922	
下閉伊郡大沢村村史概要	大沢小学校	1936	宮古市
田野畑村史	田野畑村史編集委員会	1985	岩手県田野畑村
大南部野田領誌	宇部政雄・中野勝志	1978	大正13年発行の復刻 岩手県野田村
気仙郡綾里村誌	三上陽三	1933	綾里尋常高等小学校 岩手県三陸町 大正12年発行の復刻
赤崎村史料	岩崎浅之助	1919	赤崎村 岩手県大船渡市
末崎村誌	岩崎浅之助	1927	末崎村 岩手県大船渡市
小友村誌	山田三義	1924	小友村 岩手県陸前高田市
宮城県史 8土木編、22災害	宮城県史編集委員会	19	~1962 宮城県中央刊行会
石巻市史 2巻	石巻市史編集委員会	1956	石巻市
宮城郡誌	宮城郡教育会	1928	
大島誌	大島郷土誌刊行委員会	1982	宮城県気仙沼市
女川町誌		1960	宮城県女川町
本吉郡誌	本吉郡誌編集委員会	1949	本吉郡町村長会 宮城県本吉町
本吉町誌	本吉町誌編集委員会	1982	本吉町
刈田郡誌	刈田郡教育会	1928	
気仙沼町誌	気仙沼町役場	1953	宮城県気仙沼市
唐桑町史	唐桑町	1968	宮城県唐桑町
歌津村誌	伊里前尋常高等小学校	1916	宮城県歌津町
牡鹿郡誌	牡鹿郡役所	1923	宮城県石巻市
雄勝町史		1966	宮城県雄勝町
登米郡誌	登米郡役所	1923	宮城県
栗原郡誌	栗原郡教育会	1918	宮城県
加美郡誌	加美郡教育会	1925	宮城県
志田郡沿革誌	志田郡役所	1912	宮城県
遠田郡誌	遠田郡教育会	1926	宮城県

#### 産業史ほか

岩手県漁港三十年史	岩手県漁港三十年史編集委員会	1982	岩手県漁港協会
岩手県漁連20年誌	岩手県漁業協同組合連合会	1970	
大槌漁業史	大槌町漁業協同組合	1980	岩手県大槌町
広田漁業史	広田漁業史編集委員会	1976	広田漁業協同組合
東北の土木史	土木学会東北支部	1969	
岩手県議会史 第1巻、第3巻	岩手県議会議務局	1961	岩手県議会
岩手近代教育史 第1巻、第2巻	岩手県教育委員会	1981	
気仙郡綾里村郷土教育資料	綾里尋常高等小学校	1940	岩手県三陸町
気仙郡越喜来村郷土教育資料	崎浜尋常高等小学校		岩手県三陸町
綾里小学校沿革誌	綾里小学校	1901	岩手県三陸町
大槌郷土教育資料		1940	岩手県大槌町
広田村郷土教育資料	広田尋常高等小学校・広田実業補習学校	1981	1932年発行の復刻 岩手県陸前高田町

岩手県警察史	及川常作	1957	岩手県警察本部
岩手県警察史 第2巻	岩手県警察本部	1979	
盛警察署誌	小野寺賢十	1935	盛警察署 岩手県大船渡市
釜石警察署誌	釜石警察署	1955	
宮古消防団史	宮古消防団史編集委員会	1982	宮古消防団
岩手をつくる人々 近代編下巻		1974	法政大学出版局
海鳴りの記 三陸漁業のあゆみ	小松宗夫	1974	宮城県北部鮭鱈業協同組合
豆手帳から	柳田国男	1920	
海のむかし話	奥寺 正	1977	
三陸物語	金野静一	1978	トリョウコム
大槌の民話	大槌の民話編集委員会	1930	岩手県大槌町
気仙夜話	金野静一	1968	陸前高田市史学同好会
広田風土記 泊、中沢浜	小林 馨	1980	岩手県陸前高田市
陸中海岸風土記	小島俊一		
陸中海岸の石仏	小島俊一	1985	
とっておきばなし陸中海岸	宮古閉伊藤秘話 小島俊一	1979	
宮古史話	花城蔵之助	1974	
みやこわか町 第9号	陸中タイムス	1978	
三陸のむかしがたり	三陸町老人クラブ連合会	1982~	岩手県三陸町

歌集 ふるさとの海	駒井雅三	
翠村記	鈴木翠村	1980
大友常重郎遺稿集	大友重人	1985
ふるさとの想い出写真集	明治大正昭和 釜石、宮古 国書刊行会	1979
岩手百科事典	岩手放送岩手百科事典発行本部	1978
明治ニュース辞典	明治ニュース辞典編集委員会	
日本消防 第9号	日本消防協会	1980
画報近代百年史 第13集	国際文化情報社	1953
大日本寺院総覧	堀 元蔵	1916
岩手県沿岸古地名考	山奈宗真	1903
気仙沼かわら版		

## 地方年表

岩手県郷土史年表	田中喜多美編	1972	万葉堂書店
釜石市誌 年表	釜石市誌編集委員会	1965	釜石市
気仙年代表	岩崎浅之助	1972	陸前高田市郷土史研究会
気仙郡郷土史年表	米谷定一		
大槌地方年表	沢館栄一・黒沢千穂子	1985	
野田村郷土史年表	野田村教育委員会	1981	
種市町史年表	種市町教育委員会・種市町史年表研究会	1972	
重訂宮城県郷土史年表	菊池勝之助	1972	
若柳年代表			
野田村郷土史年表	野田村教育委員会	1981	
盛藩年表	中島高寛編		
仙台藩治中気仙郡年代表			循海日戔附録
岩手県漁業史年表		1984	岩手県漁業史
広田漁業史年表		1976	広田漁業史
仙台年表	矢島玄亮	1985	
南部叢書年表	南部叢書刊行会	1971	南部叢書索引 歴史図書社
武江年表	斉藤月岑	嘉永 2～3	
泰平年表	大野廣城	天保 2	
沢内年代記	太田祖電	1967	沢内村教育委員会

## 2. 防 災

### 防 災

#### 津 波

三陸沿岸津波読本	仙台管区気象台	1964	気象協会東北本部
地震・火山のはなし その監視、予知体制について	日本経済教育センター	1985	図説経済教育資料No82
三陸沿岸の津波対策	運輸省第2港湾建設局横浜調査設計事務所	1978	
三陸沿岸地方の津波対策	岩手県教育会	1951	
災害と教育	岩手県教育委員会	1960	
地震、海鳴り、ほら津波	三沢市		防災パンフレット
田老町の津波防災対策事業	田老町総務課		リーフレット
津波と防災	田老町総務課	1960	
防災の町 田老町誌第1集	田老町誌編集委員会	1971	田老町教育委員会
津浪のよけ方	森田 稔	1946	仙台管区気象台
津波災害を防ごう	気象庁	1984	リーフレット
防浪漁村計画―三陸津浪の被害を論拠として	日本建築学会	1933	
三陸沿岸津波対策	運輸省第2港湾建設局横浜調査設計事務所	1978	
地震並津波の常識	釜石小学校郷土教育研究所	1933	
三陸大津波警備計画	岩手県警察本部	1972	

#### 地 震

大地震にこう備えよう	科学技術庁国立防災科学技術センター	1969	
大地震の時の心得に関する報告	総理府資源調査会	1956	資料調査会報告第23号
大地震―その知識と心構え	日本気象協会	1968	
もし大地震が起こったら―その対策と処置―	日本気象協会	1965	
地震・その監視と防災	気象庁	1982	
震度とマグニチュード	気象庁	1985	
防災読本―もし大地震が起きたら―	国土防災問題研究会編	1973	有朋社
地震・火山災害	高木宗俊	1967	自然災害・公害対策技術シリーズNo.7 公害と防災編集委員会編 白亜書房
地震の心得	消防庁	1972	
自主防災組織の手引き	消防庁	1973	
特集 地震と都市	東京市政調査会	1965	都市問題Vol.56 No.9
防災のてびき―大地震に備えて―	東京消防防災部広報課		
地震の強さと被害	東京消防防災部防災指導課	1975	
都民のための地震の心得	東京都総務局災害対策部	1983	
地震の話―先生のための話題―	横浜市総務局災害対策室	1983	
大地震のときの心得	久慈市消防本部	1968	リーフレット
地震に備える―あなたの防災対策	NHK社会部編	1971	日本放送出版協会
地震災害	河角 広 編	1973	防災科学技術シリーズ 共立出版
地震 その科学と防災	飯田波事	1972	北隆館
地震と都市防災	藤井陽一郎ほか	1973	新日本新書 177 新日本出版社
地震と都市 壊滅の危機と防災	村上處直	1973	日経新書 192 日本経済新聞社
地震と都市防災	藤井陽一郎・村上處直	1972	新日本出版社
大地震から身を守る法 天災・人災のなかを運しく生きるために	和達清夫校閲	1973	佼成出版社
地震と建築	大崎順彦	1983	岩波新書 岩波書店
地震列島	朝日新聞社	1973	

特集超大地震への警告 ―もしも大地震が襲ってきたら―	科学朝日編集部	1968	科学朝日 9月号
地震 予知と防災	朝日新聞社編	1975	
大地震に予告はない	本多喜久夫	1968	リック社
大地震の恐怖 ―その時のために―	本多喜久夫	1971	双葉社
大都市崩壊のとき	本多喜久夫	1969	リック社
大地震の前後 災害は忘れたころにやってくる	木村耕三	1968	総合サイエンス・ライブラリー15
三陸からの警告 「巨大地震を考えよう」新・天災と国防序説	木村耕三	1984	
都市と災害	秋元律郎	1982	現代のエスプリ No.181
イザという時どう逃げるか―防災の行動学―	安部北夫	1973	日本損害保険協会
大地震！あなたの住いは大丈夫か	木田喜弘	1975	サンケイ新聞出版局
大地震―教訓と備え	瀬沼徳次郎監修	1971	株式経済新聞社出版局
都市直下地震―その時何が起るか	小林啓美編	1975	日本経済新聞社
あなたは生き残れるか	毎日新聞社会部	1973	広済堂出版
地震災害	地学団体研究会	1977	新地学教育講座16
日本海中部地震に学ぶもの 人間サイドから	安部北夫	1983	予防時報135
学校防災で考えるべき8つの基本要素	小林治	1984	予防時報139
災害情報の伝達と対応 デマ情報による地震騒動	力武常次	1983	予防時報135
日本の震災	藤井陽一郎・村松郁栄	1971	三省堂新書75 三省堂
地震と防災	総理府	1981	時の動き 政府の窓 3月20臨時号
地震予知情報への対応	東京大学新聞研究所		「地震と情報」研究班 1978
地震情報の伝達と住民の反応―いわゆる「余震情報パニック」に関する事例研究	東京大学新聞研究所		「地震と情報」研究班 1978
耐震構造学	金多 潔	1976	朝倉建築工学講座 朝倉書店
地震と耐震設計	大屋竹之	1975	横書店
最新耐震工学	大原資生	1974	最新土木工学シリーズ 森北出版
地震と建築	久保俊彦	1974	鹿島研究所出版会
鉄筋コンクリート建物の動的耐震設計法	梅村 魁	1973	技報堂
耐震工学	岡本舜三	1971	オーム社
地震工学	金井 清	1969	共立出版 大学講座土木工学
耐震構造設計者のための「日本列島大地震図譜」	岡本舜三	1968	オーム社
第二関東大地震―その時どうする	伊佐喬三	1975	読売新聞社
大避難―近づくマグニチュード7の大地震への対応 防災対策協議会編		1974	日本シェル出版
東京の地震を考える	日本科学者会議編	1971	クリエイト社
大地震マグニチュード7. 9-100 万人が死ぬ日本大地震 全国加除法令出版編		1971	
地震と対策―地震にどう備えるか	インダストリー・ランド・センター編	1971	
地震・振動学	建築学体系編集委員会	1968	建築学体系11 彰国社
土木振動学	小坪清真	1973	森北出版
地震と都市	東京市政調査会	1965	都市問題 第56巻第9号
地震の強さと被害	東京消防庁防災部防災指導課	1975	

## 3. 一 般

### 津 波

三陸地方の津浪に依る聚落移動1-3	田中館秀三・山口弥一郎	1938	斉藤報恩会時報141、142、143
三陸地方南部に於ける津浪の依る聚落移動	山口弥一郎	1937	斉藤報恩会時報126
津波と漁村 三陸津波災害史	山口弥一郎	1970	地理5(11)
津浪常襲地三陸海岸地域の集落移動	山口弥一郎	1967	東北地方農村生活研究所
陸奥東部沿岸の漁村―津浪による集落の占居形態の研究4	山口弥一郎	1955	東北研究5(5)
三陸の津波	山口弥一郎	1960	日本地誌ゼミナール
災害常習地の集落の構成と機能	山口弥一郎	1958	集落地理講座 3
大船渡における三陸津波の浸水域の推定	大里修平	1985	第34回洪水予報技術研究会研究論文集
津波の跡を訪ねて 津波襲来地点標石の調査	大里修平	1985	気象庁研究時報36巻別冊
津波襲来地点標石の分布	大船渡測候所	1985	
津波常襲地域総合防災対策調査報告書要約	建設省河川局	1983	
地震と災害 研究成果普及版	自然災害科学技術庁総合研究版	1982	
災害常襲地域における住民の「災害観」に関する調査報告その1	東京大学新聞研究所		「地震と情報」研究班 1982
地震被害予測システム研究開発報告書	津波による浸水域及び避難について 消防化学防災センター	1984	
総合的災害情報システムに関する調査研究	自治省消防庁防災課	1981	
海の壁 三陸沿岸大津波	吉村 昭	1970	中公新書224 中央公論社
宮城県の大海嘯譚―貞観11年の大地震大海嘯と多賀城の破壊及び「末の松山浪越さず」の古歌	海嘯と多賀城の破壊及び「末の松山浪越さず」の古歌	1931	宮城県人7(7)
貞観11年陸奥府城の震動洪溢	吉田東伍	1975	日本歴史地理の研究(1923)の復刻
三陸津波・チリ津波	高橋博ほか	1979	地震防災
三陸へ逃げる	木村耕三	1974	二見書房
田舎での国際シンポジウム	三好 寿	1981	東京水産大学園だよりNo.31
三陸大津波		1972	みやぎ(70)図書館だより
三陸沿岸海嘯史		1933	東京日日岩手版
伊豆地震の教訓	福岡正巳		時事展望
波・津波―海洋学への招待	三好 寿	1971	河出書房新社 科学選書
ビキニ・津波・うらみ 南太平洋の探検とチリ津波	三好 寿	1963	
津波・高潮・海洋災害	和達清夫	1970	防災科学技術シリーズ2 共立出版
歴史地震 古記録は語る	宇佐美龍夫	1976	イルカぶっくす8 海洋出版
津浪と村	山口弥一郎	1943	恒春閣書房
津波と高潮	宮崎正衛		海洋科学基礎講座 3巻
哀史三陸大津波	山下文男	1982	青磁社
陸中実録つなみ	生出泰一	1978	図書出版社河童仙
地震津浪の話	科学技術普及班	1949	
津浪と高潮	中野猿人	1950	

津波あれこれ	武久義彦	1960	「地理」(5)11
津波による人的被害についての一考察	砂村継夫	1969	「地学雑誌」78巻-6
東北日本太平洋側における津波の波源	羽鳥徳太郎	1974	「地震」27
三陸沖の歴史津波の規模と推定波源域	羽鳥徳太郎	1975	「東京大学地震研究所彙報」第50号4
三陸沖津波の波源位置と伝播の様相	羽鳥徳太郎	1976	「東京大学地震研究所彙報」第51号3
歴史津波-その挙動を探る-	羽鳥徳太郎	1977	イルカぶっくす 海洋出版
防災地形	水谷武司	1982	
地震と津波	和達清夫・広野卓蔵	1955	同和春秋社
地震と津波-予知は可能か-	山口生知	1952	古近書院
地震と津波	鷺坂清信	1949	目黒書店
*「海洋の科学」	Vol. 2, No. 2	特集 津浪	1942 日本海洋学会
「海洋科学」	Vol. 9, No. 2	特集 津波	1977 三好 寿ほか
「海洋科学」	Vol. 11, No. 1	特集 続・津波	1979 三好 寿ほか
「海洋科学」	Vol. 12, No. 7	特集 第3・津波	1980 三好 寿ほか
「海洋科学」	Vol. 14, No. 11	特集 セイシュと津波	1982 三好 寿ほか
「地球」	Vol. 1, No. 4	特集 東海地震(2)	1985 梶浦欣二郎ほか
「地球」	Vol. 1, No. 7	特集 地震予知	1979 末広重二ほか
「気象」	No. 221	特集 地震予知	1975 勝又護ほか
「日本の科学と技術」	Vol. 17, No. 9	特集 地震	1976 竹内均ほか
「数理科学」	Vol. 10, No. 103	特集 地球	1972 宇津徳治ほか
「科学朝日」	Vol. 38, No. 6	特集 変動する地球	1978 杉村新ほか
「科学朝日」	Vol. 34, No. 3	特集 いま日本の底では	1974 力武常次ほか
「科学朝日」	Vol. 42, No. 6	特集 地震	1982 浅田敏ほか

## 地震

### 地震

地震の理論とその応用	松沢武雄	1976	東京大学出版会
地震の科学	笠原慶一	1959	恒星社厚生閣
新・地震の話	坪井忠二	1967	岩波新書642 岩波書店
地震・火山・岩石物性	宮村攝三	1968	地球科学講座第6巻
新版日本の地震	鈴木尉元	1985	築地書館
地震にいとむ科学技術	諏訪 彰	1975	「日本の科学と技術」Vol. 16, No. 172
地震の科学	竹内 均	1973	NHKブックス181 日本放送出版協会
地震の謎に挑戦する	竹内 均	1973	「サイエンス」日本版Vol. 3, No. 1
日本列島は生きている	竹内 均	1968	読売新聞科学報道部
鯨のざれごと	今村明恒	1941	
魚と地震	末広恭雄	1957	新潮社
地震	本多喜久夫	1969	ルック社
地震の常識入門心得帳	力武常次	1982	
地震を追って-アメリカの研究生活	力武常次	1975	玉川大学出版部
日本各地の地震危険度	力武常次	1981	サイエンス選書N-18
地震と情報	宇佐美龍夫	1974	岩波新書914 岩波書店
地震-そのメカニズムと防災	宇佐美龍夫	1985	NHK市民大学4~6月期
東京地震地図	宇佐美龍夫	1983	新潮選書 新潮社
地震学	宇津徳治	1977	共立全書
地震の震度階解説表	東京都総務局災害対策部	1980	
学術用語集 地震学編	文部省	1974	日本学術振興会
日本の地震学-その歴史的展望と課題	藤井陽一郎	1967	紀伊国屋新書 紀伊国屋書店
写真・図説「地震」	藤井陽一郎	1979	
「地震」地震学者と地質学者との対話	松山隆二・星野通平・早川正巳	1980	
地震と活断層の本	小出仁・山崎晴雄・加藤碩一	1979	
地震の科学	地震学会	1979	カラーブックス476
大地震	伊佐喬三	1975	読売新聞社
地震学百年	萩原尊禮	1982	東京大学出版会
地震の事典	萩原尊禮	1983	
古地震-歴史資料と活断層からさぐる	萩原尊禮ほか	1982	東京大学出版会
地震	浅田 敏	1972	東京大学出版会
全国強震観測地点台帳 -北海道・東北	強震観測事業推進連絡会議	1972	国立防災科学技術センター
・東京・関東-			
中国の最近における地震予知に関する研究	国立防災科学技術センター	1975	防災科学技術研究資料第18
地震とその予知 地震対策のために	建設所国土地理院	1972	
地震への挑戦 予知のための基礎知識	萩原尊禮	1972	ブルーバックスB-199 講談社
地震の予知	萩原尊禮	1966	地学出版社
地震予知	力武常次	1974	中公新書376 中央公論社
地震を探る 予知へのアプローチ	力武常次・山崎良雄	1975	東海科学選書 東海大学出版会
巨大地震 発生メカニズムと予知への挑戦	力武常次	1976	ブルーバックスB-295 講談社
地震予知論入門	力武常次	1976	共立全書 共立出版
実用化をめざす地震予知-予知体制と実施基準	力武常次	1983	「科学」Vol. 53 No. 11
地震先行現象と地震予知	力武常次	1973	「科学」Vol. 48 No. 1
「海域地震」予知成功のレポート	力武常次	1979	共立科学ブックス42
「宏観異常と地震」中国の予知成功例をみる	力武常次	1979	共立科学ブックス41
地震の予知とその制御	力武常次	1974	サイエンス日本版Vol. 4, No. 1
地震予知	F. プレス	1975	サイエンス日本版Vol. 5, No. 7
地震予知-方法的な考察-	壇原 毅	1976	イルカぶっくす2 海洋出版
地震、発生・災害・予知	浅田 敏	1972	UP選書109 東京大学出版会
関東・東海地震と予知	浅田 敏	1984	
地震予知の方法	浅田 敏	1978	東京大学出版会
日本の地震予知	茂木清夫	1982	サイエンス社

ナマズ地震感知性-絶望的な地震予報に活路を開く	末広恭雄	1976	NON・Book104 祥伝社
動物は地震を予知する	ヘルム・トリプフ	1985	朝日選書277
災害予知ことわざ辞典	大俊美保	1985	
新しい地球観	上田誠也	1971	岩波新書
学術用語集-地震学編	文部省編	1974	日本学術振興会 丸善
関東地方の地震と地殻変動	垣見俊弘・鈴木尉元編	1974	ラティス
地震・火山・岩石物性	宮村攝三編	1968	地球科学講座6 共立出版
三陸沖の地震の震源分布	市川政治	1979	験震時報 43-3・4
地域防災データ総覧 地震災害・火山災害	消防科学総合センター	1984	
日本の地震学の概観	地震学会	1967	「地震」第20巻第4号特集号
地震なまず	武者金吉	1957	東洋図書
地震光り物資料	中村左衛門太郎	1932	斉藤報書会時報64号
大地震を探る	中村左衛門太郎	1942	河出書房 科学新書36
地震に伴ふ発光現象の研究及び資料	武者金吉	1932	岩波書店
地震の征服	今村明恒	1926	南部社
地震とその研究	石本巳四雄	1935	古今書店
地震の国	今村明恒	1949	文藝春秋社
地震	林 健太郎	1976	東京大学公開講座24 東京大学出版会
地殻活動と地震予知	建設省国土地理院	1968	「建設月報」第233号
天災と国防	寺田寅彦	1942	岩波新書4 岩波書店
天災と地交	高崎 壽	1949	全国師範学校歴史教育研究会編
*「地球」	Vol. 1 No. 7	特集 地震予知(末広重二ほか)	
「地球」	Vol. 1 No. 8	特集 活断層(垣見俊弘ほか)	
「気象」	No. 221	特集 地震予知(勝又護ほか)	
「日本の科学と技術」	Vol. 17 No. 181	特集 地震(竹内均ほか)	
「数理科学」	Vol. 10 No. 103	特集 地球(宇津徳治ほか)	
「科学朝日」	Vol. 38 No. 6	特集 変動する地球(杉村新ほか)	
「科学朝日」		特集 今日本の底では(力武常次ほか)	
「科学朝日」	Vol. 42 No. 6	特集 地震(浅田敏ほか)	

### 児童図書

地球たんけん	斉藤靖二	1981	なぜなぜ理科学習まんが8
地震のひみつ	力武常次・安部北夫	1983	学習まんが(ひみつシリーズ)
大地の動きをさぐる	杉村 新	1973	岩波科学の本8 岩波書店
地震と火山のふしぎ	大竹政和	1981	小学科学のおもしろ図鑑
変動する地球	斉藤靖二	1984	岩波ジュニア科学講座8
地球	斉藤靖二	1984	ジュニア図鑑百科6
地震・プレート・陸と海	深尾良夫	1985	岩波ジュニア新書92
岩手の理科ものがたり	片岡佐太郎	1982	岩手県科学教育研究連合会
地震のなぞをさぐる	渡辺景隆	1985	こどもものしりゼミナール13
ちきゅう	斉藤靖二	1983	子供学習まんが2
沈黙の世界	三宅泰雄	1976	クストー海の百科11
地震をさぐる	島村英紀	1982	日本少年文庫 国土社
じしんとあんぜん 1、2ねん(地しんと安全 3、4年/地震と安全 5、6年)			東京都総務局災害対策本部ほか 1975
じしんとわたしたち 1、2ねん(地しんとわたしたち 3、4年/地震と私たち 5、6年)			横浜市総務局災害対策室ほか 1974



## 後 記

大船渡を含む気仙地域を中心とした、極めて対象範囲を限定した歴史地震・津波年表が本誌作成の原点であった。三陸沿岸の歴史地震の活動、或は歴史津波襲来の状況の、その一端は把握できたのではないかと考える。

年表の作成過程で、安永元年5月3日(1772年6月3日)の地震と岩手県中部沿岸地震(1987年1月29日)の地震との類似性を指摘し、また元禄12年12月8日(1700年1月27日)の津波についての可能性を認めることができた。

本年表作成にあたって、以下の多くの方々からさまざまなご指導、ご援助、ご協力を賜った。特に、同僚金野良一学芸員には、資料調査・整理等について有益なご教示を戴いた。心から謝意を表し、ここに記してお礼を申し上げる。

宇佐美龍夫	三好 寿	渡辺 健
中嶋一造	田畑ヨシ	佐々木健
沢館栄吉	三浦祐次	三浦光太郎
鶴藤 清	阿部彰晤	後藤 典
千田基久兵衛	藤原良信	鈴木富貴子
岩脇正義	熊谷作治	大西啓一
新沼 通	及川初野	熊谷 真
渡辺兼雄	平山憲治	近藤民弥
田老町役場総務課	宮古市教育委員会市史編纂室	
山田町教育委員会	山田町立図書館	
大槌町教育委員会	小槌神社	
釜石市教育委員会	遠野市立博物館	
運輸省第二港湾建設局宮古工事事務所釜石工場		
唐桑半島ビジターセンター	気仙沼市立図書館	
本吉町立図書館	歌津町史編纂委員会	
東北歴史資料館	陸前高田市立図書館	
麟祥寺	長源寺	
洞雲寺	大船渡市立赤崎中学校	
岩手県立大船渡高等学校	岩手県立博物館	
大船渡測候所	岩手県消防防災課	
大船渡市都市計画課		
山川 健	黒沼芳朗	佐々木一樹
村井康典	齊藤徹行	金 良司
古沢芳治	平山慶太郎	木下精吾
三上 護	菅野早苗	古座恵美子
浜守あゆみ	種田千里	熊上恵理子
近藤美香	山本 豊	柏崎征治郎
及川吉郎	佐藤裕子	佐藤ゆい (敬称略、順不同)

### 大船渡市立博物館研究報告

### 三陸沿岸地震・津波年表

— 東北地方太平洋側における歴史地震・歴史津波

1990年3月31日発行

発行：大船渡市立博物館

〒022 岩手県大船渡市末崎町字大浜221-86

TEL 0192-29-2161

印刷：有限会社共和印刷(大船渡市)

データ入力…キャノワードα100  
コンバート…NEC9801  
出 力…富士通IPS